カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

年頭の願い

—真にキリスト教的家庭を—

福岡教区長司教 平田三郎

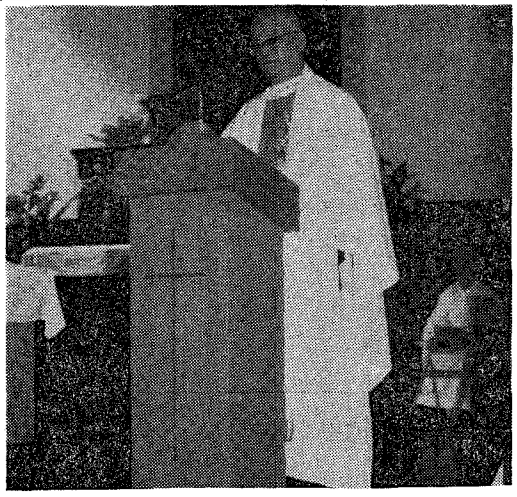
一九八〇年の新春を迎えるにあたって、教区の司祭・修道者・信徒の皆さまに心から新年の挨拶をおくり、神の豊かな祝福を祈ります。

ところで、今秋ローマで開催予定の世界司教会議では「現代におけるキリスト教家庭」の問題が討議されることになっていますので、わたしは新らしい年のはじめに、皆さまとともに、真のキリスト教的家庭について、考えてみたいと思います。

一、危機にある家庭

教会は伝統的に、「個人の幸福、ならびに一般社会とキリスト教的社会の幸福は、婚姻および家庭と呼ばれる共同体の健全な状態に堅く結ばれている」（現代世界憲章47）と教えます。しかし現代社会ではその逆に、家庭の無視や崩壊の上に個人の幸福や社会の繁栄を築こうとする、まことに不思議な風潮が強くなっているように思えるのです。離婚の流行、婚前交渉や堕胎の風潮、尊いはずの夫婦愛さえも、利己主義や快楽主義、そして不道徳な避妊手段によって汚され、崩壊されている現状のなかで、健全な家庭の建設や子供の理想的教育、そして幸福な社会の真の発達が実現されるはずはないのです。

もちろん、このような問題は単に宗教、道徳的問題だけではなく、現代の経済、社会、心理、政治的条件にも起因するものですから、その解決も複雑かつ困難であることは明らかですが、しかしだからこそ、わたしたちはたとえ微力ではあっても、できるだけの努力を惜んではならないのです。その意味でも、今秋の世界司教会議の議題は、時宜に適ったものと喜び、その成果を大いに期待したいと思います。



平田福岡司教

二、危機にある家庭の救い

結婚は創造主によって制定され、法則を与えられたものですから、もはや「二人ではなく一体である」（マタイ19の6）結婚契約当事者たちの、結婚の目的を実現するための撤回できない同意と自己奉献を基礎として成立します。

ところで、結婚の本質的目的には、夫婦間の不解消の一致への相互の愛を深め、完徳への道を歩むことと同時に、子供を生み、育てることにあることをけっして忘れてはなりません。

夫婦は「人間の生命を伝達する」という尊い任務をもっています。だから、不道徳な避妊行為はそれ自体、結婚の目的を破壊し、結婚の神聖さをゆがめるものですが、とくに、堕胎と幼児殺害は、たとえいかなる理由があるにせよ、もっとも恐るべき罪であることを記憶すべきです。

さらに、子供の教育は、現代の重大な問題の一つです。教育とは、人間の人間的完成でありますから、ただ知的、肉体的面だけでなく、とくに、信仰、道徳、宗教教育による人間の完成が不可欠の条件として求められており、そしてこの教育は、人間完成の場である健全な家庭において施されるということを決して忘れてはなりません。社会は、家庭という最少の社会から成り立っており、これが健全であれば、一般社会も健康になって行きます。「家庭教会」が聖であればあるほど「小教区教会」も聖となるでしょう。

いずれにせよ、結婚の諸目的を最も理想的に実現し、人間完成の場となり、平和な社会建設の基礎となるのが家庭なのです。ここに家庭の重要さが叫ばれる根拠があるわけです。

むすび

新年にあたってわたしは、皆さまの家庭がこんこんと湧き出る清らかな水によって大地をうるおし、人間の乾きをいやす泉のように、喜びと安らぎ、そしてさらに、人間的活動の源泉となり、現代社会の暗闇を照らす一条の光となるように祈り、かつ期待いたします。

本渡殉教祭

十一月十一日（日）、天草の本渡観光協会と、キリスト教、神道と仏教の共催による本渡殉教祭がことしもまた、行われた。

年中行事の一つとなっているが、今回は、平田司教も出席し、二〇〇人の信徒を前にミサを捧げた。夜は、六〇〇人のローソク行列が道行く人の注意を引いた。

微光

明けましておめでとうございます。この挨拶を交換するとき、平和な日本を有難く思う。と同時に、戦乱に心を引き裂かれ、不正義に、飢えに、抑圧に苦しむ人に胸が痛む。新しい一年は、すべての人に恵まれているが、悲しみは、また、喜びは何処に、誰れに近づくのであろうか。一九八〇年の年頭に立って、新しくなりたい思いに駆られる。たった一日、一秒の差で、気持ががらりと変わるから不思議でならない。▼ゆく年の司教の「年頭の願い」には、四つのポイントがあった。❶キリストを知らせるために、キリストをよく知った人、つまり深い信仰の人であること。❷明日の教会を指導する司祭、修道者がもっと出るように。❸教区の母教会に相応しい聖堂と、宣教、司牧の中心が早くできるように。❹国際児童年に呼応して、家庭、教会における児童の信仰育成に協力すること、であった。▼くる年新しくなるとは、昨年のすべてを水に流すことではない。過去の失敗、経験、願いをそのまま繰り返すことなく、それで、新しい喜びに生きる努力が大切であろう。そのために、真剣な反省「何故」を自分の中に向けてみよう。意志の弱い自分に気付くとき、神の懐に飛びこむ信頼と勇気が望まれる。あなたは祈っているか。しかも、祈る内容が実現するように努力しているか。上すべりの祈り、ひとりよがりの祈りには神は存在しない。神と実存的に交わる祈りこそすべてを新しくするのである。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

明けましておめでとうございます。また、クリスマスの豊かなお恵みがみなさんの上にありますように。

昭和五十五年元旦

平田　三郎司教
深堀　仙石衛門司教（八王寺）

福岡地区

茶山教会　伊東　誠二神父
司教館　平田惣五郎〃
〃　平田　勇〃
〃　ガイヤル〃
〃　牧山　重光〃
〃　深堀　勝人〃
〃　青木　保〃
〃　竹森　勇〃
大名町教会　山田　成章〃
浄水通〃　川口　康頼〃
西新〃　マホニー〃
東田島〃　ハトリック〃
高宮〃　中村　道生〃
美野島〃　太田　一男〃
大楠〃　グローガン〃
吉塚〃　堤　要吉〃
〃　シュルツ〃
〃　カーテン〃
〃　リシャール〃
頴崎〃　ディキン〃
老司〃　ハー〃
光ケ丘〃　山崎聡一郎〃
古賀〃　乾　盛矢〃
二日市〃　浦口　均〃
小郡〃　平田　正喜〃
今村〃　糸永　一〃
〃　糸永　武男〃
本郷〃　オマニ〃
久留米〃　三村　邦明〃
〃　吉野〃
〃　大牟田〃
〃　馬渡島〃
〃　大神学院
〃　平田　寛〃
〃　堤　敏雄〃
〃　黒川　博〃
〃　田川　清美〃
〃　山内　清海〃
〃　ツルデル〃
〃　ラベル〃
〃　ラプラント〃
〃　イエール〃
〃　高木　善行〃
〃　中浜　一男〃
〃　高見　三明〃
〃　明石　健次〃
〃　畠山　七郎〃
〃　山頭原太郎〃
〃　夫津木　昇〃
〃　百村　等〃
〃　鈴木　忠一〃
〃　マテオ
〃　リチャード〃
小神学校
泰星学園
聖パウロ修道院
黙想の家

北九州地区

門司港教会　グロジャン神父
門司〃　ラバルタ〃
小倉〃　バスチ〃
〃　ベリヨン〃
湯川〃　西田　邦洋〃
戸畑〃　浦　俊雄〃
若松〃　平田　敬〃
天神町〃　ボネ〃
八王寺〃　徳山　登〃
〃　デシャンプ〃
〃　モーゼ〃
〃　ドルエ〃
〃　ボンカズ〃
〃　ベルトラン〃
〃　バイヨ〃
〃　キニュ〃
〃　カウス〃
〃　ベルトラン〃
〃　鵜野泰年〃
〃　ドレル〃
〃　パスカレル〃
〃　牧山　藤房〃
〃　山川　辰幸〃
〃　岩永　義人〃
〃　ラグレブ〃
黒崎〃
〃　水巻〃
〃　直方〃
〃　飯塚〃
〃　田川〃
〃　新田原〃
〃　行橋〃
〃　天使の聖母修道院

佐賀地区

唐津教会　マグリン　神父
〃　サルディ〃
〃　呼子〃
〃　ソネッタ〃
〃　武雄〃
〃　パスカーレ〃
〃　伊万里〃
〃　アレグリニ〃
〃　多久〃
〃　ルッチ〃
〃　鹿島〃
〃　ガザルディ〃
〃　佐賀〃
〃　ピアッチニ〃
〃　島栖〃
聖母の騎士修道院　オショルニ〃
トラピスチン　マルセル〃

熊本地区

荒尾教会　ドイル　神父
〃　キルケニ〃
玉名〃　コーフィルド〃
〃　手取〃
〃　グリフィン〃
〃　オブライエン〃
〃　フラハチ〃
〃　ノーリス〃
〃　マッケイ〃
〃　健軍〃
帯山〃　牧山　勝美〃
島崎〃　オーサリバン〃
菊池〃　ヤンキャンプ〃
〃　渡辺　隆義〃
八代〃　グリン〃
八吉〃　ホーガン〃
水俣〃　ベラス〃
本渡〃　モラハン〃
大江〃　マックナリ〃
崎津〃　シーヒー〃
島崎修道院　パチフィコ〃

ヤング・接近

西新教会　目良成子

一九八〇年代幕明けの顔は、西新教会の目良成子さん。現在、西区室見に在住、造形短期大学に学んでいる。二十一歳。趣味は、油絵を描くことで、その道一年のキャリアとはいえ、自信満々の様子。また、四コマ漫画を書く特技も備えている。

教会では、最近になって、正式に青年会を発足させ、現在、五人のメンバーで結束しながら、日曜日毎に典礼の奉仕、子供の公教要理にと若い力を大いに発揮している。また、大名町教会のレジオ・マリエ会にも顔を出して、マリア様を中心としたロザリオの信心業などによって、霊的生活の基礎づくりにも努力している。

最近、思うには、日曜日に教会へ行く若い人が余りにも少くて、淋しさを隠しきれない、と言う。「もっと若い人が教会に足を運び、若い力を結集すれば、小教区全体も生き生きしてくるはず。今一番欠けていることは、教会の若さと明るい雰囲気だと思う。そして若い人こそ、もっと犠牲と奉仕の精神に徹するべきだ…」とその胸のうちを切々と語ってくれた。

また、現代の教会、キリスト者への要望は？と問えば、「もっと祈りの生活を大切にして欲しい。目先のことばかりではなく、霊的生活の面を、更に人間・キリスト信者の真髄までも真剣に考え直すような時期に来ているように思う。一人ひとりの信者が、このように心がけるなら、各小教区も自然と明るい、家族的な雰囲気に甦えると信じてやみません」…と何とも希望に満ちた答えがはね返ってきた。もち前の明るさをタテ糸に、夢と希望をヨコ糸に、将来の教会、小教区のあり方、考え方の設計を自分なりに編成しようとしている若さと、その熱意に心を打たれた。

80年代幕明けのヤング―この夏に迫った全国カトリック青年大会に照準を合わせピタリ……祈りと熱意でがんばります！と声を大にして訴えかける、80年代の顔・生き生きとした姿がほほえましい。

（文責・竹森）

一月年忌の司祭

▼グスタープ・ロー神父（パリー外国宣教会）一九五〇年一月一日元島崎修道院付。

▼アウグスチン・ハルブ神父（パリー外国宣教会）一九四五年一月十四日元崎津教会主任。

▼ジャン・マリーマルタン神父（パリー外国宣教会）一九七五年一月十八日元鎌倉修道院付。

▼ルドビコ・ガルニエ神父（パリー外国宣教会）一九四一年一月十九日元大江教会主任。

▼ヨゼフ・フレスノン神父（パリー外国宣教会）一九二九年一月元久留米教会主任。

ベルナルド牧山甚松氏

（牧山重光師の実父）

十二月九日午前四時、老衰のため、佐賀県東松浦郡鎮西町馬渡島の自宅で死去。八十八歳。

葬儀ミサ・告別式は、十日午後一時から、馬渡島カトリック教会でしめやかに行われ、教会墓地に埋葬された。四男五女の中から、司祭一、修道女二を捧げている。

お知らせ

◎大名教会　隣りの聖パウロ書院は、修道会の特別研修のため、一月十一日～十五日まで休業する。

◎福岡市内の教会に所属する成人を対象にした合同成人式が、一月十三日（日）午前九時から、大名町教会で、行われる。平田司教も出席し、ミサ、祝賀会がある。三、〇〇〇円の会費で、一月六日まで受付ける。ここにいう教会に所属する成人とは、昭和五十五年一月十五日に成人式を迎える信徒及び求道者のことを指している。

◎一月二十日（日）午後二時から福岡司教館で、若人（子供、高校生、青年）の信仰教育の指導に当たっている人の集会が開かれる。

◇◇◇

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657

〈羊飼いの牧場〉

分かち合いのむつかしさ

西田邦洋

キリストの神秘をどのような方法で伝えるか、どのように聞かせることができるか、私たちはそれぞれの分野で、このことに大きな関心を寄せて日々を生きていると思います。

私も青年労働者と過ごす毎日の中で、福音宣教と人間の進歩・その開発・解放との間の深いつながりを感じる度に、その難しさにとまどっています。というのは、私たちは抽象的な存在ではなくて、社会的・経済的な問題をかかえた存在で、これを抜きにしては全てがなりたたなくなるものだからでしょう。

私たちには政治・社会・経済・文化・家庭・職業・労働・人類愛・芸術その他さまざまな分野でがんばり、福音の可能性を見出し行動に移すことが求められているようです。

その点で教会は私たちの生き様を分析し希望を与えてくれています。「人々は宿命的なあきらめをふりすてて、自らを解放し、自分の運命を切り開く為に責任を自覚する勇気を持ち始めた。人々の間にはよりよい世界を望み、耐えがたくなったものを変えようとする動きがみられる」と。これは、より幅広い正義と友愛的な世界を建設する上で、大きな妨げとなっている様々な形であらわれる支配・抑圧・虐待の輪の中にあって、大きな光といえるのではないでしょうか。

私の短い経験からではありますが、たしかに青年労働者たちは互いに知り合い責任をとり始めると、自分たちの置かれている環境や関心や心配について互いに分かち合ったり反省したりする中で、自分たちのエゴイズム・不正・連帯性・生きる意味について疑問を持ち、そのことと取りくみ始めることができるようです。

マタイの5章を読む度に、生活を分かち合っている青年労働者の姿をキリストが見る時、彼は多分次のように言われるのではないかと思います。

人間を大切にし、弱い立場におかれている人、言いたいことも言えない人を大切にし、同じ立場でいっしょに歩める人は喜びを分かち合える。

頭で考え、勉強して人に教える者ではなく、人間として仲間に体当りしていく勇気と力を身につけ、そのことを誇りと喜びにできる人は、仲間に一生忘れられないものを残す。

自分の時間や休暇、自分の少ない小遣いを、職場や地域の青年たちと分かち合い、そのことに喜びを見出し生き生きできる人はいつも仲間にめぐまれる。

生きがいを真剣に探し、喜びも悩みも、弱さも強さも互いに分かち合える人には、一緒に考え、歩める仲間ができる。

不正を絶対に許さないと共に、生きる中でウソを言わなければならないことに痛みを感じ、こうしたことしかできない状態に怒りを感じる人はその心が仲間に伝わる。

仲間づくりの大切さ、共に成長することの大切さ、闘うグループの大切さとその中で互いに養成されることを願っている人は多くの仲間から信頼をうける。

これから頑張ろうとしている人も、頑張っている人も、個人的判断ではなく、評価を通して互いに仲間と確認し合い乍ら、仲間を信頼し、確信をもって活動していける人には、もう一人の仲間が生まれる。

私のまわりの青年たちの姿をみる度に、残業・労働強化で苦しみ、ノルマを課せられ、低賃金の為に余裕なく働き、社内教育でまちがった責任感を植えつけられ、男女交際は逃避の場となり、その結果受身人間、考えられない人間、無気力な人間、自分の健康さえかえりみない人間、その中で何が正しいのか、間違っているのかを見出し生き生きできる人はいつ判断できなくなって、物質中心のものの考え方になって、その豊かさや欲求不満をたそうとしている姿に気づきます。しかし、そういう姿の中にも、怒りや叫び深い望みがくみとれます。

こういった人間の姿をつくり出している社会を少しづつでも変え、私たちが各々関わり合っている場で努力していくことの中に、キリストの神秘を具現していけるのではないのでしょうか。

（カトリック青年労働者連盟小倉・働く人の家）

会合と催し

☆平田　司教
1月1日　新年平和ミサ（大名）
8日　教区司祭の新年集会
13日　合同成人式（福岡）
15日　浜尾横浜司教着座式

☆福岡黙想の家
1月4～5日　高宮教会ボーイ・スカウト研修
11～13日　岩国海兵隊黙想会
13～14日　姪浜パプテスト
19～20日　一般黙想会
27日　大神学院司祭の黙想

特別献金の報告
洩れ及び追加

本郷教会、布教の日、一万円、鹿島教会、児童福祉の日、一千円広報の日、七百円、移住の日、二千円、布教の日、二千五百八十円以上報告洩れの分です。水俣教会移住の日、二千五百円追加がありました。

順調に成長するからし種
湯川教会建立30周年の祝い

湯川教会は、十二月九日午前十時から、平田司教を迎えて、教会建立30周年を祝った。

一九四九年といえば、戦後四年目である。当時、人心は荒廃し、物資欠乏はその極に達していた。

この頃、小倉郊外の寒村であった湯川に、それほど立派とは思えない教会が建てられた。これは託児所（今の聖母園保育所の前身）にも兼用することになっていた。

パリー外国宣教会のベニエ神父が着任し、貧しいが、たくましい三〇世帯の信徒の司牧をはじめた。

一九五三年、主任が更迭し、ラグレブ神父が赴任。信徒数は年々増加し、教会の収容能力に限界が見えはじめたので、一九五七年、教会が再度、新築され、祝別式に沸いた。翌年、司祭館も新築された。一九六二年には、グロジャン神父が主任となり、教会はその事業とともに、加速度的に発展していった。北九州市の都市化の波に洗われ、北九州工業地帯のベットタウンとして、爆発的な人口膨脹を見るに至った。一九七四年、教会は内外ともに面目を一新し、今日に及んでいる。

一九七八年から、浦神父が二六二世帯（一、〇二〇人）の信徒の司牧に当たっている。

邦人司祭育成献金（12月2日）

大名町	118,600	本郷	20,000	水巻	28,580
浄水通	42,610	馬渡島	12,000	直方	3,700
光ケ丘	27,418	呼子	7,500	飯塚	13,000
箱崎	7,000	佐賀	15,000	田川	4,460
東田島	36,584	唐津	12,293	新田原	55,920
西新	27,779	伊万里	6,500	行橋	15,125
大楠	12,265	鳥栖	4,732	手取	62,653
美野島	10,000	武雄	4,976	荒尾	8,000
茶山	9,440	鹿島	1,270	健軍	14,000
高宮	41,016	多久	3,665	本渡	8,650
老司	20,000	門司	20,000	帯山	10,000
吉塚	25,000	門司港	15,530	水俣	4,000
古賀	33,500	小倉	75,306	大江	16,016
二日市	40,000	湯川	26,088	大崎	12,000
久留米	46,610	戸畑	48,796	島崎	34,000
大牟田	9,530	若松	10,000	玉名	7,000
吉野	1,444	天神町	60,000	菊池	58,985
今村	86,600	八王寺	8,500	八代	23,460
小郡	5,459	黒崎	13,000	合計	1,345,562

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5－4－12
ＡＩＵ福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　ＴＥＬ 272－0671

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

共助組合とは（1）

野田義之

共助組合は、お金を借りるために便宜的に設けられた組織ではありません。また、お金を預ってそれを組合員に貸すことだと簡単に考えては、そのポイントを見失ないます。

私たちの生活は信仰とお金と言っても過言ではありません。信仰を中心にした物質生活を考えてよいのではないでしょうか。

自分でかせいだのだから自分で勝手に使うと言う。しかし、時には人のためにもお金を使ってみてはどうでしょうか。自己中心ではなく、他人のことも考えたお金の使い方として行けば、他人を愛すると言うことに結びついてゆくのです。ではどうすればよいでしょうか。

共助組合の起源

今から百数十年前に、南ドイツの小さな田舎町で旱魃がおそい、農民たちは貧困にあえぎました。当時のドイツは不景気のどん底にあって、失業者が溢れ、多くの人々は生活に困り、止むを得ず高利貸の門をたたいては、借金を重ねていました。町長のライファンゼン氏は、この困苦から人々を救うために、金持の人々に経済的な援助をお願いし、集められた寄付を施しに日夜忙しく働きました。しかし、このような繰り返しから、慈善行為は一時の間に合わせに過ぎないことを悟り、人々が自活するためには、自分たちの力を出し合って相互に助け合うことが真の解決であることに気づいたのです。

この体験がもとになって、共助組合の根本的な考えが生まれたのです。即ち「営利のためでなく、慈善のためでなく、相互扶助のため」と言う旗印しが出来上ったのです。

すべての人々が一致できるような共通の結びつきと、互いに自分たちで扶け合おうとする、精神が特に強調されているのが共助組合です。

共助組合の特徴

第一に出資にたいする考え方です。この出資は、単にお金が余ったから出資する、または、貸付の便宜を受けるための権利を得るために出資するのではないのです。出資は、自分が困った時、また、他の組合員が必要とするときに、互いに助け合うための協力の投資です。

第二の特徴は、運動的な性格をもつ点です。共助組合がお金をあつかうからといって、組合に加入する人が、銀行に口座をもつように考えるのは大きな誤りです。共助組合は、組合員になった者だけによって自主的に運営し、発展させる自助運動です。組合に加入するとき入会金を払い、又、年一回、連合会費を払いますが、これは組合員として、この自助運動に参加することをはっきり示しているのです。

第三の特徴は営利のためでなく、組合員への奉仕（サービス）を目的としていることです。この特徴は、先ず、利用（貸付）方法に表われています。貸付手数料は、貸付けの未返済額に対して月一％以下と、定款に規定されています。できるだけ安い手数料で、みなの出資金を役立ててもらうことを目指す意味で、利益を生むための出資ではなく、相互扶助の精神を高めようとするのです。

また、理事や委員の活動は、「人のために生きること」……愛は与えて喜ぶという精神にもとづいて、ボランティア活動にはげんでいます。

私たちは、キリストに従うものとして、「互に愛し合いなさい」とのみ言葉に従って、自分の如く他人を愛するという大きな義務があるように、共助組合運動を通してすべての人々に、互いに愛し合うことを勧め、実践するよう教える義務があると信じています。

共助組合の主要な目的は、人々に自助自立と共助協力の価値を教え、キリストを頭とした共同体意識を向上させ、ただ金を貯えるだけのために働くのではない、人間性を高めることを示すのです。ですから、全世界のすべての共助組合のモットーは奉仕であり、相互扶助であり、他人への利己的でない献身であるのです。

主が私たちに何を求めておられるのか、毎日の生活において、どのように行動してほしいと要求しておられるかを十分に見きわめて行くために、福音書の主のことばを、よくかみしめましょう。

（筆者は日本共助組合連合会理事（カトリック熊本共助組合理事長））

吉塚教会に共助組合

福岡地区吉塚教会（主任シュルツ神父）に福岡教区で八番目、全国で60番目の共助組合が誕生した。理事長中村武司さん、副理事長貞島忠実さん、常務理事富永八百一さん、総務理事山下ヨシさん、出資金一九〇万七千円、組合員八十人で結成した。

全世界では、約四万五千組合で五千百万人、日本では、62組合で八千四百人で組織されている。

福岡教区内の組合状況（54年3月末）

	吉塚	健軍	帯山	水前寺	門司	高ノ丘	光ケ丘	本ハー	熊本
設立年月	9	11	4	2	7	5	11	11	計
組合名	8	塚シュルツ	軍ノリス	山牧山	巻ベルトラン	司ラバルタ	宮中村	ハー	54
主任神父				勝美			道生		52
グリフィン									52
組合員	一	七	七	五	六	七	五	二	50
出資金	二	七	四	七	六	一	八	二	47
価値数	二	三	一	八	二	一	二	二	847
入会	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	万
理事長	野田義之	辻義之	坂田勝三郎	安達忠光	井上邦秋	今村督正	平川武司	中村	

○祈禱の使徒会○

（一般）キリスト者の一致と福音宣教（布教）教会の内的一致と布教救主キリストの宣教活動は、三位一体の一致に源を有する。教会の福音宣教は、キリストとの一致から来る使命であり、義務であると考えることができる。

80年大会に向かって、結ばれつつある若者たち

教区大会を無事に終え、今、いろいろなものが芽ばえようとしています。一つの十字架の上に一〇〇余りのろうそくの灯が、各教会へと去り、何らかの変化と温い炎がともっていることでしょう。そして参加されなかった若者とをふくめて、再び80年大会で、一つのものに燃えようとしています。

孤独と苦悩のうちに過ごしている若者は多いと思います。私達は、カトリック者として生きなければなりません。それと同時に、社会人としてもりっぱであらねばなりません。荒波の社会で、自分を全く無視はできないのです。満たされない人、無視されている人、自分なりに満足して生きている人その他いろんな人よ、一つに集まろう！カトリック的というよりも、カトリックの中にいる一人の若者として人間的に集まって、何らかの形で自分を満たし、カトリック者として生きる手段を見出そう。

ここで今までの経過を整理してみます。数年前、九州の青年が宮崎で大会を開きました。そこで士気上がった若者たちが、ぜがひでも全国大会を開催したいということになり、来年の八月長崎での全国大会をめざしたのです。

わが福岡教区でもだまっちゃいないということで、若者一人一人でもりあげる80年大会のために、今年九月に大会を開き一〇〇人余りが集まりました。

わが教区でも、まだまだ多くの若者がいるはずです。わが人生に何らかの刺激、あるいはオアシスの水を求めている方、この人の世に一生懸命生きてる方、長崎で行われる全国青年大会に向けてまとまり、盛り上げていきましょう。

（80年大会準備委員）

躍進する韓国教会の底力、レジオ・マリエの祈りと活動

最近の韓国のカトリック教勢には、目を見はるものがある。バチカン年鑑によれば、一九六九年、韓国の信徒数は、八〇万七千人であったが、一九七九年には、一二〇万人となっている。ここ10年近くの間に、四〇万人の信者増となっていることがわかる。日本の教勢に比較すれば、驚異的むしろ奇蹟的な躍進ぶりである。この秘密はどこにあるのだろうか。その一つに、レジオ・マリエのすばらしい活動を見逃すことはできない。一九七〇年十月三十一日現在でみれば、日本のレジオ会員約一、〇〇〇人に対して、韓国のソウル・大邱、光州の三大司教区の活動会員は、二八、九七七人である。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1—22—28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

灰の水曜日
（二月二十日）
四旬節のはじまり。われわれの心を荒野において、キリストを黙想しよう。また、大斎、小斎を忠実に守ること。

全く異なった新しい生活状態におけるイエズスとの出会い

A・ラプラント

病者の塗油
—その新しい精神—

第二バチカン公会議は、『典礼憲章』七三番で「終油」の秘跡を受ける人について小さな改革を行った。

「『終油』は危篤の状態にある人のためだけの秘跡ではない。したがって、信者が病気や老令のために死の危険にさしかかりはじめたならば、この秘跡を受けるに適した時が来ていることは確かである」。

この秘跡の対象は、何よりもまず、重い病気にかかっている人であるから、公会議は、これからはもう「終油の秘跡」と呼ばず、「病者の塗油」と呼ぶ方がよいと言っている。一九七二年十一月三十日、パウロ六世によって正式認可されたこの秘跡の新しい儀式書のタイトルは、「終油の秘跡」ではなく「病者の塗油の秘跡」となっている。これにならって、当然、各国語の儀式書にもこの言い方が採用されている。"An oilting of the sick". "Le sacrement des malades" などである。

一、なぜ変更したか

この秘跡の呼び名がこのように変わったのは、決して全く革新ではなく、教会の教えの源泉にさかのぼって、そこからくみとった結果である。聖書と初代教会の伝統は、この秘跡はどんな人が受けるものであるかを明らかに教えている。

A、聖書

聖ヤコボの手紙五章十四節に次ぎのようにある。「あなたたちのうちに病人がいるならば、主の名によって油を塗って、祈ってもらうようにしなさい」と。トレント公会議が、病者の塗油の秘跡の存在を証明するのに引用するのも、この箇所である。そして、聖書学者たちはこの箇所に出てくるいわゆる「病人」について、これを決して「死にかかっている」「危篤の状態にある人」とかではなく、ただ「病人」あるいは原文通り「病気で寝ている人」と訳している。因みに、つい最近出版されたばかりのフランシスコ会聖書研究所訳の「新約聖書」は、この節について、まことに適切な注を付している。「ここで仮定されている病人は、床についてはいるが、回復の見込みがあるようなので、必ずしも臨終だとは言えない」と。

B、初代教会の伝統

初代教会の伝統は、聖ヤコボのこの言葉をいつも同じ意味で理解してきた。病者用の聖なる油は、危篤の状態の人に限って使われるということはなかった。

四一六年、教皇インノチェンチウス一世は、クビオの司教へ送った病者の塗油についての手紙の中で、"moribundus"（危篤の状態の人、死にかかっている人）という言葉を使っておらず、単に aegrotantibus, languidis, という言葉を使っている。これはかなりの病気で寝てはいるが、今すぐにでも死にそうな人ではなく、つまりごく普通の病人のことである（DS216）。

五〇三年頃、フランスのアルルの司教チェザリウスは、病者の秘跡について次ぎのように信者に教えている。「だれかある信者がかなりの病気にかかればそのつど、キリストの体と血を拝領し、司祭たちが祝福した油を塗らなければならない。こうして、その人は罪のゆるしを得、おそらく体の健康を回復するにふさわしい者となるであろう」（CPL. XXXIX. col. 2238）と。

イギリスでは七三五年頃、ベーダが同じ教えを伝えて、危篤の状態にある死にそうな人ではなく、回復の可能性のある病者について語っている。「今に伝わる教会の習慣は、病者が聖なる油を司祭に塗ってもらい、塗油に伴なう祈りをもっていやされるように、と命じている」（PL. XCⅢ. col. 39. c）。

二、この秘跡の新しい精神

キリストは、人間の一生のいくつかの重要な時期に、成聖への効果的で、それぞれに固有の手段を与えられている。超自然的誕生と教会における完全な活動のために洗礼と堅信、家庭を築く二人の信者のために婚姻、聖なる役務のために叙階などである。受洗者、夫婦、司祭はそれぞれ、自分を聖化するために固有の恵みが必要であるこの必要に応えるために、キリストは秘跡を定められたのである。

ところで、重い病気も、数週間数ケ月、いやときには数年間にわたって続くならば、その人に全く別の新しい生活状態を課すものである。すなわち、このような病人は、健康な時とはちがい、人生を見る目が異なってくる。かれは自分の務めを果たすことが不可能になり、子供たちの遊んでいる楽しげな声や音はかれを疲れさせ、食事の献立もかってにきめることができず、将来は暗く、不安である。つまり全く新しい異なった生活状態である。イエズスは、このような生活状態にある人が、その人生に生きていけるようにと、あわれみの目を注ぎ、塗油の秘跡を定められた。

秘跡はイエズスとの感覚的出会いであるから、イエズスは病気にかかったこの肢体のそばにいて、これを支え助ける。すなわち、あらゆるものに浸み込み、これをなめらかにする油のように、キリストの恩寵は病人の魂にしみ込み、これを慰め、力づけ、あるいは恐らく病気をいやすこともする。キリストは司祭を通して、病人を訪れ、友情と恵みをもって励まし、病人といっしょに御父に祈る。特に、司祭は人生における悪と苦しみの存在を病人にさとらせるために聖書をひもとき、説明する。

司祭はまた、できるかぎり、キリストの浄配、教会を代表する他の信者を同伴して、この神秘体の病める肢体を訪れ、ともに力づけ励ます。この病気に苦しむ信者は、心労と孤独と無力の状態を克服するために、イエズスと教会が自分のそばにいて、自分をとり囲んでいることを感じる必要がある。そしてまさにこの秘跡は、内的恩寵、司祭の立ち合い、そして祈り、特に、聖書朗読の三つの要素をもって行われるものである。

三、司牧にあたって

(1)まず、病者の塗油を受けることを、危篤の状態になるまで延ばしてはいけない、という新しい心構えを信者に教える必要がある。危篤の状態になるまで待つことによって、病気の状態をキリスト教的に生きるに必要な恩寵を、みすみす失なってしまうことになるからである。したがって、重い病気のために生命に危険が迫りはじめるとすぐに、たとえば、胃や腸にできた潰瘍、あるいは胆石などの手術を受けることになった場合には、塗油の秘跡をうけるようにする。（邦訳解説三）

(2)病気の重さを判断するということについては、塗油の秘跡の新しい儀式書によれば、司祭の賢明な判断で十分である。これは医学的な判断ではない。そして儀式書は医学の書ではなく、司牧の書である。しかし、司祭は、もし病状を判断するのが困難な場合には、もちろん医者に相談することができ

（二面につづく）

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

（一面から）

る。（邦訳解説三）

(3)かなり老令に達している人の場合、この秘跡の新しい精神が特に如実に現われる。このような老人は、今すぐ危険な状態に陥るという心配はなく、またこれといった病気にかかっているのではないけれども、もし老令のために体力がかなり減退しているならば、儀式書（邦訳三）にしたがって、このような人にもこの秘跡をさずけることができる。もちろん、年寄りではあっても、すぐれて健康な人すべてに、ただ老人だということで、無差別にさずけることができるわけではない。しかし、生理学的に衰弱している（たとえば消化器官、五官、血液循環などの機能のおとろえ）とか、体力がかなり減退している（たとえば神経、精神集中力、持続力の減退）とかいった明らかな徴候があれば、それだけで塗油をさずけるに十分である。

(4)この秘跡をくりかえしさずけるのはどういう場合か。一旦健康が回復したが、再び重い病気にかかった場合、あるいは同じ病気が持続してさらに容態が悪化し、それが長びいている場合、また前の年に塗油を受けた老人で、今年になって健康状態が相当に悪化している場合などである。かなり衰えのみえる老人や教会まで来ることのできる病人に、適当な日を決めて教会に集まってもらい、共同でこの秘跡をさずけることもよく行われている。日本では、たとえば敬老の日などが考えられる。また西ドイツではこの病者の塗油は、人生の秋を迎え、希望する復活の秘跡として、つまり将来に向かった明るい、さわやかな秘跡として示されている。

(5)死が目前に迫ると、数日前に塗油されたその病人には、ただ罪のゆるしと聖体がさずけられる。儀式書は、すでに亡くなった者に、この秘跡をさずけないようにと注意を促している。ただほんとうに死んだのかどうか疑いが持たれる場合にだけ、条件付きでさずけられる。

(6)司祭は善き牧者としての役務をよく果たすために、地上になぜ苦しみや悪が存在するのかという信者の疑問に答えることができるよう、その説明や理由を予め用意しそなえておく必要がある。司祭はまた、時に応じて教会における病人の役割、病気の霊性、ヨブの模範、罪と死と病気に完全に打ち勝ったキリストが、行われたたくさんの治癒の意味などを明らかにしなければならないであろう。（サン・スルピス大神学院教義神学・典礼学教授）

愛の街頭募金

（昭和54年度）

収入		支出	
教会名	募金額	配分先	金額
福岡地区			
大名町	138,755	しいのみ学園	50,000
浄水通	132,276	心身障害児を会守る	50,000
光ケ丘	62,461	古処学園	100,000
西新	30,014	今村聖母園	150,000
美島	30,000	清心慈愛園	100,000
高宮	247,959	聖ヨゼフ園	100,000
老司	72,000	久留米天使園	100,000
吉塚	60,536	北野学園	100,000
茶山	59,800	菊池園	100,000
箱崎	100,264	りんどう学園	50,000
大楠	102,420	あけぼの学園	50,000
東島	45,000	福岡教海師会	100,000
古賀	40,339	山田市ベトナム難民収容所	700,000
吉野	52,715	西日本新聞民生事業団	102,003
今村	185,150	各地区困窮者	81,700
本郷	57,815	諸経費	26,030
小郡	52,909		
福岡海星女子学園	70,000		
久留米信愛女学院	50,000		
明光学園	119,640		
大神学校	237,180		
福岡幼きイエス会	12,500		
計	1,959,733	計	1,959,733
北九州地区			
門司港	135,133	聖小崎育児園	70,000
門司	227,021	天使育児園	70,000
小倉	115,517	光の子学園	70,000
戸畑	150,000	聖ヨゼフの園	70,000
若松	100,000	あすなろ学園	70,000
水巻	134,864	聖家の旅の学園	70,000
湯川	73,471	ひびき学園	70,000
行橋	216,781	暁の鐘園	70,000
新田原		希望の舎園	70,000
		長寿園	70,000
		石並園	30,000
		みやこ老人ホーム	40,000
		カリタスジャパン（日本カリタス・ハンク社会福祉協議会）	382,787
計	1,152,787	計	1,152,787

（人事異動）

▽健軍教会助任　マツケイ師（小田原教会）▽トラピスチン伊万里修道院　マルセル師（トラピスチン西宮修道院）▽武雄教会主任　ソレッタ師（富士吉田教会）▽聖パウロ修道会福岡修道院　百村等師（若葉修道院）

浦和教区長に島本要師

永江恵司教辞任

一月五日付のバチカン公表によれば、かねてから辞意を表明していた浦和教区長永江恵司教の後任に、横浜小神学校校長の島本要師が任命された。なお、島本被選司教の叙階式は三月二十日（春分の日）となっている。

一丸となって、家庭の聖化に

一九八〇年初の司祭集会

一月八日（火）、かなりの冷えこみであったが、恒例の司祭の新年集会が行われた。

先ず、午前十一時から浄水通教会で、六〇人の司祭が平田司教と一つの輪になって、共同司式ミサを捧げた。司教はミサの説教において、ことしの司牧目標の一つに結婚の聖化―家庭の聖化を強調して、つぎのように訴えた。

「政治的に、経済的に、また、その他の価値観においてバランスを失くしている年のはじめに、集まっている兄弟の交わりのミサにおいて、心から祈りを捧げよう。本日のミサの福音―五つのパンと二匹の魚―はわれわれ司牧者の立場を教示しているようである。金銭的ものは殖やせば失くする恐れがあるが、殖やしても失くならない。家庭の聖化は、基本的には結婚の聖化に結ばれる。年ごとに殖え続ける離婚の波が、信者の家庭にも押し寄せている。離婚によってつくられている痛ましい子どもの姿、自殺、一家心中、凶悪な犯罪などの世相は戦慄を覚えるほどくりかえされている。これを建て直すのが司牧者の仕事である。そのためには、何よりも司牧者が一致していることが大事である」。

ミサ後、司教館で祝宴となり、司教の教区一年の歩みの回顧談を聞いてから、会食・余興に友情の花が開いていった。

教会に若さを、活気を

教会の成人の祝い

福岡

一月十三日（日）、大名町教会で、福岡市内教会の成人の祝いが合同で行われた。市内の七教会と大神学院から、ことし成人式を迎える三十人の若者が集まった。

午前九時、平田司教が大名町教会の青木、竹森、大神学院の明石の三師と共同ミサを捧げた。また山元助祭はミサの説教で、「社会人としても、キリスト者としても独り立ちする今、自覚と責任のうちに、キリストの真の証し人となるように―そのためには、同じ洗礼の恵みによるキリスト者としての意識をもっと高め合って行くべきである」と励ました。

ミサ後、旧聖堂ホールで祝賀会が催され、司教、青木師の祝辞に続いて、先輩・青年を代表した大名町教会青年会長の岩井原邦彦君が「若者が動かない教会ほど淋しいものはない。これからの教会はわれわれの双肩にかかっている。大いにわれわれの若さを爆発させようではないか」、と印象的な祝いのことばをおくった。

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657

〈羊飼いの牧場〉

私の近況報告

大田一男

元旦に初日の出を見るべく、数人の青年達と宝満山に登りました。日頃、若さだけを売りものにしている私ですが、大晦日の国民的行事の紅白歌合戦につき合った身には、午前三時の起床はいささかつらいもの。暗闇の中を手探りで登るかつこうは皆様の豊かな想像力にお任せ致しましょう。それにしても多勢の人が登っているものです。人のお尻ばかり見ながらなんとか頂上に辿り着きました。

七時二十六分、日の出。しかし東の方を見渡しても、ご来迎どころか周囲の景色さえも見えず、冷たい北風が吹き抜けるのみで、頂上一帯は霧ですっぽり包まれてしまっているのです。他にすることもないので持参の水で乾杯し、新年を祝いました。

さて、地上での新年のミサの時間が迫っているので私一人先に下山することにし、降りようかと人の群をかきわけて降り口へ向いました。まだまだ登ってくる人と交互通行のため待たされること数分しかしその時です。たちこめていた霧がさっと吹き払われて、ほんのちょっとの間でしたが、なつかしい太陽がまっ赤な顔を垣間見せてくれたのです。そのときの気持は言いようのないものです。この一瞬ばかりは、元旦の朝、初日の出に手を合せたくなる日本人としての気持がわかるような気がしました。

おお、ただえられよ、わが主、すべての被造物によって、わけても兄弟なる太陽によって太陽は昼をつくり、主はかれによってわれらを照らす。

かれはなんとうるわしく、なんと大いなる光輝を発していることか。いと高きおん方よ、かれこそは、おん身のみ姿を宿す。

（アシジの聖フランシスコ『太陽の賛歌』）

最近思うのですが、私たちを取りまく現実はなかなか厳しくて、何が真実なのか、どれが本物なのかを見分けることはそう容易なことではなさそうです。現代は特に情報社会と名付けられる程で、実際に私達の目から耳から様々な形で種々雑多な情報が入ってきます。丁度昨年爆発的に流行したインベーダーゲームのように、やつつけてもやつつけても際限なくこちらがやられるまで続くのです。必要なものと不要なものを間違いなく選別することは大変な技術ですし、また処理能力と同時にそれを価値体系化することも必要になってきます。私共は無意識のうちにそれをやっているのですが、もえ方、情報もこれと同様のようなものしそれができないと社会から取り残されるか、情報の渦の中に飲み込まれてしまうということになるのでしょう。教会はもちろんこのような危険に早くから気づいていて、すでに第二バチカン公会議の中でマスコミの影響力についてこう述べています。「非常に強烈であって不用意に受取るなら、人々がそれに気づき、それを意志の力で支配し、必要なら排撃するということを困難にする場合がある」（MI4）と。そしてこの予感は現実のものとして、すでに多くの問題を生ぜしめていることは例を挙げるまでもありません。

現代の混乱の原因の一つは、ある意味で量的に多過ぎること、知り過ぎていることにあると思う。そしてこのことは別の結果、即ち本当に知りたいことを知ることができない、または、本当に何を知りたいのか解らないということを生み出す。例えば、買物に出掛けます、店にはありとあらゆるものが揃っています。もちろん自分が買いたいと考えているものも。だが本当にそうでしょうか。店の「今年はこれが最新流行ですよ」「この方が性能が上ですから」という言葉に妥協してそこにあるものの中から選んでしまっているだけではないでしょうか。知識、考え方、情報もこれと同様のような気がするのです。

このような複雑な世にあって迷う人がいる。その迷いもまた複雑である。教会はキリストの神秘体としてどう対処すべきか、司祭は牧者としては何ができるのか、信徒は世の光、地の塩となるには何をしなければならないのかという設問をすることは易い。しかしまず現実を、そして自分自身を素直な目でみつめることから始めたい。

受階してこの三月で満二年目を迎えようとしています。途中五カ月程手伝いのため他所へ行ったのは別として、この福岡教区は私の最初の牧場です。とは言っても神学校を出たばかりですので、まさしく闇夜の登山に似て、手探りで一歩ずつ歩んできたように思います。しかし、一つだけ確かなことは全ては上から、つまり神の側から始まったということです。とすれば、光はあの初日の出のように突然上から予期せぬ時にさしてくると思うのです。（高宮教会）

会合と催し

☆平田司教

2月9日　茶山カトリック幼稚園の落成式

10日　本郷教会の堅信式

11日　師イエズス会福岡修道院の終生誓願式

27日　泰星学園高校の卒業式

☆福岡黙想の家

2月3～7日　通勤者黙想会

10～11日　典礼聖歌研修会

16～17日　一般信徒の黙想会

二月年忌の司祭

▼ジョン・オマラ神父（聖コロンバン宣教会）一九七四年二月十四日元荒尾教会主任。

▼ヨゼフ・ボア神父（パリー外国宣教会）一九五七年二月十七日元墨崎教会主任。

▼フランソワ・ベルトラン神父（パリー外国宣教会）一九〇年二月二十二日元門司港教会主任。

お知らせ

○二月二十四日（日）午後二時から、大橋教会で、カテケジス研修会が開かれる。

○中央協議会会報によれば、典礼聖歌合本の出版が、四旬節第一主日に予定されている。

○福岡県山田市下山田の大法園に収容されているベトナム難民は七十四人であるが、その中に四十六人のカトリック信者がいる。平田司教は去る一月六日午後三時から、慰問に訪づれ、ミサを捧げた。かれらの熱烈な信仰に感動した司教は、かえって慰問された気持になってそこを後にした。

○二月十日～十一日、長崎市上野町カトリックセンターで、長崎、福岡SVP会員の合同研修会が行われる。テーマは「訪問」。

○四月二十八日～二十九日高宮教会で、教区内共助組合役員のための研修会を実施する。又、全国共助組合連合会の研修会兼総会が、七月十七日～二十日まで、大秦野の上智学院セミナーハウスで催されることになっている。

○祈禱の使徒会○

（一般）全人類の一致と平和

（布教）宣教師の適切な養成

お願い

移住の日献金（本郷教会）五、六三〇円　邦人司祭育成の日献金（八吉教会）一一、九五〇円。

特別献金（年六回）の送金の遅い小教区がありますが、カトリック教区報の報告及び集計等のために、できるだけ早く送金くださいますよう、お願い申し上げます。

特別献金収納担当　深堀勝人

典礼聖歌研修会

日時　2月10日午後2時30分から11日午後4時まで

場所　福岡黙想の家　講話　鈴木忠一神父　聖歌指導　深堀純氏

会費　4,000円（宿泊者）3,000円（宿泊なし）当日会場で徴収する。

申し込み先　参加希望者は、申し込み用紙に記入の上、2月3日（日）まで（電話でも受付ける）〒814福岡市西区片江神松寺1618-31深堀純（電話092-801-5351）または〒815福岡市西区樋井川1丁目6-9田町節子（092-801-2920）に申し込むこと。

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟

自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々

福岡市博多区中洲5－4－12　AIU福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　TEL 272－0671

祭壇・洗礼盤他

石石他
理影の
大御そ
素材

石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

各教会では、キリスト共同体の実現を目ざしてさまざまな運動、活動を展開している。共助組合運動もまた、使徒職の一活動としてもっと各信徒に理解されてもよいと思われる。

共同体を構成する仲間一人ひとりの具体的生活互助を通して、一致の完成を目ざす最も有効な方法組織の一つであるということができるのではないだろうか。共同体出あい、ふれあい等という言葉がしばしば口にされているように、信者の結びつきを強調し、個人的にも団体としても、他人と接触し交わりをもつことを強く望んでいる今日の教会の状況ではないでしょうか。

「信者たちは、みな一致して生活し、すべてのものを共有していた。かれらは自分たちの資産ともちものを売り、おのおの必要に応じてそれを分け、また心を一つにして毎日神殿にまいり、家でパンをさき、よろこびと真心とをもって食事をとっていた」（使徒2・44―46）

私たちは、この信者たちにならって、真心をもってお金を出し合い、互いに助け合って、共同体一致の生活の実践に努めたいものです。

他人の立場にたって、もの事を考えてあげることのできる広い心をもちたいと思います。

共助組合とは(2)

野田　義之

長い人生においては、与えるばかりではなく、物心両面において与えられることも多いのではないでしょうか。

問(1) 共助組合とは、簡単に言えばどんな組合のことですか。

答 共助組合とは、出資金を出し合って、それを資本にして必要な組合員に貸すことによって、**お互いに助け合う**ことを目的としている金融互助の**協同組合**です。

問(2) 共助組合員になるのに条件がありますか。

答 同じ地域に居住しているとか同じ教会に属している、或いは同一の職場で働いているなどの共通な結びつきを持っていることが第一の条件です。お互いに知っていると言う連帯感と、お互いを信頼できるという信頼感が共助組合を支える力となるのです。

問(3) 共助組合を発足させるのに最低何人ぐらい必要ですか。

答 少なくとも、四〇人位でしょう。最初は小人数でも、将来組合員が増加するという見込みが必要です。一〇〇人以上になれば、一応安定した運営をすることができるでしょう。

問(4) 出資金についてくわしく説明して下さい。

答 共助組合の理事会（後で説明します）は、出資金の一口をいくらにするかを決めます。大体、一口五〇〇円とか一、〇〇〇円となっているようです。これはお金が余ったから貯金するというものでなく、自分或いは他の組合員が困った時に、互いに助けあうための協力の投資として自主的に出資されるものです。従って、一口単位として何口でも自己の都合のつく時に、より多く協力するのが望ましいのです。

問(5) 出資金は、定期的に増やさなければなりませんか。

答 いいえ、共助組合の出資金は保険の掛金のように毎月続けていくら払わなければ資格がなくなるとか、一人何口払わなければならないということは決してありません。だからと言って、寄付のつもりで出資されるものでもありません。たとえば、四月に二口五月にやすみ、六月のボーナスで十口出資するというように、各組合員の状態によって全く自由に自主的に出資されます。

組合の資本をふやして、組合員にもっと多くの貸付ができるように出資に協力することは、相互扶助の実践です。自分の利益だけでなく、組合員全体の利益を考えて、できるだけ定期的に出資することが望まれます。

問(6) 共助組合からは、どの位借りることができるのでしょうか。

答 共助組合の定款では、組合の総資本勘定の一割までを一組合員に対する貸付最高限度と定めています。これは組合の健全運営と、なるべく多くの組合員が貸付を利用できることを配慮した結果です。ですから、各組合の状況に応じて、一割以下の範囲で理事会が定めます。従って、組合の資本勘定の大きさとその組合の運営方針によって、幾らまで利用できるか異なってきます。しかし、いずれにしろ、組合員からの出資に対する理解と協力がなければ、充分な貸付サービスをすることはできません。

問(7) 市中には銀行や信用組合、職場には互助会や共済組合があるし、古くから無尽、講などの金融互助組織があるので、共助組合の必要性はないのではないか、と言う印象もありますが。

答 もちろん、組合を組織する前に、必要か否か充分検討しなければなりません。そして大勢の人が市中の金融機関や職場の組合等を通して貸付を受けられることも事実です。しかし、私たちのまわりには、中小企業、店に働く人などのように、そのような恩典をうけられずに、高利貸しに行ったり、金策に困っている人が大勢いることを忘れてはなりません。また貸付を利用して、現金一時払いで買いものをすれば、より廉明にお金を使うことができます。相互扶助の愛の精神でまわりをみるとき、共助組合は特に消費者ローンの分野で大きな役割があることがわかるでしょう。

問(8) 出資金のこと、貸付のこと組合の運営のこと、その外説明を聞いた上で、組織したいと思いますが、どうすれば良いでしょうか。

答 福岡教区内に共助組合運動の育成と発展のために指導、広報活動をしている日本共助組合西九州協議会が、熊本市手取教会にありますので、連絡をとり、資料や指導を求めて下さい。場合によっては、説明会を開くのも理解する上で助けとなるでしょう。

（注）熊本市上通町三―三四手取カトリック教会内共助組合九州協議会電話〇九六二―五二―三〇三〇又は〇九六二三―二―二八〇九（野田）

＜ヤング・接近＞

大名町教会　本地純子

「いつも明るく、さわやかに」をモットーに、今年をスタートした大名町教会の本地純子さん。郷里鹿児島県の大隅半島を出て四年目、現在、博多区のシャープ電器に勤務する、底ぬけに明るい今様お嬢さんである。住居は、福岡市の地行に新しく出来た聖体礼拝会の聖家族寮で、シスター達との触れ合いのうちに、充実した日々を送っている。趣味として、フルートを奏るかたわら、歌うことが何よりの心のやすらぎという。

大名町教会の信徒としては、青年会とレジオ・マリエ会のメンバーになり、大いに若い力を発揮している。青年会では、人あたりのよい明るさを生かして、青年同士の人間的なつながりと霊的生活の向上のために真正面からぶつかりながら、小教区の若い層の盛り上がりに協力的である。又、レジオ・マリエ会員としては新しい顔や求道者との接触の中で、文字通り、神の家族へのパイプライン的な役割を引き受けている。

現代青年への要望？を問えば、「自分を含めて、もっとキリスト者としての若い力を実証すべきだと思う。具体的な方法として、ボランティア活動など、目に見えるしるしの実践、社会への働きかけなどを積み重ねることによって、若者は特に、キリスト者としての自覚と責任を身にしみて感じるはずです。そのためにも、ヤングの発奮が絶対に必要です」という若さあふれる答えがこだました。また、若いキリスト者が今後の教会の良き担い手、活動源となるための対策不足を嘆きながら、「教会は、やはりそれなりに、若者を養成する場、機会をもっとつくるよう、今のうちから対応策を考えるべきです」ともつけ加えた。

「明日のために心配するな。一日の苦労は一日で足りる」（マタイ・六の三四）―この聖句を自分自身の生きざまに生かしながら、全て、神まかせ、風まかせ…のタイプで、心の広い、大らかな、しかも、生きがいのある人生を徹底的に生きぬくんだ…という、筋の通った現代っ子―文字通り、〝薩摩のひと〟そのものの気質と円満さが伺える。

（文責・竹森）

聖家族寮

場所　福岡市中央区今川1-2-24

TEL　092-751-2578

対象　OL及び女子大生

大学受験等の短期間宿泊をご希望の方は往復はがきでお申込みください

礼拝会

床工事・室内装飾・清掃取扱一式

有限会社　**創和**

又野征次

西区荒江 1―22―28

TEL (851) 4694

吉川病院

院長　吉川東陽

福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) 聖体の秘跡による生命と愛
(布教) フィリピンにおける宣教師の召命

カトリック家庭の再建

―現代カトリック者の福音的使命―

四旬節の司教教書

カトリック結婚観についての正しい準備と理解

神の摂理と聖座の計らいによって宣教、司牧の任を託された福岡司教は、四旬節にあたり、教区の司祭、修道者、信徒一同に、この教書とともに祝福をおくります。

第二バチカン公会議終了後、すでに十五年の歳月が流れました。その間、文化、思想、制度、生活様式など、ますます世俗化の一途を辿り、人類の未来には黒雲が立ち込め、行く手をさえ切ってさえいるように思えてなりません。その意味で現代は大きな危機に立たされているといってもけっして過言ではありません。

教皇様は、この人類危機の救済が、まず社会の最小核である家庭の福音的再建にあるとお考えになり、世界の司教たちの要請もあって、今年の秋に開催される第五回世界代表司教会議のテーマを「現代社会におけるキリスト教的家庭の役割」とお定めになりました。ですからわたしたちも、「家庭の年」とも呼ばれるこの年の四旬節にあたり、世界の教会とともに、現代の家庭問題に福音の光をあてて見直し、その健全な再建方法についてともに考えてみたいと思います。

一、現代家庭の諸問題

現代の病める家庭の遠因の一つに家庭の核化があるとはいえないでしょうか。日本の家庭は昔から大家族制で、しばしば、二代、三代の人たちが助け合い、はげまし合いながら、仲むつまじく同居する習わしがありましたが、とくに最近、核家族制が一般化し、いろいろの新しい問題を提起するにいたりました。

若い人たちに去られ、孤独や、ときにはきびしい生活苦を余儀なくされる老人の問題もその一つです。

愛され、奉仕されることだけを期待し、わがままで利己的な子供や、困難に立ち向かうたくましさがなく、独立性に欠ける子供が増加しつつある事実も、核家庭にともないがちな、子供に対する過保護の結果だとは言えないでしょうか。

平田福岡司教

さらに独立した若い夫婦も、その人間的、社会的未熟さのゆえに家庭生活、夫婦生活がしばしば耐えられないほどの重荷となり、適切な援助や助言も得られないままに、二人の間の溝が深まり、ついには破局に導かれることもけっしてまれではないようです。

現代の急激な価値観の変化は、家庭の弱体化に決定的な影響を及ぼしていると言えましょう。唯物論、無神論、そして科学万能主義の思想に毒された現代社会は、当然のことながら、あらゆる価値の秩序を見失うようになりました。

信仰、宗教の価値などは、せいぜい過去の遺物ぐらいにしか評価されません。

そんなことから、普遍的、客観的道徳を否定し、個人主義的、功利主義的な自由奔放の生き方の中に「生きがい」が求められる風潮が強くなってきました。

このような現代思想や社会環境は、また家庭に大きな悪影響を及ぼすようになりました。同棲、離婚は言うに及ばず、人工的避妊や堕胎までも平気で行われるようになり、健全な家庭の成立に不可欠な、相互信頼や愛は姿を消し、その結果、家庭は豊かな「物」のかげにあって、血のかよわない冷え切った個人の集団と化し、ついにはいろいろの不幸や犯罪の源ともなり、ときには青少年非行の温床となっていることさえも、まれではありません。

いまや現代の家庭の多くは、船頭もいない舵もないまま、荒れ狂う大海原をさまようよう小舟のように目的も支えも、そして光さえも失って、はてしなき暗黒の世界を突進しているようにさえ思えるのです。

二、カトリック的家庭観

以上、現代のいくつかの家庭問題を指摘しましたが、いまそのひとつひとつについて検討することはできませんので、ここではこれらの問題解決の鍵となる、カトリック的家庭観について、簡単に考察するにとどめたいと思います。

社会の最小核で、人間の肉体的、知的、霊的、精神的完成の最初の場である家庭は、結婚によって成立するわけですから、まず結婚について考えてみる必要がありましょう。

男女が自由に、お互いの生涯の伴侶として相手を選び、公的契約を結ぶとき結婚が成立し、さらにそれが教会の規定に従い、キリストの名において結ばれるとき秘跡として成立します。ところで二人を実際に結ぶのは神でありますから、神が合わせたもうたものを人間はだれも離すことはできないのです。

聖パウロは、結婚における夫婦の愛による結びを、キリストと教会との神秘的な愛の結びになぞらえて、次のように教えています。

「妻は夫に対して、主に対するようでなければなりません。なぜならキリストが教会の『頭』、その『体』の救い主であるように、夫もまた妻の頭だからです。教会がキリストに従っているように、妻もまたすべてにおいて夫に従いなさい。夫は妻を愛しなさい。キリストも教会を愛し、そして教会のために御自分をきし出したからです。……このようにして、夫も妻を自分の体として愛さなければな

(二面につづく)

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)
TEL 代表 092(521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

(一面から)

りません。妻を愛する者は自分自身を愛しているのです。いまだかつてわが身を憎んだ者はなく、かえってそれを養いはぐくみます。キリストも教会に対してそのようになさいました。実に、わたしたちはキリストの体の一部分なのです。『それゆえに、人は父母を離れて妻と結ばれ、二人は一体となるのです』この神秘は偉大です」(エフェソ5・22―23)。

わたしたちは右の聖パウロのことばから多くの教えを引き出すことができます。まずキリストと教会の新らしい契約が永久であるように、夫婦間のそれも永久で、不解消でなければなりません。またキリストが契約に忠実で、教会がキリストから目をそらすような時にも、ゆるし、約束のお恵みを与え続けられるように、夫婦間の契約もたとえいかなる困難や試練にあっても、常に与え合い、ゆるし合い、契約に忠実でなければなりません。

教会がキリストとの結びによって神の子らを誕生させ教育していくように、夫婦の愛の結びにも、その結晶として子供が恵まれ、両親には、この子供たちを教育する権利が与えられ義務が課せられます。神の子らを生まない教会、生まれた子らを司牧を通して教育しない教会は考えられないからです。子供を生み育てる親の権利と義務はそのまま神の意志の表現ですから。これに反する行為は神の意志に反すると考えるべきです。

夫婦の愛と一致は、親子、兄弟に及び、家庭の生命源となり、お互いはこの一致と愛に支えられて人間としても、キリスト者としても自らを完成し、みんなで力を合わせながらキリストの聖家族の姿を再現していかなければなりません。

三、カトリック的家庭の実現のために

現代社会の種々の混乱の原因の一つはたしかに、家庭の弱体化ないし崩壊にあるといえますから、健全な家庭の再建はそのまま健全な社会の再建につながるといえます。したがってカトリック的家庭を実現することは、現代カトリック者の福音的使命だと思いますので、そのためのいくつかの具体的対策についても考えてみましょう。

まず、カトリック的結婚観についての十分な、そして正しい理解が必要です。だから結婚の準備をもっと徹底させて、結婚の倫理や結婚の人間的、社会的、キリスト教的意義や義務について、とくに夫婦契約への忠実さ、いろいろの困難や試練を経て完成されるべき夫婦愛、人工的避妊と堕胎に関する教会の教え、子供の教育についての両親の重大な責任について正しく理解し、これを受諾することが大切です。

キリスト教家庭の再建は、キリスト教的愛を絶対条件とします。家庭は対神、対人愛の最初の学校だからです。聖パウロが教えるように「寛容」で「慈悲深い」愛「ねたまず、高ぶらず、誇らず」「すべてをこらえ、すべてを信じすべてを望み、すべてを耐え忍ぶ」「コリント前13・4―7)愛なしに、人間の共同体は理想の姿を保つことができませんし、家庭といえどもけっして例外ではないからです。

現代、次第に忘れられつつある家族揃っての祈りも、キリスト教家庭実現のため、なくてはならないものです。神のみ前で結ばれた結婚が、祈りに応えて豊かな恵みを与える秘跡であることを忘れてはならないでしょう。家庭は祈ることなしに、その生活に伴うあらゆる困難を克服して、おのおのの義務を忠実に果たし、愛に生きることはできないでしょう。ですから、家庭祭壇を中心に一家そろって祈り、手に手をとりあってミサ聖祭に行くあの美しい姿を、再現していただきたいものです。

むすび

以上のようなわけですから、今秋ローマで開かれる世界代表司教会議は、時宜にかなった企画として大いに期待するとともに、心を合わせてその成功のために祈りましょう。また各自の家庭においてカトリック的家庭観を具現化したいものです。そうでなければ、せっかくの教会のすばらしい教えもその証しを失い、人びとに、「医者よ自らをいやせ」との冷い嘲笑を受ける結果になるでしょう。

わたしは皆さんが、聖家族の模範にならい、深い信仰と愛に結ばれて、すばらしい「カトリック」的家庭を築かれて、幸せな家庭生活をおくられるとともに、「世の光」として現代社会に光を放ち、キリストのみ教えの生きた証人となってくださるように祈り、かつ期待します。

1980年の四旬節
教皇のメッセージ

毎年、四旬節が近づくと、教皇は、全教会の信徒に呼びかけ、わたしたちが真の自由を得るために備える期間として四旬節を正しく過ごすよう励まします。

悔い改める心とその業は、真に神が望まれる人間となることを妨げる不必要な財産からわたしたちを引き離し、時には、必要な財産からさえも引き離します。「なぜなら、あなたがたの宝のあるところには、あなたがたの心もあるだろうから。」(ルカ12・34)わたしたちの心は物質的財産他者に対する権力狡猾な手段をもって支配することに執着しているでしょうか。もしそうであるなら、わたしたちには、救い主が必要です。わたしたちが心から望むなら、復活した世の解放者は、わたしたちを固く縛っていた全ての罪の絆から解き放してくれます。

復活による救いの恵みによって、また、不正の富を捨て去ることによって、わたしたちが豊かになれるよう準備しましょう。わたしたちが必要としない物質的財産も時として、多くの人々が生きて行くための不可欠の条件ともなるのです。又、単に生きて行くことの他に、何億もの人々は、全体的人間社会の発展の為、自国の経済的、文化的発展の為に必要な方法手段が与えられるよう、援助の手を待ち望んでいます。

しかし、心を込めた贈り物をするだけでは、人の心を変えるのに充分ではありません。必要なのは心と心の交わりの中で、わたしたちが持っているものを、同じ社会に生きている最も顧みたくない仲間、全てを、時には人間としての尊厳さえもなくした人々、止むなく先祖からの愛する故国を離れなければならない難民たちと、互いに分かちあうようにとわたしたちを強いて止まぬ精神の変改です。そこにおいて、わたしたちは難民と死からあがなわれた神の救いの神秘を見い出し、神と最も親しく生きることになるのです。真の分かち合い、それは他者との交わりであり、わたしたち自らを奴隷の状態から解き放させてくれます。

そして、他者を兄弟、姉妹としてうけとめ、わたしたちが同じ父の子であることを改めて気づかせてくれます。「神の相続人でありキリストと共同の相続人なのである。」(ローマ8・17)わたしたちは、この父から不朽の富を頂くのです。

それゆえ、私は、四旬節中、あなたがたの司教方と、個人的に、あるいは、この運動を共に行なう人々による要望に応えるようお勧め致します。あなたが、この運動から最初に恩恵を被る人となるでしょう。なぜなら、この呼びかけに応える時、唯一の真の自由への道を歩き始めるでしょうから。

皆様の努力と、洗礼の恵みを受けた全ての人々の努力がひとつに結ばれ、キリストの愛を証し、闘争と不正によって引き裂かれ、もはや神の愛を証しするものはなく、幻滅を感じるこの世界が意識するとしないとにかかわらず、切に望まれる「愛の文明社会」が築き上げられるでありましょう。

父と子と聖霊の御名によって、皆様の上に祝福がありますように。

三月年忌の司祭

▼エウゼーヌ・ジョリ神父(パリ外国宣教会)一九六六年三月六日
▼フランソワ・マリー・ヴェイヨン神父(パリ外国宣教会)一九七三年三月十二日元唐津教会主任。
▼ルイ・マリー・ベリボー神父(ドミニコ修道会)一九七七年三月十六日元福岡教会主任。
▼マキシム・ボネ神父(パリ外国宣教会)一九五九年三月十九日元新田原教会主任。

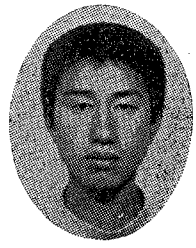
(終生誓願)

師イエズス修道女会福岡修道院は、二月十一日午後二時から、四人の終生誓願式を行った。

平松千枝子(長崎・宝亀)
村上　洋子(長崎・出津)
谷口　和枝(長崎・上神崎)
梶野　芳子(名古屋・布池)

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正　金　診　療　所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (713-7912)
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657



＜ヤング・接近＞
新田原教会　山添幸二

〝ひとり旅〟―「あてもなく、さまよい歩く人生に、何かの生きがいを見出したい」と語るのは、新田原教会の山添幸二君。

〝孤独を愛する男〟と自称するその胸のうちに、静かなる闘志を秘めた言動が、男の魅力を漂わせる。現在、日産自動車会社に勤務する、二十一歳の燃える男―新田原の〝若大将〟である。

新田原教会では、青年会と典礼委員会のメンバーとして活躍している。典礼委員には、最近選ばれたばかりでよく分らないが、典礼の刷新と向上に惜しみなく若さをぶつけたいと言う。一方青年会では、主に渉外担当の部門で、他の小教区、地区、教区、そして全国の青年へと、連帯の輪を広げるべく忙しく動き回っている。間近に迫った80年全国青年大会の準備のために、教区内外、九州各ブロックの青年達との連絡等に神経を使いながらも、「80年大会で、若者独自のキリスト者としての道と理想を追求するのに、同年代の若者が一堂に集まることは有益である。ひとりでも多くの青年が、日本人・キリスト者としての使命感に燃えるためにも、喜び勇んで長崎に結集することを望んでやまない」と主張する。

一青年として、現代の教会について思うことは?と問えば、「最近の教会に危機感を覚えてならない。というのは、特に若者が、信者としての意識に余りにも欠け過ぎているように思う。21世紀の教会を担うべき現代の若者が、なまぬるい考え方であっては、将来の教会は必ず行き詰まる。だからこそ、今の我々若者が立ち上がらなければ…」と訴えている。

更に、個人的に最近思うこととして一言、つけ加えて欲しいとの言葉がある。それは、余りにも裕福すぎる現代日本のキリスト者はもう少し貧しさを知る必要があるということである。特に、東南アジアの人々の生活実態を考慮に入れて、彼らの貧困さに対する、物心両面での協力、援助を差しのべるべき責任があるのでは、この切なる胸のうちを明かしてくれた。

人生は旅である―永遠の故郷を目ざす教会の、旅路の途上に立ちはだかる様々の荒波に、真正面から立ち向かうべき現代こそ、我々若者の出番…〝立ち上がろう!80年代のヤングマン!〟と訴え続ける静かなる闘志が勇ましく美しい。

（文責・竹森）

会合と催し

☆平田　司教
3月2日　老司教会堅信式
4日　司祭月例集会
11日　司祭評議会
20日　司祭叙階式（新田原）
23日　行橋教会堅信式

☆福岡黙想の家
3月3～6日　聖アウグスチノ修道会の黙想会
8～10日　岩国の外人黙想会
11日　外人司祭の集い
22～23日　四旬節黙想会

四旬節中のお願い

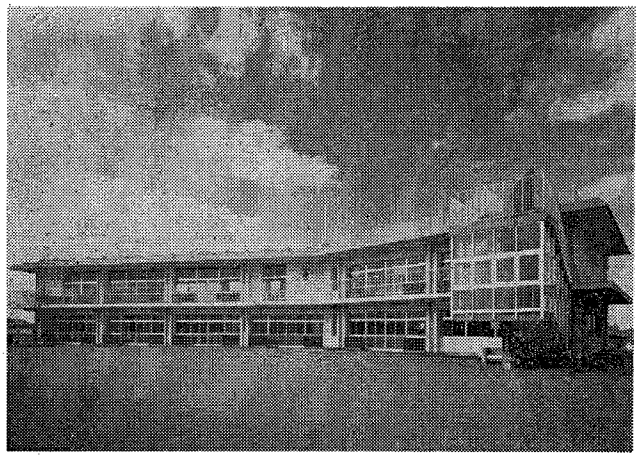
▽四旬節の愛の運動（献金）
インドシナ難民救済のため。
全国司教団の総意に基づき、六〇〇〇万円の目標で募金する。

▽聖金曜日の献金
エルサレム教会の援助のため。

神を讃える園児の歌声
茶山カトリック幼稚園落成

二月九日（土）午前十時三〇分から、新装なった茶山カトリック幼稚園（園長・伊東誠二師）の祝別、落成式が行われ、平田司教をはじめ、多数の参加者でにぎわった。

新園舎は営建築設計事務所、松尾建設株式会社の施行のもとに、鉄筋コンクリート二階建、全館暖房設備付きで、九三九・四五二平方米の面積である。収容定員は二八〇人となっている。住宅群を見下す高台に位置するために教育環境は申し分なく、新しい皮袋に新しい酒を注ぐ、これからの幼児教育に大きな期待がかかっている。

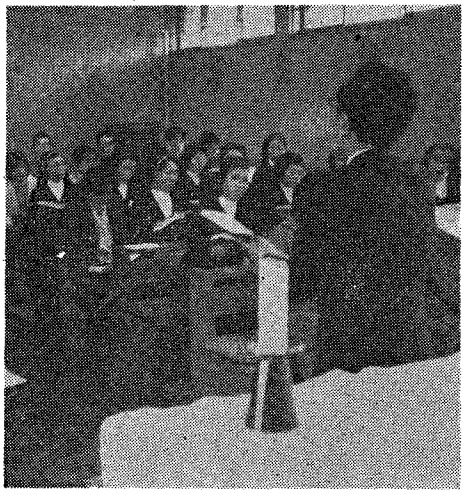


新築の茶山カトリック幼稚園

待望の典礼聖歌研修会
各地から多数参加す

二月十日（日）午後四時三〇分から十一日（月）午後四時まで、典礼聖歌研修会が福岡黙想の家で開かれた。

教区内各地の五十人の参加者が、熱心に、黙想風の講話に耳をかたむけ、又、聖歌の練習に有益な時を過ごした。聖歌が共同体の祈りとして、典礼の重要な一部分であることに留意するとき、典礼聖歌の研修会は、各地において、頻繁に開催する必要がある。深堀純氏の適切な聖歌の指導に間を持たせるように、鈴木師の霊的講話が心の準備となり、研修の二日間があっという間に終わった。



聖歌練習風景

福岡教区神学講座
（昭和五十五年第一学期）

一、講義科目および担当講師
4月8日　ペトロの宣教と業蹟　高木師
4月15日　〃
4月22日　ゆるしの秘跡　ラプラント師
4月29日　〃
5月6日　〃
5月13日　ペトロの宣教と業蹟　高木師
5月20日　〃
5月27日　ゆるしの秘跡　ラプラント師
6月3日　病人の塗油の秘跡　ラプラント師
6月10日　〃
6月17日　教会史（近代の教会）　高木師
6月24日　〃

二、講義期間
4月8日～6月24日まで毎週火曜日

三、講義会場および時間
福岡聖母学園中学教室
一八時～二〇時四〇分

四、受講料
四二〇〇円（当日会場において受付ける）

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう、
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5―4―12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　TEL 272―0671

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860　熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

共助組合とは（3）

野田義之

共助組合とは相互扶助の一形態であって、組合に参加する動機は商売をしたり会社や官庁で働いて金や地位や名誉を得るためであってはならない。又便利のために一応組合員になるという、利己的な動機だけで参加する人たちだけの組合であってはならない。ここで組合と組合の関係について考えてみよう。

共助組合はもちろん組合員自身のために組合員自身がつくるものである。従って、組合は事務所、組合員が出した出資金を組合員で運営をする人がなければならない。

そこで、組合員と組合にはそれぞれ異なる利害関心があり、それにもとづいて、組合員の自由と組合の側の自由とを調和させることが大切である。

組合員の自由

組合に入りたい人は誰でも組合に加入して、他の組合員と同等の立場で便益をうける自由をもつ。もちろん、そこには組合員として当然の責任分担がともなう。そうして、加入にさいしてはいかなる強制もあってはならない。加入申込の決心は、自分で協同の価値を判断し、家族を含めて相互扶助になると考えた結果でなければならない。したがって、組合を利用する必要がなくなり、あるいは自分の必要を充たしえなくなったときは、脱退もまた自由でなければならない。とはいえ、自由というものの本来の性質からいっても無制限ではありえない。

組合側の自由

組合にも、場合によっては加入をことわることさえあってもいいのである。また組合員全体の利益のために、組合員を除名する権限をもつ自由も必要である。

加入申込があったから何がなんでも受け入れなければならないと解釈するのは誤りである。無責任者や利己主義者のために、組合の発展と協調がうまくいくかどうか疑問となる。だから、組合員の結束をみだすような者があれば百害あって一利なきものとなる。

組合員の脱退と除名

脱退も自由である、けれども加入にさいして引受けた責任を放棄することは許されない。脱退は出資金の払い戻しにつながるので、組合の運営を危機におちいらせることさえある。

共助組合は組合員全体のために正当な理由があれば、個人の組合員資格を剥奪する権限を持つべきである。この場合には、除名という手段に訴えることが許される条件決定に至るまでの手続を定款・規約に明記しなければならない。

民主的運営

共助組合の目的は、組合員の相互扶助の実をあげることで、何が相互扶助を前進させるかは、組合員お互い同志の意見の交換によって、組合員全体としての意志をまとめあげて行かねばならない。これが民主的運営である。だから組合を生かすも殺すも、組合員が組合に対する日ごろの関心と支持のいかんにかかっているのであるから組合を運営する人は、組合員の信任をえている人でなければならない。

運営に当たる人は組合員に対して責任をとり運営状況を定期的に報告して組合員の審判をうける。

共助組合は株式会社と違って人間の組織であるから、組合員として平等の立場で組合の方針に意見をのべる場を提供しなければならない。そして議決に参加する一人一票の原則を守らなければならない。

教育

共助組合運動は相互扶助の一形態で経済協力組織であって、現在日本の共助組合はキリスト教共同体の中において、効果的な共同体経済組織であることを忘れてはならない。共助組合は、個人のためにある組織で、共助組合の刷新は個人を教育することによって達成される。子供達に勉強しろというが、大人自身が勉強しなければならない。

教区内カトリック高校の受験者状況

学校名	定員	受験者数
泰星学園高校	200	441
雙葉学園高校	200	613
福岡海星女子学院	150	234
明治学園高校	75	227
入来学園	250	1,651
明光学園	250	1,089
八代白百合学園	200	609
熊本マリア学園	490	1,572
マリア学園高校	100	279

清新の気にもえて再出発

増・改築の呼子カトリック教会

昨年十一月二十五日（日）王たるキリストの祝日に、増・改築の落成式を行った呼子カトリック教会は、屋根の上にイエズスの聖心像をいただく、一風変わった建物である。このたび、一〇〇年の年輪を刻んだ木造の教会は、すっかり若返って面目一新している。

当日、平田司教を迎えて堅信式があったが、参集した信徒は、十七・九坪広くなった教会内部を感無量の面持ちで眺め、感謝の祭儀にあづかった。

午後一時から、祝賀会に移ったが、県内外の司祭、その他の来賓が大勢集まった。教会の増・改築を機に、清新の気にもえる信徒は再出発の力強い宣言を行った。

増改築の呼子教会内部

山元真師司祭叙階式

日時　昭和五十五年三月二十日　午後一時三〇分

場所　行橋市大字東徳永三八四　新田原カトリック教会

第18回結婚講座

盛会裡に終了

第18回結婚講座は、二月七日から十六日まで、福岡・大名町カトリック教会で開かれたが、盛会であった。

四十八人の参加者の中には、遠く大阪から新幹線で通って受講した人もあり、主催者側を感激させた。一人で受講したある者は、相手にも聞かせたかった、と感想を述べていた。

結婚講座は、結婚生活の生きた体験を語る講師陣によって準備されているが、カトリック司祭の講話や医学的講義も、必要に応じて提供している。幸福な結婚生活の分かち合いを念願するのである。

移動信徒に配慮を

今年もまた、進学、就職等で、転出・転入信徒の多い時期となりましたが、各小教区の主任神父様をはじめ、信徒の皆様の御協力御配慮をお願い致します。

特に、青少年の場合は、新しい土地の人々の第一印象が大切で、転入する新しい顔に対する、暖かい受け入れ体勢を、司祭・信徒一丸となって整えて下さいますようにお願いします。

他教区からの転入者につきましては、各小教区あてに、転出入証明書の外に、別紙にて、一覧表を後日お送り致しますので、よろしく御配慮下さいますよう、お願い致します。

（教区移動担当司祭・竹森勇）

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1—22—28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) 司祭および修道者の召命の増加
(布教) 大洋州における福音宣教

創設50年目に新司祭誕生
新田原教会の祈り天に通ず

喜びの聖なる油注がれる

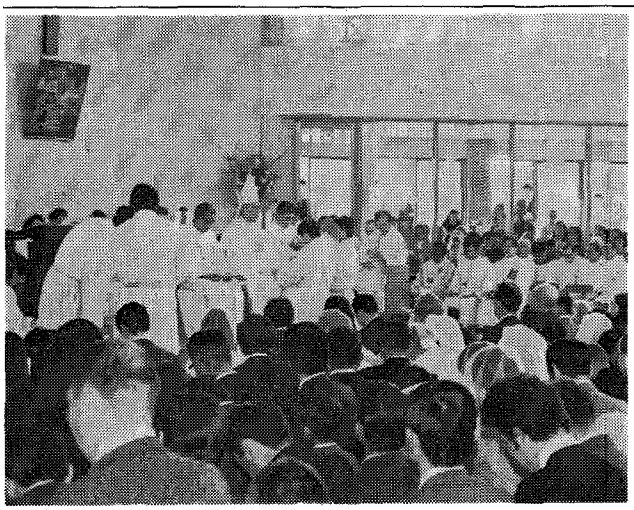
雨もようの三月二十日午後一時三〇分から、新田原カトリック教会（主任山川辰幸師、信徒一、六五一人）で、山元真師の司祭叙階式が盛大に行われた。

小教区開設以来50年目の、最初の司祭誕生という壮挙に、喜びと自信にみちた信徒たちが、三々五々聖堂内に参集した。

定刻を知らせる鐘の音がひびく中を、主司式者平田司教は、六〇人の司祭団と入場し、叙階式のミサをはじめた。

平田司教は、叙階の儀直前の説教をつぎのように切り出した。

「みなさんは50年このかた、善き牧者司祭を与えてくださいと祈り続けてきたが、聞きとどけられた。壮厳な儀式で司祭叙階式ができることは、私にも皆さんにとっても感謝の心で一杯である。また、14年前神学校に入り、よい友よい先生にとり囲まれながら、司祭職を目指してきた新司祭の胸中は察するに余りあるものがある。更に、子を心よく捧げた両親やそのご一族に心からお礼を申し上げたい。」


山元真師の叙階式

続いて、司教は、善き牧者キリストを原点とする司祭職の在り方を熱っぽく説いた。「司祭とは？

キリストの救いのみ業に参与する者である。善き牧者キリストにつづく者である。『私は羊をよく知り、羊はまた、私をよく知っている』。キリストは『羊に生命を、豊かな生命を与えるために来た』。牧草や水がどこにあるかを羊に知らせ飲食させる。飢えた群集をパンで養い、とくに、か弱い、病気の羊のためにじっとしておれない。羊を探し求め、迷える羊を羊の家（教会）に連れ戻すキリストは、憂する者のため苦しむことを苦しみに感じない。司祭は聖体、ゆるしの秘跡をもって善き牧者の任務を果たす。地上の雑音は聞こえても、神のみ声が聞こえない病気の羊を治す司祭の仕事は、キリストそのものである。信者の司牧だけでなく、キリストを知らない人のためにも働くのである」。

最後に、新司祭が生涯神のみ前に忠実であるように、また、後輩の司祭志願者のためにも祈りと配慮をお願いして話を結んだ。

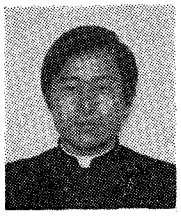
やがて、叙階の儀、感謝の祭儀と進み、一時間四十五分に及ぶ壮厳な儀式は終了した。

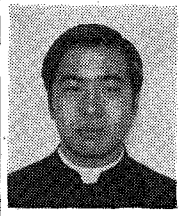
聖堂内の祝賀式典では、教会青年団が大分県岐部町から、徒歩で二十二時間かけて巡礼しながら運んだという十字架の贈りものが印象的であった。四人姉弟の末子である山元師は、一九六六年小神学校一九七二年大神学院入学、一九八〇年卒業と同時に司祭叙階。

助祭四（福岡教区一）
福岡・大神学院の叙階式

福岡サン・スルピス大神学院は、三月十六日午前十時から、助祭ならびに下級聖品の叙階式を行った。糸永鹿児島司教を主司式者に、平田福岡司教や多数の司祭の共同司式ミサで、三人の宣教奉仕者（福岡教区二、長崎教区一、鹿児島教区一）、四人の教会奉仕者（長崎教区四）、四人の助祭（長崎教区三、福岡教区一）が誕生した。その一人松井助祭は福岡教区小倉。

大神学院は八年制で、ラテン科二年、哲学科二年、神学科四年となっていて、原則として、高校卒または大学卒の未婚男子信徒で、司祭職を志望する者でなければならない。宣教奉仕者は神学科一年末に、教会奉仕者は神学科二年末に、助祭は神学科三年の三月に叙階されるのが一般である。


山元新司祭


松井助祭

お礼をのべる新司祭

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092 (521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

教区信者総数二八、四八九
大神学生九、小神学生九
前年比四五二人の信者増加

一九七九年十二月三十一日現在の福岡教区教勢は、つぎのとおり発表されている。

(一)信者総数（司祭、修道者、神学生、居所不明を含む）は二八、四八九人。信徒のみの実数は、二五、四五九人。小教区数は五七。子供と大人の受洗者数（臨終洗礼を除く）は六四七人。転入者一、〇一一人。死亡者数は一三五人。転出者は一、〇六九人。居所不明者は二、三八二人。

(二)聖職者および神学生
司教二。邦人教区司祭三三、邦人修道司祭一二、外人司祭六一。教区小神学生九、教区大神学生九。

(三)修道者
男子修道者九、修道女は邦人四三六に対し外人二六、志願者四三。

(四)伝道師
男子五、女子二九人。

(五)教育施設
短大一、高校九、中学校五、小学校三、各種学校三、幼稚園・保育園五六、日曜学校三五。日曜学校を除く教育施設への通学生は二〇、七一一人。

(六)社会施設
病院一（ベット数一一七）、老人ホーム五（老人数三六三）、養護施設七（児童数四四五）。

(七)活動団体
レジオ（十二プレシジウム、八二人）ボーイスカウト（一一分団二六二人）婦人会（二六支部一、二三八人）青年会（一八支部一七一人）学生会（一一支部一九六人）信徒使徒職会（一〇支部一八一人）聖書研究会（五支部八七人）ミサ奉仕会（九支部一六六人）。

前年に比較してみると、受洗者（子供と大人）は二九人増、転入者が三五五人減、転出者は一四八人増となっている。ここで注目すべきことは、居所不明の信徒数が前年の二、二六三人に対し二、三八二人（一一九人増）にも上っている事実である。

司祭銀祝の畠山七郎師
教会・小神学校の重責果たす

三月二十一日、畠山七郎師（福岡小神学校校長）は、司祭叙階二十五周年の喜びの日を迎えた。

一九五五年三月二十一日、司祭に叙階された畠山師は、地行、大牟田、吉塚教会の助任を経て、大牟田教会主任となり、八年間の司牧に当たった。その後、茶山教会主任を二年続けたが、神学生養成の要望にこたえて福岡小神学校に赴任、八年の間、黙々と、小神学生育成の重責を果たしてきた。

畠山師は、カメラとステレオに造詣深く、一家言を持っている。部屋のステレオは、かれの守護の天使かもしれない。

（司祭異動） 四月一日
熊本県人吉教会主任　畠山七郎師（福岡小神学校校長）▽福岡小神学校校長　竹森勇師（大名町教会助任）▽福岡小神学校付　山元真師（新司祭）▽大名町教会助任　大田一男師（高宮教会助任）

お知らせ

▽四月十三日（日）午後一時から高宮教会で、典礼聖歌研修会例会が開かれる。

▽四月二十八日～二十九日、高宮教会で、教区内共助組合役員のための研修会が催される。

四月年忌の司祭

▼フランソワ・ザビエル・ブレンゲ神父（パリー外国宣教会）一九四六年四月五日元佐賀教会主任。

▼ヘンリ・レウトル神父（パリー外国宣教会）一九四四年四月二十五日元新田原教会主任。

福岡教区教勢
（1979年1月1日―12月31日）

小教区名		洗礼 子供	洗礼 大人	洗礼 臨終	求道者	世帯数	婚姻 信徒間	婚姻 混宗	信徒数1978年	実名簿の数	上信徒
福岡地区	茶山	4	1	0	5	102	1	2	424	443	
	大名町	10	22	3	26	245	6	17	1,391	1,394	
	二日市	6	3	0	3	72	1	2	319	337	
	箱崎	3	9	0	6	19	1	1	110	118	
	東田島	11	12	0	7	111	1	2	446	486	
	光ケ丘	14	4	0	25	261	0	5	634	649	
	本郷	5	1	0	1	110	1	1	612	635	
	今村	14	1	2	7	225	3	9	1,224	1,224	
	浄水通	3	3	1	64	82	0	3	208	219	
	古賀	2	1	0	3	134	0	1	383	383	
	久留米	15	13	0	30	705	3	9	705	1,068	
	馬渡島	7	0	0	0	92	0	0	483	489	
	美野島	6	0	0	7	55	0	6	228	269	
	西新	14	8	0	5	120	1	4	506	788	
	小郡	5	1	0	0	74	2	1	246	248	
	大楠	8	3	0	50	69	1	2	159	231	
	大牟田	3	1	2	7	68	0	2	220	260	
	老司	11	13	0	11	139	1	5	348	348	
	高宮	7	0	0	2	69	0	7	444	494	
	吉野	0	0	1	5	14	0	1	34	47	
	吉塚	5	5	2	10	135	1	6	350	440	
計		153	101	11	274	2,901	23	86	9,474	10,570	
北九州地区	八王寺	3	2	0	16	60	0	4	234	234	
	飯塚	5	9	0	2	45	0	0	209	211	
	小倉	24	50	0	90	733	6	18	2,153	2,438	
	黒崎	8	5	0	7	347	2	10	1,069	1,136	
	水巻	6	1	1	12	156	0	1	542	557	
	門司	4	2	1	7	177	0	1	443	454	
	門司港	3	7	0	5	64	2	1	164	171	
	直方	4	2	1	3	35	1	2	135	135	
	新田原	26	4	10	5	385	7	2	1,616	1,651	
	田川	4	1	0	2	43	1	1	156	189	
	天神町	7	12	0	6	137	1	3	318	330	
	戸畑	17	18	1	90	339	3	7	961	1,298	
	若松	0	0	0	0	103	1	1	358	358	
	湯川	16	1	0	5	262	1	3	1,001	1,001	
	行橋	9	1	0	4	138	2	0	501	572	
計		136	115	14	254	3,024	27	54	9,860	10,735	
佐賀地区	伊万里	2	3	0	1	64	1	0	152	160	
	唐津	7	4	1	5	116	1	4	333	344	
	鹿島	0	1	1	0	34	0	0	83	83	
	佐賀	7	17	18	12	275	2	6	597	659	
	武雄	1	0	0	0	45	0	0	98	132	
	多久	3	1	0	2	35	0	0	102	106	
	鳥栖	6	6	0	5	40	0	1	211	236	
	呼子	8	1	0	0	85	3	2	458	458	
計		34	33	20	25	694	7	13	2,034	2,178	
熊本地区	荒尾	0	4	0	5	35	0	0	79	79	
	人吉	6	0	2	3	60	0	1	225	234	
	本渡	1	1	0	1	112	0	2	199	204	
	健軍	8	1	1	8	115	0	1	390	391	
	菊池	0	0	0	2	65	0	1	283	339	
	水俣	0	2	0	7	60	0	0	139	146	
	帯山	1	5	0	6	131	1	2	349	349	
	大江	3	6	0	6	124	2	3	425	480	
	崎津	5	2	0	3	98	1	3	309	318	
	島崎	3	5	2	90	132	0	4	409	409	
	玉名	1	0	0	2	26	0	2	87	95	
	手取	9	7	6	7	460	1	5	937	1,052	
	八代	0	5	1	2	94	0	6	260	263	
計		37	38	12	79	1,552	5	30	4,091	4,358	
合計		360	287	57	632	8,171	62	183	25,459	27,841	

（註）司祭・修道士・修道女・神学生は含まれていない。

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657

〈羊飼いの牧場〉

新しい使徒職に思う

百村　等

長年住みなれた東京をあとに、新しい任地福岡に来て早くも四か月になりました。司祭受階以来十六年、ずっと東京に住み、本会の主な使徒職である出版事業にたずさわってきましたが、あるきっかけで、修道会における召命と養成の重要さ、その不足を痛感し、できることならその分野で働きたいものと、二、三年前から強く望んでいました。ですからこの度の転任は、やっと念願がかなえられた、というのが正直な感想です。

もちろん、新しい任務を前にして、期待に胸ふくらませながらも、一抹の不安があったことも否めません。同じ修道会内のこととはいえ、仕事がかわる、しかもそれが初めての仕事となれば仕方のないことでしょう。福岡修道院は新しい召命をさがし、養成する場であります。直接宣教の場から人間教育の場に移るのです。

教育、それは、この地上でもっとも重要で崇高な仕事の一つであると考えています。それだけに、この任務をふさわしく遂行できるだろうか、自ら望みはしたものの、果たして自分は適任なのかどうか、判断に迷っています。古くて新しい問題、非行少年、とくに最近の犯罪の低年齢化、ショッキングな事件を耳にしますと、中堅司祭というプライドからくる自信も、無残にくずれそうになります。

昨年から今年にかけて、小・中学生による凶悪犯罪は、文字通り〝相次いだ〟といってよいでしょう。

なかでも、六法全書を研究した少年が、十四歳未満は刑事事件にならないことを計算すくで、計画的に母親を殺そうとした事件は、思うだに背筋が寒くなります。しかもこの少年、並居る刑事たちに将来は検事か弁護士になるのだ、とうそぶいたそうです。

特殊なケースでしょうが、このような社会現象は、志願者（中学生）の養成にたずさわる身としては、別世界の出来事と、看過するわけにはいきません。

世の評論家たち、母親たちは口をそろえて、社会が悪い、テレビの影響と嘆きます。一理はありません。ある調査によると、テレビでは一日平均、殺人がなんと九十件、婦女暴行四件、暴行傷害四十六件が演じられるそうです。テレビ中心の現代のこと、しかもチャンネル権を子供たちがもっている状態では、毎日すさまじいシーンに見慣れ、犯罪に鈍感になる、マネをする、といえるでしょう。

しかし、原因をテレビにのみ帰するのは、責任の転嫁としか言いようがありません。視聴率を絶対視するあまり、より刺激的な描写へとエスカレートする制作側の態度はもちろん是認できませんが、無差別・無分別・無規制に受けいれる家庭により大きな責任があるように思われてならないのです。

今年のシノドスも広報の日のテーマも、そして聖書週間も、この「家庭」を大きくとりあげています。広報の日のテーマ「マスメディアの役割と家庭の使命」は解説で、家庭における独自の規制が必要であり、とくに子供に対しては親が注意深く見守り、正しい判断の訓練を行わなければならない、と述べています。

ところが、現状はまったく逆のようです。神戸市立児童相談所は最近、家庭内凶暴（子供）の実態を報告しましたが、その原因を、幼い頃から子供たちの欲望をコントロールできず、子供の言いなりに物をふんだんに与え、わがままいっぱいに育てた親たちの無責任にある、と分析しています。「自分がこんなになったのはおまえが悪い」これは勝手な言い分にちがいはありませんが、三分の理はあるように思います。すでに言い古された「過保護」、教師の愛の鞭さえも暴力と抗議する親たち、価値判断の基準ももたず、子供に正しい価値観を与えなかった親たちの責任は大きいでしょう。

しつけを学校に押しつけ、対話もなく、物事のけじめ、がまんすることを教えなかったため、暴君と化したわが子を前になすべを知らず、ただオロオロする親たち。少し酷かもしれないけれど、彼らは今、その報いをうけているように思われてなりません。

司祭職と、養成というもう一つの聖職を引きうけた今、なげかわしい現象を目のあたりにして、自分もまた世の親たちと同じく、いや、それ以上に、神の子供たちを養育する責任の重さを痛感しています。

（聖パウロ修道会司祭）

会合と催し

▽平田　司教
4月3日　聖香油ミサ（浄水通教会、11時）
6日　復活祭（大名町教会）
8日　司祭評議会常任委員会（10時30分）
13日　加賀山マリア殉教祭野外ミサ（熊本、11時）
24日　コンベンツアル修道会来日50周年祭（長崎、本河内10時）
27日　大名町教会堅信式
29日　ドルエ師70年、ボンカズ師60年司祭受階記念ミサ（八幡八王寺）

▽福岡黙想の家
4月3～4日　福大の聖書研究
8日　外人宣教師の集い
17日　ミカエル会
19～20日　復活黙想会
20～21日　コイノニア会
26～27日　古道グループ

◇ヤング・接近◇

大名町教会　井上啓子

「受洗して丁度一年、今、キリスト者として、充実した毎日を過ごしています」と胸を張るのは、大名町教会の井上啓子さん。東区の名島に住むOL。今年、成人式を迎えたばかりで、花も実もある二〇才・青春のまっただ中にある読書とレコード鑑賞が趣味で、もの静かな性格の反面、その言動には、芯の通った現代っ子らしいダイナミックな面も伺える。

ものごころつく頃から、神に対しての神秘的なイメージに引かれ、やがて教会に対しての意識も強くなって来た。高校の三年間を、ミッション系の学校で学ぶうちに、祈りの雰囲気に目覚め、高校卒業の頃から公教要理の勉強開始、昨年の復活祭に洗礼にまでこぎつけたという。

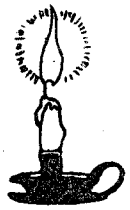
〝キリスト者一年生〟として今思うことは、「受洗した当初は、日常生活と、自分のことだけで頭が一杯だったが、一年たった今、これからは、キリストを中心に、信仰の喜びを見出すべく努力し、特に、人のために役立つような奉仕の精神を養いたい」と二〇才の抱負を語ってくれた。

大名町教会では、今年初めに改選・結成し直した青年会の一役員として、青年会の別名・〝大名軍団〟の会長（団長）を助けながら、一致協力して、ヤングの層を盛り上げるべく、若さを発揮している。

現代青年への要望？　という質問に対しては、「幼児洗礼を受けた青年達は、もっと対外的に信仰の喜びをアピールしないと、もったいないような気がします。せっかくの、先祖代々の信仰の芽を、自分だけのものにしないで、もっと積極的に、広い視野をもって考え、自分の信仰に誇りをもって、キリストを知らない人々に強く訴えるようなファイトが欲しいです。

又、新旧信者を問わず、キリストを信じるがゆえに生じる喜びを実証するためにも、特に、犠牲の精神を培いながら、苦しさの中でのヤングの結束を自ざせば、もっとすばらしい教会共同体の充実感が味わえると確信します」と答えてくれた。

キリスト者一年生―「今年は、霊的にも精神的にも、又人間的にも自立できるように、自分にきびしく、じっくりと自己を見つめ直す一年間にしたい」―そう語る瞳の輝きが若々しく、みずみずしい。



（文責・竹森）

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5―4―12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　TEL 272―0671

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

共助組合とは (4)

野田義之

キリスト教徒によって組織される共助組合は、キリスト教共同体に役立つと考えられるだろうか。キリスト教共同体が何であるかを把握するには、使徒時代のキリスト教共同体について知ることが必要である。

使徒行録には、初代教会の生活として（2・42）「ひたすら使徒たちの教えを守り、兄弟的交わりを大切にし、パンを手で分け、祈りをしていた」とある。これは、「教え」「心の一致」「パンを分ける」「祈り」とあるのをみると現代のミサ典礼を思わせる。つまりキリスト教共同体とは「使徒の教え」と「心の一致」と「いやし」をそなえたものである。

また、ルカは使徒行録に信者の一致として、（4・34―35）「彼らの中には一人も乏しい者はなかった。土地や家を持っている者は皆、それを売り、その代金を携えて来て、使徒たちの足もとに置き、おのおのの必要に応じて、それを分け与えたのである」。

この時代の信者は心の一致だけではなく、資産をも一致して共有して、お互いに貢献し貢献され、交わっていたので、一人も乏しいものはなかったとルカは言っている。共助組合が経済的に、自分のもの（マネー）を出し合って、お互いに貢献し貢献され互いに交わっていることは事実である。唯、一部の信徒のみがそれを実施していることはさびしい次第と思わねばならない。

（使徒行録4・32）「信じる人々の群れは心と魂を一つにして……」これは信者たちの交わりでお互いの信頼と愛と希望を支えて力となっている。4・33には「使徒たちは偉大なる力をもって、主イエスの復活について証しをした。彼らはみな人々に大いに愛された」。かれらの交わりは、「大いなる力」と「大いなる恩恵」によって、かれらの所有物に対する考え方が変化した。即ちかれらは同じ聖霊で満たされて、自分の資産を自分のものとしてではなく共同体のものとして考えた。ルカは信者たちが信仰に導かれて新しい共同体をつくったことを証明している。キリスト教徒が霊的のみならず経済的にも自分のものを与え、互いに交わり、助け合わねばならないとルカはいっている。もし信徒がこれを実践出来ないとなれば、キリスト教共同体の中に生きることは不可能となろう。

現代の社会構造で信者たちが自分の資産を売った代金を共同体に捧げるということは考えられないが、しかし同じ精神に基づいて別の方法があるはずである。パウロはコリント後書8章14節に「今のところあなたがたのゆとりが、ほかの人々の乏しさを埋め合わせているのは、後で彼らのゆとりが、あなたがたの乏しさを埋め合わせるためであり、こうして釣り合いが取れるのです」、と経済的共同体の基本を高く評価しているのである。

教会とは建物でなく、聖職者の居る所だと言うのでもなく、洗礼（聖霊）をうけた私たち信者全員を指している。だから私たち信者がキリストの目で社会に目を向ける姿勢をつくりあげて行かねばならない。私たちは一人ひとり違うように、その人にしかできない愛の行為がある。そのために神は私たちを造られたのである。その人でなければできない愛の行為を神は求めているのである。だから共同体を成長させるには自分の役割は何なのかと考え、ひとりひとりが自覚し、お互いに認め合って、それを大切にしていかなければならないと思う。

イエスは神と人間との縦の関係と、人間と人間との横の関係とを結びつけられた。聖霊の賜物である愛によって動かされる私たちの意志は使徒行録（4・32―35）にある信者たちの共同生活のように、わたしたちがたがいに愛しあうことの証しを社会に示さなければならない。あなたの教会（信者の居る所）に、真の相互扶助活動があるだろうか。私たちは使徒時代のキリスト教共同体が次ぎのように教えていることを忘れてはならない。「心の一致なくしてキリスト教は存在し得ず、物質の分かちあいなくして心の一致はない」。キリスト教共同体には貧しい人はいないと言うのは容易である。しかし、現在、家の修理や、子供の教育、病院の費用などに早急にお金を必要としている人はいないだろうか。私たちは善きサマリヤ人のたとえを思い出して、フアリザイ人のように、傷ついた人を見ようともしなかった者になりたくないものである。（おわり）

教区第19回クルシリヨ

一、日時　五月二日（金）十九時から五日（月）十六時まで三泊四日
一、定員　三五名
一、場所　福岡黙想の家
一、会費　七、〇〇〇円
一、参加資格　満二十歳～六十歳までの男女信者
一、申込先　〒八一八　筑紫野市大字二日市二五六の三　米湊　潔

福岡教区信徒使徒職協議会クルシリヨ事務局

児童福祉の日献金

（1月27日）

名町	106,790	手取	31,446
大水連	44,161	荒吉	13,800
浄ケ丘	27,282	光人	19,050
光崎	10,000	箱軍	107,000
箱島	35,500	東健	66,062
東田	24,256	西本	12,000
西新	11,269	大帯	58,211
大楠	10,000	美水	18,406
美野島	16,950	茶崎	40,000
茶山	53,300	新島	42,000
新宮	20,000	老玉	9,500
老司	37,950	吉菊	83,891
吉塚	28,193	古八	11,260
古賀	19,000	二代	10,500
二日市	43,515	次畑	35,855
次留	6,850	大牟田	147,779
大牟	1,500	吉野	45,000
吉田	76,500	今村	262,401
今郡	7,826	小郡	69,000
小郷	25,000	本島	41,700
本島	12,000	馬渡	20 365
馬渡	21,000	呼子	218,889
呼子	15,000	佐賀	80,078
佐賀	9,312	唐津	27,862
唐津	10,000	伊里	40,554
伊里	43,093	万栖	28,293
万栖	6,010	鳥雄	27,388
鳥雄	6,200	武久	116,370
武久	44,218	多港	46,500
多港	17,768	門司	105,666
門司	83,626	門倉	66,663
小倉	38,809	小川	2,000
小川	36,387	湯畑	100,000
湯畑	5,240	戸松	
戸松	70,000	若神	87,788
若神	9,000	八王	163,898
八王	17,000	黒崎	26,433
黒崎	38,200	水巻	216,667
水巻	5,000	直方	100,000
直方	40,000	飯塚	109,095
飯塚	10,040	田川	112,588
田川	85,500	新原	
新原	13,274	行橋	
行橋		合計	4,064,477

ローマ・イスラエル巡礼

日時　五月十二日～二十二日
費用　五一五、〇〇〇円
申込先　福岡市西区片江一四八　カトリック黙想の家

福岡・北九州で着実な歩み
カテケージス研修会

福岡司教館のガイヤル師が指導するカテケージス研修会は、最近福岡地区あるいは北九州地区において、定期的に集会をもち、着実に歩みはじめた。

その一部を拾ってみると、二月二十四日（日）午後二時から、大楠カトリック教会で、カテケージスの勧告について研修したが、五〇人近くの司祭・神学生・カテキスタが参加した。

一、カテケージスはキリストが中心であること。

一、その目的は、人をキリストに出会わせ、その信仰を成熟させることである。

そのために、カテキスタはキリストと深く交わり、祈らねばならない。また、キリストのメッセージをすべて正しく、キチントと教えるために、聖霊の働きによく信頼することが大切である。

以上の研修内容であった。

二月二十七日（木）の北九州市小倉のカテキスタ例会では、福岡の研修内容にシノドスの「カテケージス」を合わせて研修した。

また、福岡のカテケージス研修四月例会は、四月二十七日（日）午後二時から五時まで、大楠カトリック教会で行うことになっている。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1―22―28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) バチカン公会議の精神の実践
(布教) アフリカにおける迫害下の教会

「第十七回世界召命祈禱の日」にあたって

福岡教区司教 平田三郎

二十五年前頃から、人々の教会や司祭、家庭や社会についての考えかたが次第に変化し、その悪い影響を受けたためか、司祭・修道者の召命は著しく減少しました。このままで教会は立っていけるのか、教会は「地の塩」、「世の光」としての役を果たしていくことができるのか、このままでは世はますます世俗化の一路を辿り、死の闇に突入するのではないかとの危機感に迫られ、前教皇パウロ六世は十六年前に「世界召命の日」を設定され、今年の四月二十七日は第十七回目を迎えました。

この日のため、パウロ二世教皇は、全世界の司教と修道会総長に特別のメッセージを送り、神の民全員が、この緊急問題を敏感に受け止め、反省し、熱心に祈り、よい結果が生まれ出るよう願っておられます。司祭・修道者の召命の問題は、ただ司教や司祭だけが係るものではなく、第二バチカン公会議が言っているように、キリスト教共同体のおのおのに課せられた責務であり、司教も司祭も、修道者も使徒職団体も、家庭の親子も、とりわけ家庭の若者たちも、一致団結して推し進めなければならない教会の大事業だからであります。

一、召命の苗床・家庭の聖化

ヨハネ・パウロ二世教皇はそのメッセージの中で、子供たちが司祭生活や修道生活を自由に選ぶことのできる宗教的雰囲気を漂わす多くの家庭の出現を祈るといっておられます。世智に犯されているだけではなく、信仰による価値感が日日の行動選択の基準となって、教会の発展と魂の救いを求めて、家族揃って祈り、人びとのために共に犠牲を捧げる家庭には、召命の種が自然と蒔かれ、芽を出し、花を咲かせ、実るのです。このように生きる母、父、兄弟姉妹の心情は、思わず知らずのうちに、少年の心に大きな影響を与えるのです。このような家庭こそ、召命促進の第一条件であり、信者にしか果たせない、固有の役割なのです。

司祭・修道者が育成されるもうひとつの場は、小教区というもっと広い家族です。小教区の生き生きとした典礼、信仰教育、喜びにあふれる共同体は、青少年の目を自然と祭壇の方に向け、神の招きの手を見えるようにします。熱心な小教区共同体から多くの優れた聖職者が出ることは経験が教えてくれています。

二、司祭・修道者の証しの生活

召命にとって大切なもうひとつの条件は、召されたものが、その召命に喜んで忠実に生きるということです。主の過越を信じ、約束の聖霊をいただいて「使徒」となり、地の果てまで、救いの福音を告げ知らせる司祭・修道者は、自分に托された羔たちを、死から生命に、闇から光に、過越させる者で、復活のキリストの現存を示す「しるし」であります。自分が過越しアレルヤの生活をしていなければ、人を過越させることはできず、過越の共同体を築くことはできません。世俗化された利己的な現代に生きる司祭・修道者は、世の物質主義からたえず過越し、自分自身を自由にするようたえざる努力と犠牲が必要です。その過越しの努力、過越した姿の美しさに人々は魅せられ、その人を通して主の招きの手を見、主に従つの決心を立てるのではないでしょうか。いろいろの困難の中にありながらも、使徒聖パウロのように「私は語らざるを得ない」、「福音を告げ知らせないなら私は不幸である」と言って、地上のすべてを捨てて、神とその教会のために喜んで自分を捧げつくす司祭・修道者に、心ある若者は魅せられ、そこに生きがいを見出すに違いありません。召された司祭・修道者たちが、その崇高な使命にひたすら忠実に生きるよう祈りましょう。

三、若者たちのために祈り

多くの若者たちが信仰の目で「生きる」ということの意味を悟り、深い反省の後に勇気を振って、主の呼びに答えるよう祈りましょう。世の雑音を耳にして恐れを抱くかも知れませんが、この雑音を消すためにも、主に従わねばならないのです。献身の生涯がどんなにすばらしいものであるか、聖霊が諭して下さるよう祈りましょう。「沖にこぎ出して網を入れてごらん」と言われる主に従いますように。

神学校・修道院で奉献の道を歩いているひとびとのためにも祈りましょう。あらゆる方法で彼らを勇気づけましょう。

福岡教区の六名の大神学生、十名の小神学生のために特に祈りましょう。他の教区・修道会からの七名を加え、十七名の小神学生は古い雨もりの寝室に休んでいましたが、今月から三十二名収容可能の寝室を増築します。一日も早くこの小神学校が満員になるよう祈りましょう。

むすび

司祭・修道者の召命は自分の力で獲得できるものではなく、上から与えられる大きなお恵みであります。

ますので祈り求めなければなりません。「刈り入れは多いが、働く人は少ない。だから刈り入れに人を送って下さるよう刈り入れの主に願いなさい」とキリストもお命じになりました。

第十七回世界召命の日にあたり、祈るように願っておられる教皇様とともに、マリアさまを中心に心を合わせて熱心に祈り続けましょう。特に、多くの若者たちが、「私についてきなさい、私はあなたたちを人を漁る者にしよう」との主の招きに答え、大海で多くの漁りをする者となりますように。「主よ、あなたは召命の恵みを多くの人に与え、絶えず教会を富ませて下さいます。あなたの招きの声に耳を傾ける人が殖え、惜しみなく忠実に生き、常にあなたの教会の喜びとなりますように。アーメン」。

教区青年の集い

(親睦・スポーツ・80年)

日時 六月二十二日
午前十時～午後四時まで。
場所 福岡泰星学園高校

神学校後援会費 (54年度)

みなさまのご協力に深く感謝申し上げます。

大名町	803,900	戸畑	605,060
浄水通	148,400	若松	60,000
箱崎	40,500	天神町	48,000
西新	158,800	黒崎	120,000
大楠	41,950	八王寺	31,000
美野	45,600	水巻	59,500
糸山	200,000	飯塚	88,600
高宮	260,650	田川	29,500
老司	100,000	新原	192,000
二日市	172,400	行橋	60,000
久留米	180,000	手取	200,000
大牟田	53,550	尾倉	26,200
吉野	63,750	吉村	178,690
今郷	243,640	渡本	36,000
本渡	100,000	健軍	100,000
馬場	19,500	帯山	30,000
佐賀	70,000	水俣	41,625
唐津	69,550	大江	63,660
伊万里	80,000	島崎	191,200
鳥栖	28,400	玉名	24,694
武雄	16,050	菊池	39,000
多久	10,000	八代	72,811
門司港	66,300	婦人会	50,000
小倉	41,429	行橋	100,000
	240,000	合計	5,701,909

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)
TEL 代表 092(521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

主は働き、あなたは手伝う

北九州婦人会今年度の目標

指導司祭　鵜野　泰年

あいさつ

みなさん、昨年はそれぞれ力いっぱいがんばられたことと思います。「国際児童年」を実り豊かにするために、あれこれと知恵をしぼり、努力を重ねられたみなさんのお働きに、主は大きな恵みをもって報いて下さいました。山元神父様の叙階式を頂点にして、子供たちの中に、そしてまた、私たち大人の中にも大きなうず巻きがまきおこりました。多くの子供たちが理想と希望を抱いて、神学校や修道会に入りました。教会の前途に明るい光がさしはじめました。

はからずも、カトリック教会は、今年を「家庭の年」と定め、世の救いはまず、家庭の確立にあるとのねらいをつけました。そして、今秋ローマでは、「キリスト教的家庭の役割」をテーマに、世界代表司教会議が行われることになっているそうです。それもこれも、みなさんが聖家族の御像の前にひざまづき、家庭をささげ、子供のために祈り、お召しを求めつづけたこの一年と、全く無関係ではないと思うのです。

だから、みなさん、ふりそそぐ主の恵みをしっかりととらえ、見落ときないように気をつけながら今年もがんばりましょう。

めざすもの

「かれは栄え、私は姿を消すべきである。これこそ私の大きな喜びである」（ヨハネ3・30）

洗者ヨハネは、自分はキリストではなく、あくまでその方に先立って送られただけであるといいつづけました。そのことばのとおりイエスズがおいでになったあとは消えてしまいました。私たちも主の道を準備し、そこへ主をお迎えしたら、あとは消えなければなりません。そこではイエスズ御自身がお働きになるからです。ゆめ間違ってはなりません。救い主はイエズスであって、私ではないからです。

でも、〝おまえは司祭ではないか、信者ではないか、だったら世を救うべき使命があたえられているはずだ。神はきっと天使を遣わしておまえが石につまあたらないように助けて下さるだろう〟とささやかれると、ついその気になります。でも気がついたら、いつの間にか私と主がいれかわっていたりして、はっとします。

司祭は聖変化のとき、けっして自分がこのパンを聖体に変化させるとは思っていません。たとえ、「わたし」ということばを使ったとしても、だれ一人として〝私があなたの罪をゆるす〟とか、〝私があなたに洗礼をほどこす〟とか思っている司祭はいません。それは幸いなことです。普段の生活の中では、司祭も人間ですから、うっかりするとすぐに主よりも前にとび出してしまいます。だが、秘跡をとり行うときだけは、全く守られているようです。しかも何の苦労もなしに。

みなさんも、司祭が秘跡をとりあつかうときのような、慎重で、そして謙虚な態度で活動して下さい。

なすべきこと

だから、なすべきことは今までの通り、大いに励んで下さい。どんな小さな行為でも、それを主がなさる限り大成功です。神は全能だからです。だが、どんな偉大な行為であったにしても、たとえ神の御保護を願いながら行ったとしても、あなたがそれをする限り必ず失敗します。

私が主の手伝いをすべきで、主に私の手伝いをさせてはならないのです。どうぞ「家庭の年」にあたり、己が家庭の聖化、そこに住む人々の幸せ、またほかの多くの方々の幸せを主に願って下さい。そしてあなたは、主の行かれる所には、どこにでもついていって下さい。あくまで主のうしろにひかえながら。子供の教育にしても病人見舞にしても、あなたは口と体を主に提供し、主はそれをつかってお話しになります。だから子供の信仰は深くなります、だから病人は涙を流して喜ぶのです。

社会を改革し、教会を刷新すべく私たちは必死にがんばってきました。苦しむ人々を、しいたげられた人々を、話し合いを重ね、聖書を開き、祈りながら全力を傾けたのに、すればする程深みにはまり、どうしてこんなことになったのだろうと悩んだ経験はありませんか。なぜそうなったのか、みなさんはもうおわかりと思います。

この一九八〇年、神様はここ北九州地区で御自分の愛する婦人たちを使って、どのような仕事をなさるつもりでしょうか。ほんとうに楽しみにしています。

五月の年忌司祭

▼フランソワ・ルマリエ神父（パリー外国宣教会）一九四五年五月五日元熊本県八代教会主任。

▼フェルナンド・チリー司教（パリー外国宣教会）一九三〇年五月一〇日初代福岡教区長。

▼ヨハネ棚町正力神父一九六八年五月十五日元茶山教会主任。

ピッカピッカの新入生

福岡小神学校

四月の話題は、何はさておき、フレッシュさんのことになる。あちこちの会社、学校では、不安と喜びが交錯する新しい顔に多くの視線が集中する。

ここ福岡小神学校は、教区内外から5人の新入生を迎えて、17人の、ちょっぴり賑やかな共同体となった。新入生はつぎの通り―中一　出口勝也（福岡・武雄）梅田正寛（鹿児島・大口）中二　重松勝（鹿児島・鴨池）高一　甲斐康裕（広島・嶋町）片岡愛徳（高松・坂出）

福岡小神学校のフレッシュさん

福岡小神学校の新しい出発

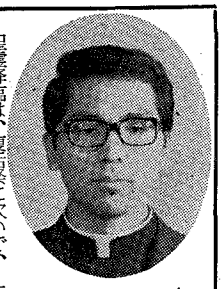
ルルドの聖母を慕いつつ

この四月より、福岡小神学校は、新しい旋風を巻き起こしている。まず、小神学校校長に竹森勇神父が着任、それに三月叙階されたばかりの、山元真新司祭も神学校付になり、スタッフの若返りで、十七名の神学生にとっては、〝兄貴分〟的な存在となって、若さとエネルギッシュな雰囲気に包まれている。また、直方教会の鵜野神父らの協力を得て、裏庭にあるルルドの聖母像が新しく設置し直された。折りしも丁度、新学期のスタート。四月九日の夕方、平田司教をお迎えして、新しい聖母像の除幕式及び祝別式に加えて、着任したばかりの新しい二人の神父と神学生たちの公式な対面式と紹介などのセレモニーのうちに、夕食会も最高ににぎわった。更に、小神学校の旧校舎（寝室）も近いうちに新築し直されるということで、文字通り、今や小神学校は〝新しいことづくめ〟で、司祭・神学生とともに、〝新しさへのマイウェイ〟と気迫をみなぎらせている。

将来の司祭を夢みて、日夜、霊的・人間的修業に励む神学生たちー勉学、スポーツ、霊的トレーニングと、いずれの面に於いても、少数ながら、一致団結して、家族的雰囲気の中に、一つの目的・司祭職へ賭ける少年たちー別名〝小神軍団〟の瞳の輝きが初々しい。

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正　金　診　療　所
院　長　古　賀　明　恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657



〈羊飼いの牧場〉

聖霊降臨について

高見 三明

聖霊降臨は、復活祭に次いで、典礼暦年中最も重大な祭日です。教会は、伝統的に、聖書の記述にある通りに、ご復活後四十日目にご昇天を（使1・3～11）、五十日目に聖霊降臨を記念し、主イエズス・キリストの偉大な救いの神秘を荘厳に祝ってきました。

ルカは、その聖霊降臨について次のように記しています。「五旬祭の日が来て、みんなが一つ所に集まっていた。その時突然、激しい風が吹いて来るような音が聞こえ、彼らが座っていた家じゅうに響き渡り、炎のような舌が現われ、分かれておのおのの上にとどまった。するとみんなは聖霊に満たされ、聖霊が語らせるままに、さまざまな他の国の言葉で語りはじめた」（使2・1～4）。

聖霊降臨がペンテコステと言われるのは、聖霊降臨のあった五旬祭が、ギリシア語でペンテコステ（「五十日目」の意）と訳されていたからです。五旬祭は、過越祭の第二日から数えて七週間後すなわち五十日目に祝われたので「七週の祭り」（出34・22）とも呼ばれましたが、元来「刈入れの祭り」（23・16）すなわち小麦の収穫感謝祭でした。しかし後に再解釈され、すでにイエズスの時代には、シナイ山で律法が与えられたすばらしい日として祝われていました。モーゼが律法を受けたのは、イスラエルのエジプト脱出後五十日目だった（19・1以下参照）からです。結局五旬祭は、過越祭からの七週間をしめくくると同時に律法を感謝する日でもあったのです。過越祭、大しょく罪の日とともにユダヤ教の三大祭りの一つであったこの五旬祭に、聖霊が注がれたということは、重大な意味をもっています。

まず、聖霊が風や炎のしるしを伴ってくだられたという出来事は、十戒が与えられた時の神の顕現を思い起こさせます（19・16～18）。しかし聖霊降臨は、「終りの時」に神の霊がすべての人々に授けられるという神の約束（ヨエ3・1～5）を実現するものでした。事実聖霊は、使徒たちと同じように異邦人にも与えられたのです（使11・15）。しかも聖霊は、人が神の掟を心から守り、神の民となるために神が与えると約束された神の霊なのです（エゼ11・19～20、36・27）。さらに、「天下のあらゆる国から来た」ユダヤ人たちは、使徒たちが神の偉大なわざをそれぞれ自分の生国の言葉で語るのを聞いた、とあります（使2・5～11）。これは、バベルの塔以来の人類の分裂が癒されはじめたことを示しています。

ところで聖霊降臨は、主の過越の実りであり、完成であり、救いの歴史において新しい教会の時代を開く出来事でした。イエズスは、死んで復活し、新しい生命を与える「主」と立てられたからこそ、おん父から約束された聖霊を受け、それを使徒たちを中心とした最初の共同体の上に注がれたのです（2・33）。イエズスは、過越祭の時に、自らを真の過越の小羊としてささげ、そして復活なさいました。イスラエルの民の救いと誕生をもたらした旧約の過越は全人類の救いをもたらし、新しい民である教会を基礎づけたイエズスの過越によって完成されたのです。しかも旧約の過越と契約を根本から永遠に新しくしたイエズスの死と復活は、聖体の制定によって永久に記念され、再現されることになりました。

復活したイエズスによって集められた教会は、聖霊による洗礼を受けることによって生気づけられます。聖霊がかれらの上にくだったとき、かれらは「聖霊に満たされ」（2・4他）、「天の力に包まれて」（ルカ24・49）、エルサレムから地の果てまで、イエズスキリストの証人として生きる者となりました。

神の子が人となられた時から復活する時まで、つねに彼とともにあった聖霊は、死んで復活したイエズスによって決定的にもたらされた救いの恵みを、教会を通してすべての人々に及ぼす役割を果たされるのです。

聖霊は、教会全体と一人一人の信者の中にいて、私たちの同伴者となり、私たちの知恵と心を照らし、私たちの間に一致を保たせ、私たちの信仰と希望を強めてくれるお方です。イエズスの約束の言葉（ヨハ14・16、26、16・7、13）によれば、聖霊は、去って行くイエズスに代わって遣わされたお方ですが、決してイエズスを忘れさせたり、私たちをかれから遠ざけたりするどころか、いつもかれを思い出させ、かれの行いや教えの深い意味を明らかにし、かれをいつも生きている者として示してくれるのです。主がいつも私たちと共におられる（マタ28・20）ということは、私たちがいつも聖霊に導かれているということでもあります。そして聖霊に導かれた生活は、愛、信仰の喜び、平安、寛容、誠実、柔和など豊かな実を結ぶのです（ガラ16・22～23）。

（福岡サン・スルピス大神学院）

〈会合と催し〉

☆平田 司教

5月2－5日 教区クルシリヨ

3日 熊本信愛学園創立80周年・幼稚園30周年記念式典ミサ9時

6日 司祭月例集会11時

21－26日 カトリック・プロテスタント合同の聖書週間（熊本）

28－30日 聖マリア病院落成

☆福岡黙想の家

5月2－5日 教区クルシリヨ

11日 大神学院司祭の黙想

17－18日 復活黙想会

26－28日 着衣式予定の大神学生の黙想会

小学生の懸賞作文の募集と〝家庭の日〟教区大会

広報の日の関連行事として

福岡教区は、広報の日（五月十一日）を迎えるにあたり、関連行事としてつぎのごとく決定した。

一、小学生を対象とする懸賞作文の募集——

応募作文のテーマは〝私の家庭〟四百字詰原稿用紙三枚～四枚までとし、七月十三日までに〒八一〇福岡市中央区浄水通三九福岡司教館内広報室宛提出（または郵送）すること。入選作には司教賞一人、佳作二人を選び、十月十二日の〝家庭の日〟教区大会の会場において表彰する。なお、応募作文は、出来るだけまとめてプリントし、配付する。

二、〝家庭の日〟教区大会——

ことしは家庭の年といわれるように、今秋予定のシノドスをはじめとして、家庭の問題が大きな柱になっている。広報の日のテーマも〝マスコミの役割と家庭の使命〟を訴えている。年ごとにはげしく押し寄せる世俗化の荒波に、歪んだ結婚観を通して崩壊する家庭の悲劇を座視することはできない。

教区主催の〝家庭の日〟大会は、十月十二日（日曜日）午前十一時から、福岡市中央区輝国一一〇－一〇泰星学園高校の講堂で共同ミサ、中食後講演会と入選作の表彰式を行う。当日は日曜日になるが、万障繰り合わせて、多数の司祭・信徒の参加をお願いする。

深く静かに祈るつどい

福岡黙想の家では、毎週木曜日夜7時30分～9時30分、聖時間礼拝を行っている。

ご聖体を囲んで、晩の祈り（教会の祈り）、ロザリオ・黙想と静かに深く祈りながら、教区司祭・修道者の召命を願い求めている。

年齢性別不問。時間の許す範囲でよく、聖時間中の出入りは自由。なお、黙想への招きの話（約10分間）は御受難会の司祭が担当。

参加希望の方はぜひどうぞ。

全国広報の日（五月十一日）

マスコミの役割と家庭の使命

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5－4－12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所 大石 真澄
〒810 TEL 272－0671

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

姪への手紙―21世紀のキリスト者の肖像画（1）

ジュリアン・ガイヤール

〝カテケージ・トラデンデ〟を読んで

さて、あなたは手紙の終わりでこうたずねていますね。〝私の子供が信仰を守るにはどうしたらいいのでしょう。〟この質問に答えてみようと思います。十字架の前で手を組む子供を見つめながら、多くの母親があなたと同じ思いを心に抱いているのではないでしょうか。

最初に言わせていただければ、〝信仰を守る〟という表現自体、正確だとは思われません。七歳の子供であればなおさらです。そもそも信仰とは守れるようなものでしょうか？おばあさんから譲り受けた家具のように、大切に守っていけるものでしょうか？母から娘へと注意深く手渡していく金の指輪のように、信仰を守れるでしょうか？新しい教皇は繰り返しこうおっしゃいます。人間にとって、〝より多く所有することより、より良く実存することのほうが大切である。〟（回勅〝人類の救い主〟16節）たしかに、信仰を〝守る〟とか〝失う〟という言い方はよく使われます。信仰を所有するものとしてとらえるからです。でも、私はこのようなとらえかたに強い疑問を感じています。私にとって信仰はあくまで〝実存する〟ことしたがって〝生きる〟、〝証す〟という領域にあります。信仰が常に何らかの知識を必要とし、知識は所有の領域にあるとしても、このことにかわりありません。ですから、〝どのようにして信仰を守るか〟というより、〝どのようにして小さな信仰の芽を育てていくか〟、あるいは〝子供がキリストの弟子として生き、キリストに従うのを、子供が七歳の今どのようにしてたすけるか。また十二歳になったら……。十八歳になったら……。〟と問うてほしいのです。ヨハネ・パウロ二世は、カテケージスについて行われたシノドスに続いて、勧告書の中でもはっきりこのことを述べておられます。信じるとはイエズスに従うことであり、〝キリストの行いと言葉、キリストが行ったしるしの意味をさがし求めることである。キリストの奥義はその中に隠されていると同時に、明らかに示されているからである。〟（C・T5節）

私は今、あなたの質問とき離しては考えられないひとつの質問を思い出しています。それは〝21世紀に向けて、私たちはどんなキリスト者を育てるべきか〟というものでした。勧告書の講習会を終えたあと呼び止められ、全く唐突になげかけられたこの質問に、私は不意をつかれ、狼狽を禁じ得ませんでした。そこで、私は勧告書を読み返し、二〇〇〇年代のキリスト者の顔、つまり今から私たちが育てようと努力する人の顔を読みとろうとしました。この顔がかなりはっきりと見えてきたように思われますので、ひとつの肖像画を描いてみる気になったのです。この肖像画をあなたに贈ります。

まず、最初に描かなければならない程大切なものでしょうか？そうだとは言いかねます。しかしともかくも、私の心を最初に打ったものです。21世紀のキリスト者は〝布団の中でぬくぬくとしている怠け者〟であってはならない。できあいの言いまわしだけを安閑と弄び、すべての疑問に答えることのできる神の家主であってはならない。ヨハネ・パウロ二世は勧告書の60節でこの問題に言及され、哲学、神学におけるある風潮に触れておられます。この風潮の説くところによれば、〝信仰は確信ではなく疑問であり、光の中を歩くことではなく闇のただ中に飛び込む〟ことなのです。教皇がおっしゃる〝これはカテケージスに対する微妙な挑戦である〟という警告には、当然耳をかたむけるべきです。しかし同時に教皇は、この思想の風潮にひとつのためになるところがあることも見逃がしてはおられません。それはどのようなことでしょう？〝信仰とは、私たちがまだ手にしたことのないものであり、私たちは今鏡にぼんやり映った（パウロ時代の鏡は、あなたも存知の通り、それほど精密なものではなかった）ものを見ているにすぎない（コリント人への手紙前13・12）のだということ、そして、神は常に近寄りがたい光の中に住まわれるかた（チモテオ前書6・16）であるということを、この思想が私たちに思い出させてくれることです。また、このおかげで私たちは信仰をぬくぬくとしたものとしてではなく、アブラハムの歩みのように前へ進むこととして理解できます。何行か先では〝神の御言葉に支えられて謙虚にしかも雄々しく求める信者の姿が、星の導くままにさがし求めた博士たちの旅〟にたとえられています。アブラハムについては、ヘブライ人への手紙第11章が引かれます。あなたには新約聖書を開く時間の余裕もないことでしょうから、私がかわりに読みましょう。

〝信仰によって、アブラハムは自分が財産として受け継ぐことになる土地に出ていくようにと、神から召し出されると、これに服従し、行き先きも知らないで出発したのです。

他国にいるかのように、幕屋に住みながら神が設計者であり、建設者である都を待望していたからです。〟では博士たちは？子供の頃は彼らの美しい物語を子守歌のように聞かされたものだけど…。クローデルのしゃれた言葉を知っているでしょう？〝あんなに遠くからはるばるやって来ながら、博士たちはたった12日しか遅れていなかったんだとさ！〟教皇は私たちに博士たちのメッセージを思い出させてくださいます。神の御手は長いさすらいのすえに、〝謙虚な探求〟のすえに見いだされた…と。

この箇所に、今日の懐疑主義や懐疑主義が生みだす罪深い沈黙に対する警告しか読みとらない人もいるのではないでしょうか？だとしたら残念です。私はそこに警告と同様、招きを見ます。アブラハムのようによくきたえられたキリスト者を育てるようにという招きです。つまり、〝ぬくぬくとした怠け者〟ではなく、〝歩む人〟神によって約束され、建設される都を待望しながら幕屋に住む遊牧民を育てるのです。

ほんの短かい一節にあまり多くを語らせすぎていると、あなたは思うかもしれませんね〝もしそうなら、勧告書を読んでみるようおすすめします。〝さがし求めることに気づくでしょう。最もはっきりしているのは次の二箇所です。〝すべての人は宗教の真実をさがし求め、これに自由に従う権利を有する〟（C・T14節）。また去年の秋、国連の演壇で、ヨハネ・パウロ二世は第二バチカンを引用しながら、再びこの問題をとりあげられた。〝すべての人はその尊厳によって真実、特に宗教に関する真実をさがし求める責任をになう〟（教皇からのメッセージ20節）更に勧告書の中では、〝最もよい人間らしい人間は神をさがし求める者である〟（C・T54節）と断言していらっしゃいます。アウグスチヌスに連なるこの表現、実に美しいと思いませんか？神をさがし求める自由をもち、自由を得るために神をさがし求める！二つのテーマはここで出会います。自由のために戦うキリスト者、これが21世紀におけるキリスト者のもうひとつの顔です。このテーマについては次の機会に譲りましょう。

（福岡司教館・司祭）

▽五月十一日午後一時から、東田島カトリック教会で、福岡典礼聖歌研究会の例会が開かれる。

▽五月の教会祝祭日のご案内

五月十八日　主の昇天　朗読福音＝ルカ24・46―53

五月二十五日　聖霊降臨の主日　朗読福音＝ヨハネ20・19―23

五月三日　聖フィリポ聖ヤコブ使徒　朗読福音＝ヨハネ14・6―14

五月十四日　聖マチア使徒　朗読福音＝ヨハネ15・9―17

五月三十一日　聖母の訪問　朗読福音＝ルカ1・39―56

▽四月十三日（日）午前十一時から、熊本市島崎カトリック教会で、加賀山マリヤの殉教祭共同ミサが平田司教主司式で行われた。

A．Aの例会

1．講話　アルコール中毒からの回復

1．講師　日本アルコール中毒対策カトリック委員会

委員長　田中　道雄師

1．日時　5月25日2時PM

1．場所　東田島カトリック教会

（福岡市西区笹丘1―16―1）

床工事・室内装飾・清掃取扱一式

有限会社　創和

又野征次

西区荒江1―22―28

TEL　(851)　4694

吉川病院

院長　吉川東陽

福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) 若い世代による愛の文明
(布教) アジアの宗教的伝統と福音の精神

ドルエ師70年ボンカズ師60年

長年の宣教活動（司祭叙階）を祝う

あなたは永遠の司祭である

四月二十九日午前十一時から、北九州市八幡東区八王寺のパリー外国宣教会北九州支部で、司祭叙階70年のドルエ師と60年のボンカズ師の祝賀式典が盛大に行われた。

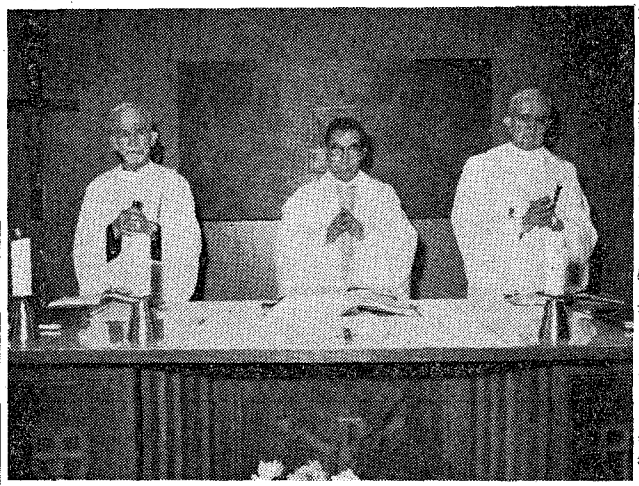
かつて、小神学校の教師であった両師には沢山の教え子である司教司祭がいるが、当日、二老師ともに長崎大司教の里脇枢機卿、平田福岡司教、深堀高松司教、深堀仙石衛門司教と古屋司教の赤帽組を中心として、四十人近くの司祭が感謝の共同ミサを捧げた。また、参加した信徒の中には、はるばるフランスから、ドルエ家を代表して祝典に与かった三人の甥姪の姿が人目を引いた。

里脇枢機卿は、ミサ中司祭の生きいきとした姿を力強く説教したが、その大要を紹介する。——

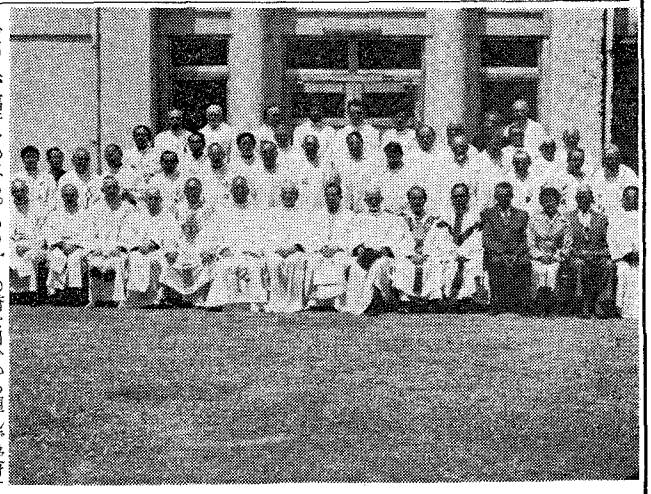
神さまが人類の救いのためにお与えくださった最大の賜物はなんでしょうか。それは言うまでもなく大司祭イエス・キリストである。このイエス・キリストがご自分の教会にお与えになった最大の賜物はなんでしょうか。申すまでもなく司祭職である。司祭職がなければ教会は成り立たない、築かれていかない。私はその司祭職に招かれた者の一人として、そして私が今日あるを得させた最大の恩人のお二人がドルエ師とボンカズ師である。私の先生である。このお二人が、この司祭職をそれぞれ70年、60年にわたって生きてこられたことはすばらしい出来事。私はこのお二人と一緒に神さまに対する感謝のごミサを共同で行うことを願っていたが、叶えられて私は幸せである。けれども、さきほどの福音にあったように、善き牧者は羊を知り、羊は牧者を知っている。聖書で、知ることは認める、愛することである。

ほんとに、現代人は司祭職を知っているか。『人間これ知られざるもの』のタイトルで本を書いたカトリックのノーベル賞作家がいたが、何故、人間は知られないものであるか、それは目に見えない精神を持っているからでしょう。司祭はそれ以上に知られない者である。それは人間以外の要素を持っているからである。よく司祭とは何か、と言われる。司祭は先ず礼拝の人、ミサの祭儀を行い、犠牲を捧げる。つぎに、司祭はみことばの人、福音をのべる。もう一つ、司祭は司牧の人、キリストの群である信者を指導する。司祭とはこのような者であるか。それも間違いではない。しかしこれは司祭の生活の現象面で、目に見える部分である。これだけでは司祭を十分知っているとは言えない。司祭には、もっと見えない、神秘的な面がある。信仰の光に照らされなければ見えない面がある。信仰が弱くなれば、司祭を司祭らしく取扱わない信者が出てくる。司祭自身が自分を見失なっているものが出てきている。これは信仰が弱くなっているからである。司祭は自分が進んでなったのではない。大司祭キリストさえも御父がお選びになったのである。聖パウロもヘブライ書に書いている『誰もこの誉を自分から望んで受けてはいけない、召された者だけがこの大司祭の役につく』。司祭はキリストの司祭として聖別される。キリストの司祭職に与かる、この聖別のときにしるしを刻まれる。パウロはカリスマ、しるしと言っている。司祭はキリストと同じ司祭の姿を着けられている。神と人との仲介者である。司祭はキリストの救の力に与かり、キリストの名によってではなく、キリストとしてミサをあげ、説教をし、罪を赦すのである。『これはキリストの体ではなく、私の体である』。司祭の中にはキリストの血が通っている。キリストになりきっている。これは司祭の神秘で、信仰がなければ受け入れることが出来ない。

（第二面につづく）



里脇枢機卿（中央）の（右）ドルエ師（左）ボンカズ師



共同ミサの司教・司祭たち

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

(第一面から)

司祭は典礼儀式では祭司となっているが、司祭教令では長老となっている。バチカン公会議の公文書には、司祭はみことばの人でなければならないと言っているが、たしかに宣教は順序として前にあるべきである。けれども早合点してはいけない。司祭の中には宣教のみでよい。ミサなどいらない、一人でする必要はないと考える者がいる。また、良心に従って生活すれば救われる、だから宣教などいらない、という。これは大変な誤解である。仲介者は奉仕であるが、権力を示すためではない。しかもただの労働などの奉仕ではない。司祭職は救いをもたらすから奉仕である。司祭は教会の頭であるキリストの姿である。キリストと一緒に犠牲になることである。この理解をもって毎日司祭職をつとめていくことは、十字架の道を歩くことである。これには定年か退職はない。永遠の司祭職であるから、司祭のしるしは永遠に消えない。健康であればいつでも司祭を続けていくことができる。第一にミサをあげることはすばらしいことである。使徒たちは聖霊降臨の日にそのしるしを受けたが、司祭は叙階式の時からいただいた。イエスの生きかたをいただき、それに生きはじめる第一歩である。『私について来なさい』。二人の司祭も生命の限りキリストについていかれる、すばらしいことである。人生これに越すものがあろうか。

信者が、この司祭の信仰でしか認めることの出来ない神秘の面を認めながら、一司祭を敬えとは言わない一司祭を愛すること、愛することは与えることであるが、司祭も人間であるから弱さを持っている、それを助けてあげる。これこそ信徒の使徒職である。司祭もミサの犠牲に合わせなければ、信者の犠牲は不完全となる。きれいな生活を毎日捧げるのが御父にうけられるのは、祭壇でイエスの犠牲を一緒に捧げるからである。教会にはキリストの司祭職一つだけである。その教会は司祭職を通して築かれていく、司祭職を土台に建っている。信者のみなさん、新しい働き手をこの教会に与えてくださるように一緒にお祈りいただければ有難いと思う。——

ミサ後祝賀会に入り、教え子たちによる両師の人柄、エピソードなどの紹介があって、笑いと感謝のうちに万才三唱をもって散会となった。

フランソワ・ドルエ師は一八八七年八月一日、フランスのアンゼに生まれ、アンゼの大神学校に一年在学後、一九〇八年九月十四日パリー外国宣教会に入り、一九一〇年九月二十四日司祭に叙階。一九一一年一月十六日長崎に到着、宮崎で日本語習得して、一九一二年九月から一九二九年七月まで、長崎神学校のラテン語教師、その間一九二六年から一九二八年まで長崎神学校校長となる。その後、福岡司教館を経て、一九三一年三月から一九三五年まで大名町教会主任、一九三五年から一九四八年まで八幡教会主任、一九四八年から一九五〇年まで陣山の養護施設を設立、施設長となる。一九五〇年から一九五二年まで小倉教会の主任となり、一九五二年から、八王寺パリー外国宣教会司祭部で聖なる余生を過ごしている。

マルク・ボンカズ師は一八九三年二月二十七日、フランスのベイヨンヌに生まれ、パリー外国宣教会のビエブル神学校で哲学、パリ大神学校で神学を習得、一九二〇年三月二十日司祭に叙階された。一九二〇年八月十八日長崎に着きまもなく宮崎で日本語の勉強、一九二三年から一九二七年まで宮崎教会の司牧、一九二七年から一九二九年まで長崎神学校、一九二九年から一九三〇年まで福岡神学校で教師生活、一九三〇年から一九三三年まで八吉教会主任、一九三三年から一九三七年まで神学校教師兼大牟田教会主任、一九三七年から一九三八年まで神学校教師兼大濠修道院付司祭、一九三八年から終戦まで熊本教会の司牧、その後飯塚、新田原、田川の教会を経て八王寺の現在の生活となる。

教区青年 80年大会へ前進

昨年九月、福岡教区は、80年全国青年大会に向けての前段階として、教区青年大会を開催したが、その後の青年たちのつながりと、全国大会への意識を再確認し合う意味で、六月二十二日に、教区青年の集いを再度催すことになった。今回は、一日の予定で、『親睦・スポーツ・80年』と題して、準備が進められている。なお、詳しいことは、福岡小神学校の竹森神父まで問い合わせて貰いたいが、出来るだけ多くの青年達の参加が望まれている。

日時—六月二十二日
午前十時から午後四時迄
場所—福岡泰星高校

六月年忌の司祭

▼トマス平田好神父一九三八年六月二十一日（元門司港教会主任）

研修会レポート
福岡地区カテケジス

福岡地区カテケジス研修会が、四月二十七日（日）大楠教会で行われた。先ず、ラベル師の「子供のカテケジス」の解説、その後、各自の担当するクラスのカテケジスの発表があった。

一、子供のカテケジス

イ、宗教教育はまず家庭から—

両親は一番やさしい祈りを知っているはずでそれを子供が知っているのは当然である。子供は親を見て育つというので、祈る姿を見せないならば、その子の信仰は今く育たなくなる。

ロ、幼稚園、小学校——

初聖体、初告解の準備がぜひとも必要である。キリストとの関係では、実際に生きているキリストを知らせ、その奥義の全体を伝えねばならないと思う。そして、いつも子供の信仰、道徳生活に結びつけることが大切。秘跡は七つとも伝える。信仰を深めるように、明確であるように。

ハ、中学生——

思春期、成熟期における心身の変化によって、不安定な時期であることをよく把握し自己反省させるカテケジス、対話へ導くカテケジスであるように配慮する。

キリストは友人であり、指導者であり、案内者である。これらの観点から、自分の失敗をよく理解してくださることを伝える。

キリストのメッセージを伝えるに際し、愛の計画は愛の証しとしてであり、ご受難、ご死去を悩む中学生と比較し復活は苦しみをのりこえたキリストとして、私たちものりこえることができることを伝える。

二、各自の現状報告

これは事前に、各自のカリキュラム、カテケジス等に関する質問を参加者に出していたので、発言はより具体的であった。

イ、テキスト—

現代っ子の信仰教育、聖書に生きる、小学生のカテケジス、共同訳聖書、神さまといっしょ、小学生の聖書などが使われている。

ロ、クラス編成—

二学年別（一—二、三—四、五—六）が増加しているが小一—六のひとまとめのクラスもみられる。カテケジス勧告が出されいる時代に、改善が強く望まれる。

ハ、カテキスタ—

ある教会は一つのクラスを二人で担当して計十人いる。また、別の教会ではシスター神学生に頼りきっており、あるいは、司祭がカテキスタに適切な指導を与えていない現状も報告された。

ニ、カテケジス—

カリキュラム及びカテケジスについて、事前によく準備する教会が増しているが、他教会によい影響を与える。

新しい躍進・刷新を目標に
北九州地区信徒協の新役員

去る五月十八日、八王寺教会で開かれた北九州地区信徒協（指導司祭・浦神父）の代表者会議に、飯塚教会を除く十四教会から参加したが、つぎの新役員が紹介された。任期は二年となる。

会長　村松　正俊（戸畑）
副会長　吉岸　樹人（門司）
追立　季治（行橋）
沢口　幹雄（八王寺）
監事　牧山　兼盛（新田原）
理事　古賀　喬（天神町）
池田　政直（黒崎）
長谷川　徹（小倉）
片岡　光男（門司港）
小島　浩（湯川）
会計

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (713-7912)
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

＜羊飼いの牧場＞

天と地をみつめながら

山元　眞

司祭に叙階されて二ケ月が過ぎました。小神学校での生活、そして初ミサや挨拶まわりにと多忙な日が続き、少々バテ気味といったら叱責のことばをいただくでしょうか。

叙階直前の黙想を伊万里のトラピスチン修道院で行い、そこで感じたことは、「沈黙の中でのやすらぎ」ということでした。心のざわめきをもって黙想に臨んだ自分に、あの修道院での沈黙は、戻るべきところ、帰るべきところを教えてくれたようです。沈黙の香りだけがあるあの静けさの中で自分をみつめると、すべてが明らかになり、そして、神の前にいる安心感、安定感を身に感じたものです。人間のふるさと、心のふるさとはここだな！と思いました。沈黙を大切にしたいと今まで以上に感じ、沈黙の香りを嗅ぐ時と場所をつくる必要を感じました。でもその時だけで、あとは忙しさに沈黙の香りも忘れてしまいました。

ところが、この黙想のちょうど二ケ月目にあのなつかしい沈黙の香りをかぐことができました。ふとしたことから急に鹿児島に行くことになり、聖血礼拝会という観想修道会にお世話になったのですが、そこには沈黙の香りがみちあふれていました。初めての所だったのですが、杉の木立ちを入って行くにつれて、なにかしら、ふるさとに戻ってきたような気になりました。深いため息をついて中に入ると、シスターの昼の祈りが単調なメロディーにのって聞こえて来ました。トラピストに行った時と同じでした。思わず「ただいま！」ということばが口をついて出て来そうな感じでした。ずっといたい、と思いました。

そこでの初ミサは御昇天のミサでした。「イエススは使徒たちが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエススが離れ去っていくとき、使徒たちは天を見つめていた。……すると二人の男がそばに立って言った。『ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。』……」（使徒の宣教1・9～11）この聖書の箇所を読む時、天を見上げてボサーッとつっ立っている自分の姿に気づかされました。たしかに、沈黙の中での安らぎは得がたいもので、また、その中に浸っているのは気持ちのよいことです。しばしの休み、やすらぎは必要です。でも、それに甘んじていてはいけないのです。ボサーッと天をみつめていてはいけない。足もとをみつめなさい。あなたが立っているところをみつめなさい、と神さまはみことばを通して教えて下さったようです。私たちはまだ「天の人」ではありません。「ガリラヤの人」です。「地の人」です。この地上で生きている者です。「ガリヤの人たち！」という呼びかけは、それを教えているようです。天は準備されている。しかし、私たちはまだ「天の人」ではなく「ガリラヤの人」なのです。福岡の人、佐賀の人、熊本の人、北九州の人……なのです。それを忘れていけない。イエススさまは去られた。しかし、またおいでになります。そして、この御昇天の教えは先々のことだけでなく、すでに今、復活されて人々の中に、人々の間に、御聖体の中に、イエススさまが生きておられることも意味しています。私たちは、そのイエススさまを時々「見上げて」そこから力を得て、この地上の旅を続けて行くのです。見上げっ放しではいけない。ボサーッとつっ立っていてはいけないのです。

復活したイエススさまも、しっかりと地に足をつけておられました。聖書記者たちは、そのことをはっきりと描写しています。天使から復活のメッセージを受けた婦人たちは、急いで弟子たちに知らせに走って行きましたが、彼女たちの行く手にイエススさまは「立っていて」声をかけられています（マタイオス28・5～10）。エンマウスへの途上では、二人の弟子といっしょに「歩いて」おられます（ルカス24・15）。また、弟子たちにあらわれたときは、「彼らのまん中に立たれました」（ルカス24・36ヨハンネス20・19、26）。七人の弟子に現われたときも、イエススさまは岸に立っていました（ヨハ21・4）。

私たちは天を見つめて、それだけでは生きて行けません。それこそ浮き足立ってしまいます。足が浮いてしまいます。天に上げられたイエススさまを見つめていたあの弟子たちは、二人の男のことばによって、おそらく我にかえったでしょう。その後、彼らはエルサレムに帰り、神をほめたたえ、聖霊の息吹に強められました。彼らはキリストと共に生きました。ただ生前のイエススをなつかしんでいたのではありませんでした。

小神学校という足元をみつめ、沈黙の中に天をみつめながら同時に、神のみ前で自分の立っている足元をみつめて、しっかりと歩み続けて行きたいと思っています。

（福岡小神学校）

四旬節愛の献金（55年度）

—インドシナ・カンボジア難民—

大名町	41,457	戸畑	35,000
浄水通	207,000	天神町	112,000
光ケ丘	48,000	八王寺	341,228
箱崎	12,000	水巻	124,000
西新	18,168	飯塚	15,000
大楠	3,800	田川	11,160
美野島	75,000	新田原	100,000
茶山	47,723	行橋	200,664
高宮	271,021	手取	183,863
老司	25,019	荒尾	10,000
吉塚	6,965	人吉	14,090
古賀	35,369	本渡	127,000
二日市	113,000	健軍	20,000
久留米	66,798	大江	147,697
苦野	1,450	崎津	48,000
今村	422,000	島崎	60,000
本郷	70,000	玉名	26,516
馬渡島	40,000	菊池	145,954
呼子	124,150	八代	33,000
佐賀	210,000	志免	8,245
唐津	36,000	鷺津	18,731
伊万里	8,000	松島	36,300
鳥栖	41,910	馬渡島聖母園	10,000
武雄	15,840	馬渡島保育園	10,000
鹿島	3,770	双葉学園	110,264
多久	48,042	カルメル会	20,000
門司	80,928	聖パウロ小神学校	4,286
門司港	23,455	天草訪問会	3,480
小倉	178,016	湯川聖母園	3,625
湯川	34,580	合計	4,289,564

共助組合筑肥協議会設立す

教区組合役員の研修会

四月二十八日～二十九日の二泊二日、福岡市高宮カトリック教会で、共助組合役員の研修会が開かれたが、教区内8組合の役員二十三人が参加した。参加者は高宮教会及びその婦人会の協力のもとに同教会に宿泊して、夜おそくまで組合の運営について語り合った。その結果、教区内の信徒に働きかけ、組合を新設することを三ケ年計画にとりいれて組合運動を推進することに合意した。新設の組合は共助組合筑肥協議会（8組合、会員七六六人、出資金一、八四五万円、会長野田義之（手取）と呼ぶことになった。

従来、長崎大司教区と福岡教区の組合は西九州共助組合協議会を設立して活動していたが、司教区の事情、組合設立時期の状況の違い、会合するための距離的困難さが障得となっていた。

会合と催し

☆平田　司教

6月1日　老司教会の聖体行列。
2日　カトリック・プロテスタントの教役者会。
8日　新田原教会の堅信式、北九州地区聖体行列。
10日　司祭の月例集会。
16～21日　定例司教協総会。
22日　手取教会の堅信式。
25日　聖書共同訳実行委員会
29日　教区修女連ミサ。

☆福岡黙想の家

6月5日　婦人の集い。
6～8日　善きサマリア人修道会の黙想会。
14～15日　ガールスカウトの研修会。
21～22日　一般向黙想会。

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5—4—12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　TEL 272—0671

祭壇・洗礼盤他
石材　石の理想の大御所
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL 52—2417

姪への手紙—21世紀のキリスト者の肖像画（2）

〝カテケージ・トラデンデ〟を読んで

ジュリアン・ガイヤール

勧告書のページを繰る時、あなたは信仰を語る表現の積極性に気付くはずです。〝信仰を守る〟という表現はただの一度も出てきません。そのかわり、〝信仰を深める〟とか〝信仰を育てる〟とか〝成長させる〟、〝成熟させる〟、〝高める〟等の表現が二十回以上も繰り返されています。このことと、私が手紙の始めに書いた、キリスト者はキリストに従って歩く弟子である、ということを考え合わせていただければ、あなたもきっと、ここに大切なテーマがあると認めることになるでしょう。ここに二〇〇〇年代のキリスト者の特徴的なひとつの顔が確かに見られる、と言ってよいと思います。

この最初の手紙をしめくくるためにもう一言、もう一度勧告書の十七節を引用します。教皇はシノドスの後にこう言っておいでです。〝カテケージスは絶えず刷新されなくてはならない〟。しかしこの刷新は二種類の反動を伴います。まず、〝ぶっつけ本番派〟とも言うべき人達。この人達は動揺を生みだし……最終的には一致の破壊と完全な崩壊をもたらします。ですから、あなたの息子が教会のセンスを本当に身につけていくためには、くれぐれも教育が〝ぶっつけ本番〟とならないように……。そして次に〝今までどおりで結構派〟、かって行われたことを行うだけで満足する人たち、つまりおじいさんの宗教だね。教皇は三つの言葉でこの傾向を非難しておられます。〝停滞〟、〝惰眠〟〝麻痺〟…。あなたは勇気をもってさがし求めてください。願わくば、あなたの息子が惰眠を貪ることなく、また、麻痺におちいりませんように！

〝闘士〟

〝神の探求者〟、これが前のあなたへの手紙の中で浮かびあがってきた21世紀におけるキリスト者の最初の顔でした。それでは次はどんな顔でしょう。

再び勧告書によると、神の探求者は同時に闘士である、と言えるでしょう。人間の十全なる解放のために身を献げる闘士です。子供の頃、特に堅信にそなえる時期になると、私達は、キリストの兵士たること、常に神と神の教会を守護するための兵士たるべきことをさとされたものです。私達は教会に対して、まるで句読点のような印象を持たされていました。かなりの年月が過ぎた今日、包囲されているのは人類全体であり、基本的な権利を脅かされているのは人間そのものだという気がします。

私の大好きなヨハネ・パウロ2世の言葉があります。〝我々はいかなる特権も求めない。求めるのは本質的な権利が尊重されることであり〟（人類の救い主、17節）つまり、信仰の自由と良心の自由を求める権利です。ポーランドにおいて、教皇はギェレク氏の前で繰返されました。〝教会は特権を望まない〟と。たしかに、教会がある種の特権を享受し、信仰および宗教上の自由を守ろうとするあまり、これらの特権を守ることに努めた時代や国が存在しました。しかし、すべては過去のことです。現代の賭金は更に高額になっています。

勧告書の冒頭で、教皇は力説なさっています。〝私はすべての差別に対して声を大にする……。改めて緊急に訴えたい。……人間の様々な自由なかでも特に宗教上の自由、に重くのしかかっている束縛がすべて止むように、と願うからである〟（カテケージ・トラデンデ14節）。おそらくあなたは、〝何も新しいことではない。教会が教会の権利や自由、特に宗教の自由を守るために闘うのは当然だ〟と言うでしょう。その通りです。でも、私が思うに、この闘いが今やこれまでよりずっと大きな関係の中に記されている、という点はやはり新しいのです。即ち人権のための闘いです。人権、これを侮辱することは人間を傷つけ、苦しめることにつながるあの人権。これからのキリスト者はヨハネ・パウロ2世が模範をお示しになったように、ワルシャワからニューヨークへ、アイルランドからメキシコまで、抑圧されている兄弟達を十全たる解放へ導くための闘いに、勇気をもって参加しなくてはならないでしょう。

少し説明させてください。教会が怖がっている言葉があります。一部の人達は今日においてもなお、解放という言葉を聞くと、まるで赤色革命の光景が突然眼の前に展開されでもするかのように慄えあがるのです。あなたはまさかその一人ではないでしょうね。また、私のことを秘密共産党員だなど思わないでくださいよ。メドリンで開かれたラテンアメリカ司教会議と、去年のプエブラで行われた司教会議の間に、十年が流れました。メドリンの司教会議はこの問題のきっかけとなり、プエブラの会議では一応の総括が試みられました。解放神学は一九七一年のシノドスの間に、批評の火で鍛えられてきたのです。パウロ4世は、現代世界における宣教活動についての勧告書、特に第三章で、福音宣教を人類の向上、経済発展解放に結びつける密接な関係について詳しく述べておられます。イエズス、キリストによってもたらされる救いを、解放神学者は地上での単なる解放、つまり経済的、社会的、文化的、政治的解放に限定している、という告発がありました。〝解放〟に〝十全なる〟という言葉を冠することによって、解放神学者はこの告発を退けようとしているのです。彼らの意図はむしろ、救いを、日常生活とは無縁な超自然的事象に限定しない、という点にあります。主の祈り〝悪より救い給へ〟を唱える時、人の心を惑わす悪は勿論ですが、同時に我々の兄弟の四分の三が生活しなければならない不当な社会情況に巣喰う悪をもまた、彼らはつきりと心に浮かべているのです。

要するに、解放神学に関してはこの十年程の間に様々な色のインクが多量に費やされてきました。今やその長所は認められ、同様にその危険性も白日のもとに引据えられました。いよいよ、この問題と21世紀のキリスト者教育の間に関係があるかどうかを問う時です。

〝東の国から来た〟教皇ヨハネ・パウロ2世は、この関係を肯定してこう答えていらっしゃいます。〝カテケージスは、信仰教育にあたり、十全なる解放のための活動、より堅固でより友愛に満ちた社会の探求、正義のための闘争及び平和の構築というような現実の問題を充分説明する努力を怠ってはならない〟（C・T29節）。青少年のためのカテケージスについて語る時、教皇は再びこの問題にもどってこられます。カテケージスは〝労働、公共の利益、正義及び愛徳について、青少年にキリスト教の意識を育てなければならない〟。〝国際平和、人間の尊厳の向上、開発、及び解放〟についてのカテケージス……（C・T93節）わかるでしょう。教皇は言葉を怖れてはいらっしゃいません。教皇は、レオ13世から〝人類の救い主〟に至る社会教説の豊かな財産が、〝要理教育の一部として信者の日常に活かされる〟（C・T29節）ことを願っておいでなのです。

これ以上引用を繰返しても無益でしょう。私達は人間の歴史とぴったりかみあったキリスト者を育てなくてはなりません。これは確かです。私達が育てるキリスト者は、〝両足でしっかりと地を踏まえ〟、人間の尊厳が脅かされる時には〝デモに参加する〟ことさえ辞さないのです。従って、21世紀のキリスト者は、その信仰と愛を人間のために献げる闘士でなくてはならない、という私の言葉も決して誇張ではないのです。

（福岡司教館・司祭）

（短）（信）

▽五月二日～五日まで行われた第19回福岡教区クルシリヨは、四十五名の参加者で盛会だった。霊的花束に深い感謝。

▽五月十一日（日）熊本地区教会の合同運動会が、熊本県菊池郡西合志町熊本天使園の運動場で、にぎにぎしく行われた。

▽五月十五日午前八時すぎ、平田司教はアド・リミナ（ローマ聖座）訪問のため、空路上京した。帰福は六月初旬の予定。

▽六月八日（日）午後二時から、新田原カトリック教会で、北九州地区の聖体行列が催される。雨天の折は聖体賛美式となる。

▽六月十五日（日）午後一時に、訪問会大濠修道院で、典礼聖歌研究会の月例集会がある。典礼聖歌に関心のある方を歓迎する。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1—22—28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) 社会問題と信徒使徒職
(布教) 老人たちの布教協力

五月十九日教皇に個人謁見

教皇訪問に熱狂する仏国にも立寄る

ローマ聖座訪問の平田司教

去る五月十五日、アド・リミナ（ローマ聖座）訪問のため出福した平田司教は、先着の日本司教団一行とローマで合流し、しばし、謁見許可の日時を待っていた。

五月十九日、日本司教団に各自十五分宛の個人謁見が割当てられた。教区長は、必要に応じて、この謁見で自分の教区の教勢を報告し、教皇の質問に答えることになっている。平田司教の謁見は午後一時からであった。教皇—貴教区内の人口は？ 司教—七〇〇万人位です。教皇—教区の信徒数は？ 司教—約三万人です。教皇—どうしてそんなに改宗者が少ないのか、平田司教が事情説明しているうちに、割当時間は終わった。

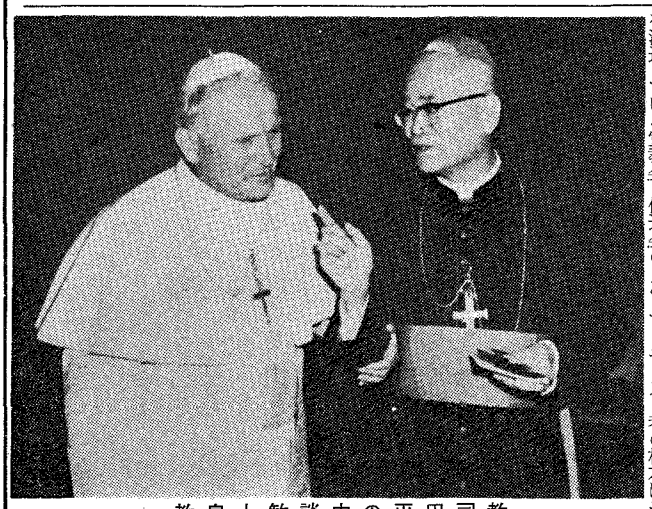
翌日午後一時三十分、日本司教団の合同謁見である。一行を代表した里脇枢機卿は、教皇謁見のお礼言上とともに、教皇の日本訪問をお待ちしていると挨拶した。これに対して、二十分位の教皇の訓話があったが、その中で「日本の信者は他国の信者に比して信仰熱心である。また、日本の教会がとくに、教育事業を通して宣教に活躍していることに感謝する。元来、日本人は祈りの好きな国民であり、観想的な魂を有する偉大な民族である。日本の四十万の信徒は量的に立派であるが、数の上でも努力してほしい」、と激励された。

二十二日、日本司教団は福音宣教聖省に呼集され、各教区の問題について報告を求められた。その折、ロッシ長官が、福岡のサン・スルピス大神学院はうまくいっているので満足しているが、小神学校についても頑張るように、と語った。ローマ滞在中の司教たちは寸暇をみては、自教区内に宣教師を派遣している宣教会・修道会の本部を訪問し、感謝を表明していたのであった。

平田司教は、アド・リミナ訪問の行事日程が終了した後、教皇訪問に沸くフランスに立寄り、見学した。平田司教の体験談によれば——教皇は、五月三十日午後七時すぎ、飛行機の故障のため予定より一時間遅れてパリーのオルリ空港に着き、直ちにノートルダム大聖堂前の広場でミサを行った。その時、ミサの福音が「ペトロの愛の宣言」についてであったこともあって、キリスト者の根本はキリストに対する愛であることを説教した。

教皇は三十一日早前八時三十分から、非キリスト教の宗教指導者たちと会見、十時三十分には、ジスカルデスタン大統領や政府首脳政界の要人を接見したが、その模様をフランスのテレビが放映していた。午後三時三十分、不思議のメダイの聖堂で六千人の修道女を前にミサ。午後六時には、労働者で満員の、パリー市内のセン・ルイ教会で労働者のためのミサが捧げられたが、教会前の広場にも、教会に入れない労働者が一杯であった。

六月一日午前八時十五分、パリーのカトリック大学で学生のためのミサ。十時、雨天のブルジエ空港でミサを挙げ、永遠の叡知が打ち立てた人間性を回復すべきであると説教したが、フランスの二〇〇人の司教をはじめ六十万の大群衆が参加していた。それから教皇は、ヘリコプターでイシ・デ・モリの大神学校に到着、在仏ユダヤ教の最高指導者を引見、また、そのチャペルで仏国司教団にパチカン公会議の一致を目指してほしいと要望、大神学院食堂で夕食を共にした。そのあと、パリースタジアムで五万の学生と三時間に及ぶ対話集会があり、学生の無遠慮な質問にも優しく、しかも堂々と筋を通した解答を与えていた。場外の四万人の若人も、スピーカーを通してこのやりとりに聞き入っていた。この殺人的スケジュールの中に、いつも万人に愛される柔和な教皇の顔があった。



教皇と歓談中の平田司教

聖座訪問の日本司教団

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品

㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社

社長 カシミロ・塩田五郎

福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）

TEL 代表 092 (521)—8266—7

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話 52—3306
52—8622

〝カテケージ・トラデンデ〟を読んで

姪への手紙—21世紀のキリスト者の肖像画（3）

ジュリアン・ガイヤール

〝おじいさんの時代の古い公教要理〟には、こうした社会教育、政治教育に対する若干の軽視があったことも否定できません。幸いなことは、古い公教要理が、魂の永遠の救いに心がけ、さし出された手には施し物を拒まない立派な神の礼拝者を養成することも時々ありました。しかし、地上を〝涙の谷〟とよび、地上における存在としての人間については殆んど何も教えてくれなかった、ということはやはり認めざるを得ません。ヨハネ・パウロ二世はおっしゃっています。啓示とは〝生活からかけ離れたものでも、人為的に生活と並べられたものでもない。人生の最終的（最も基本的という意味で）な意味に関するものである。人生の啓示によってその全容を明らかにされ、福音の光のもとに、霊気を吹きこまれ、批評されるのである〟（CT22節）ここで疑問が湧いてきます。19世紀のキリスト者は、彼らが生きていたあまり友愛的とは言えない社会に対して、〝批評する〟ということを知っていたでしょうか？新しい社会のモデルの探究に〝霊気を吹きこむ〟ことを知っていたでしょうか？たいした霊感もそなえていないのに、あまりに発言を許されすぎた〝予言者〟が多かったのではないでしょうか？パウロ四世と現在の教皇は、信仰の〝横の関係だけをとらえた世界観〟に対する警戒を促しておられます。（CT49節）もしこの二人が百年前の時代に生きておられたら、当時のキリスト者に向かって、信仰生活の中に見られる縦の関係だけを重視した世界観に対する警告を発せられたことでしょう。

歴史は歴史家にまかせることにして、私達は将来にそなえましょう。そして人間のために闘うキリスト者を育てましょう。彼らは、彼らの〝批評〟と〝探求〟にインスピレーションを求めなくてはなりません。大切なのは、これをどこに求めるかということです。〝イデオロギー、いわんやその本質が政治性、社会性を帯びるイデオロギー〟（CT52節）の中にではありません。イエズス・キリストの福音の中に求めるのです。教皇はプェブラでおっしゃいました。

〝人間を愛し、守り、教会はシステムやイデオロギーを必要としない〟。この力強い言葉の解釈はあなたにまかせます。この言葉をよくかみしめて、ガキ教育の中で具体的な行動に訳してくれることを願っています。次の手紙でまたお会いしましょう。

〝対話する人〟

〝20世紀もいよいよあとわずかを残すだけとなった。今こそ我々は完全な和解へ向けて歩を速め、21世紀の曙光が全き交わりの中で肩を寄せあった我々を照らし出してくれるようにと願う時ではなかろうか〟。

これがヨハネ・パウロ二世の言葉だということは、その独特な調子でわかるでしょう。去年の十一月三十日、イスタンブールの兄弟達、ギリシア正教徒を前にして語られたものです。この同じ日、教皇は神学に関する二教会間の対話の開始も公式に発表なさいました。

もうおわかりだと思いますが、この手紙のテーマは一致です。もっと正確に言えば、一致を目指す姿勢、特に対話です。〝分かれた兄弟達と肩を寄せあった私達自身の姿を21世紀の曙光の中〟に見い出したいと望むなら、この一致のために努力し、またこの一致を体現し得る子供達を育てなくてはなりません。

対話、この言葉も今やいろんな人の口にのぼるようになりました。政治の分野にも進出したようです。東西の対話、南北の対話、少々散文的になってしまうけど資本家と労働者の対話とか……。しかし昔はこうではありませんでした。パウロ六世及び一九六四年八月に出された〝教会と対話〟（エクレシアムスアム）に関する彼の最初の書簡によって、対話するということが、教会の良心にとってたどるべきひとつ道筋として示されたのです。あなたはまだほんの子供だったけど、私のような若い宣教師達にとって、これは一大事件でした。何と言ったらいいんでしょう？そう、この書簡によって私達は気が楽になり、自由になり、そして熱狂しました。とうとう一致への道が開かれた！もはやカトリック教会、かつて教会を不当に見捨てていった人達が再びその懐にもどって来るのを無感動に待つ、という態度はやめました。エンマウスの二人の弟子のように教会も杖を取り、他の教会や共同体と共に進みはじめたのです。イエズスの言葉を聞きながら、いつの日にか同じ食卓で晩餐を祝うことを希望しながら……。

この少し後、信仰一致の再建に関する公会議の教令が発せられました。この教会に強い刺戟を受けたエキュメニカル運動は、〝新たな規模を経験し、これは一連の感動的なできごとや創意の中で具体化されていくことになります〟。（CT32節）パウロ六世とアテネゴラス四世がエルサレムでかわした有名な平和のあいさつを思い出すでしょう。このような出会いがふえてきました。とすれば、平和のあいさつもきっとふえたことでしょうね！御聖体、役務、聖書と聖伝、義…等の関係について述べた共同声明や報告書は数えきれず、この15年間の神学的対話の時代を区切る道標となっています。

ところがこの運動は今、危機に頻している人達にとって、公式の神学論争は、〝あまりに長びいたために行動にブレーキをかけ、情熱をさます結果になったのです〟。この人達は言います。今必要なのは〝きっぱりとした態度、大担な創意を試みである。そうしてこそ新しい道を開く可能性もでてくる…〟。また別の、今度の指導者の側からの意見があります。〝神学者及び対話の任務はすでに完遂されたと考えてよい〟。〝詳細にわたる膨大な報告文〟によって、指導者達は〝各教会間に存在する共通点と相違点〟を充分に検証し得た。〝出会いを終わりにすることは当然であり、正当であろう〟（これらはウィルブランズ枢機卿のエキュメニカル運動12年の歩み、一九七八年十一月から、引用した言葉です）というのがその言い分です。更にひどい意見もあります。教皇のまことに適切な表現を借りれば出会いに終止符を打つばかりでなく〝後戻りしようとしている〟人達です。この人達は、一致への努力が〝福音のこころを損ない、ひいては教会に新たな分裂をもたらす〟と考えるのです。（人類の救い主6節）後戻りするなんて！この点に関する教皇の意見ははっきりしています。〝誠実に、忍耐と謙虚さと勇気をもって、接近と団結への道を模索する以外に方法はない〟。〝これ以外の方法をとれば、我々はキリストの御言葉に背くことになろうし、キリストの遺言（父よ、みんながひとつになるように）を全うすることもできないであろう。このような危機を冒すことが許されるだろうか？

〝カテケージ・トラデンデ〟の中でも、教皇は同じ問題に触れておられます（32、33節）。ここでは、シノドス（提言、6節参照）よりかなり多くの行がこの問題にさかれています。カテケージス、即ち信仰教育はエキュメニカル運動に〝無関心ではあり得ない〟。それではどのように子供達を教育したらよいのでしょうか？どうすれば我々すべてのキリスト者が〝全き交わりをもって肩を寄せ合う〟日に少しでも早く到達できるのでしょうか？教皇はこの教育の大筋を示してくださいます。〝言葉と行動によって、心から他の教会を尊敬すること〟。他の教会を〝正確かつ正直に〟に紹介し、〝その兄弟達に対する理解と評価が深まるようにすること〟。〝さまたげとなるものを取り除くために……自分自身を浄める努力をおこすこと〟。〝一致への心からの望みを生みだし、これを養うこと〟そして〝カトリック以外の信徒と共に生活する…子供達、青年達を育成すること〟。私が次のように付け加えても、教皇のお考えを裏切りはしないでしょう。即ち、カトリック以外の信徒と協力してより公正なより友愛に満ちた社会のために働くことを学ばせる。尊敬、誠実、対話、共同研究…等の言葉が鍵となるでしょう。同時に、教育が具えておくべきもうひ

（第三面につづく）

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

(第一面から)

とつの側面、決しておろそかにできない側面があります。それは、子供達が〝各々の信仰を深め〟、〝カトリック信徒としての自己〟を発見するための手助けをすることです。分かれていた兄弟達との接触の中で子供達が正確に自己を把握する、その手助けを教育がするのだと言ってもよいでしょう。

〝教義上の省略や妥協〟とひきかえにして、完全な一致を目指せるはずはありません。完全な一致と〝安易な事なかれ主義〟は無縁だからです。

この手紙では、キリスト教以外の諸宗教・文化に対するキリスト者の姿勢についてもお話ししたかったのですが……。すでにだいぶ長くなりました。ですから次の手紙に書くことにします。この手紙のまとめとして、もう一度ヨハネ・パウロ二世の言葉を引用します。イスタンブールでの演説の一部です。〝友好関係と接触を回復することは、カトリック教会とギリシア正教会の間で、すでに決定されていた。これによって、二教会が互いに理解しあい、神学上の対話を実り多いものとするための雰囲気が用意されるはずであった。一節を繕う試みより、協力しあって一章を繕うことが先決だったのである。まさしく愛徳の対話と呼ばれたのがこの時期である〟。

教皇が〝一章を繕う〟、〝一節を繕う〟と区別なさっている点はみごとだと思います。時として、一節が一章に先行していたのではないかという懸念を私も感じるからです。言い方を変えれば、一節一節は時として、時々と言っていいかも知れません。丁寧に繕われてきたにもかかわらず、一章、つまりこれらを受けいれ、消化するために必要な雰囲気は、常に遅れをとっているのです。神学上の対話は新幹線に乗ったのに、愛徳の対話は鈍行でまだ旅行中、というわけです。

私の想像では、あなたの息子は神学者になるつもりはないのでしょうから、彼が文章を書きなおす必要はありません。しかし、すべてのキリスト者は、私やあなたのような、分かれていた兄弟達と愛徳の対話をかわすことによって、これから、この文章を受けいれるような雰囲気を創りだしていかなければなりません。これなしでは最も美しい文章と言えども、単なる死文にとどまってしまいます。

対話についての続きはまた近いうちに……。

(福岡司教館・司祭)

会合と催し

▽平田 司教
7月1日 司教霊名祝賀会
6日 健軍教会堅信
7～12日 共同体大会
12日 水巻教会堅信
20日 本郷教会納骨堂落成式

▽福岡黙想の家
7月5～6日 YMC研究会
17日 聖公会祈りの会
17～20日 聖母訪問会研修会
20日 コイノニア会
21～23日 雙葉学園高校の宗教部合宿

ベトナム難民慰問

福岡教区信徒使徒職協議会は、山田市下山田にある日赤ベトナム難民収容施設「大法園」の六十三人のベトナム難民を慰問し、九十万円の義捐金を贈った。これは、昨年度の街頭募金の一部と本年の四旬節愛の募金である。

七月年忌の司祭

▼ヨゼフ・ブルトン神父(パリー外国宣教会)一九五七年七月二十五日元呼子教会主任。

▼ルネ・ルリエ神父(パリー外国宣教会)一九七〇年七月二十八日元本城教会主任。

福岡教区第二学期神学講座

福岡教区第二学期の神学講座は、九月十六日～十二月十六日までの毎週火曜日午後六時から、福岡市中央区御所ケ谷一福岡雙葉学園中学教室で、左記のとおり行われる。

なお、受講料は350円×14回＝4900円である。当日、会場において受付ける。

講義科目および担当講師

9月16日 神の呼びかけと良心 中浜師
9月23日 神の呼びかけと良心 中浜師
9月30日 神の呼びかけと良心 中浜師
10月7日 近代と現代の教会史 高木師
10月14日 近代と現代の教会史 高木師
10月21日 近代と現代の教会史 高木師
10月28日 近代と現代の教会史 高木師
11月4日 神の呼びかけと良心 中浜師
11月11日 神の呼びかけと良心 中浜師
11月18日 神の呼びかけと良心 中浜師
11月25日 近代と現代の教会史 高木師
12月2日 近代と現代の教会史 高木師
12月9日 近代と現代の教会史 高木師
12月16日 近代と現代の教会史 高木師

聖体行列

新田原カトリック教会(主任・山川辰幸師)は、六月八日午後二時から、聖体行列を行った。

生憎な小雨模様の天候であったが、近隣の教会からの参加者を含めて、一、〇〇〇人の信徒が聖体讃美と共同体の一致を実践した。

午前中堅信を司式した平田司教が聖体を捧持し、盛大な聖体行列に色彩を添えた。

「祈りと愛で輪を作り、みことばを日々の糧に」のスローガンで、やる気の新田原教会である。

新田原教会の聖体行列

お詫びと訂正

先月号の四旬節愛の献金の報告の中で、美野島教会の七万五千円は、東田島教会の献金でしたので、訂正とともにお詫び申し上げます。

〝広報の日〟献金

(5月11日)

町	73,915	馬渡島	11,000	田川	4,340
名水	10,248	呼子	7,500	新田原	40,083
大ケ丘	27,637	佐賀	10,000	行橋	13,900
浄崎	7,000	唐津	15,000	手取	23,382
光田	20,000	伊万里	5,000	荒尾	5,000
稲					
東	12,990	鳥栖	6,848	人吉	14,200
西新	11,071	武雄	2,910	本渡	6,405
大楠	10,000	多久	3,710	健軍	10,000
美野島	8,615	門司港	27,032	帯山	13,000
茶山	9,751	門司	15,137	水俣	7,500
高宮					
老司	13,000	小倉	50,000	大江	19,446
市塚	36,000	湯川	26,224	崎津	11,500
古賀	15,059	戸畑	43,097	崎島	26,000
二市	13,000	若松	7,660	玉名	9,500
久留米	36,850	天神	15,000	菊池	38,400
大牟田	5,255	黒崎	14,000	八代	13,000
吉野	1,210	八王寺	5,135	志免	4,000
今村	74,500	水巻	16,000		
本郷	26,000	直方	4,000		
小郡	6,587	飯塚	8,000	合計	971,597

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5－4－12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所 大石真澄
〒810 TEL 272－0671

祭壇・洗礼盤他
石 石 他
理 影 の
大 御 そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

家庭訪問宣教

福岡聖パウロ女子修道院

「私があなた方の耳もとで言うことを屋根の上から言い広めなさい」（マタイ10・27）と主は使徒たちに言われました。そこで私たちは、みことばを通し、教会を通して私たちに告げられた救いの福音を、社会的コミュニケーションの手段を使って言い広めています。

マス・メディアを使ってといっても、映画やビデオなどはまだまだ始めたばかりで、主に、書籍による真理の伝達に力が注がれています。

一人の方が長年かけて黙想し、生き、研究してこられたテーマが、一度の講演会で百名ないし数百名の方々に語られたとしても、それに接することができるのは、限られた特定の人たちにすぎません。それが数千部、数万部の本になった時、あるいはテレビ・映画となって全国津々浦々に伝えられたとしたら、いっそう多くの方々のもとに届くことになるわけです。

こうした宣教の一端として、私たちはみことばの光を宿した本を持って一軒一軒のお宅を訪問しています。

このような訪問をするなかで、実にさまざまな出会い、反応、応待を受けます。見ず知らずの初対面、しかも見なれない風変わりな服装をして本を紹介にきたと言う――諸々のセールス・勧誘でうんざりするほどの毎日、時には強制・おどしを受けることもあるぶっそうな世相のなかなのに、「まあ、お暑いのに大変ですね、どうぞお入りください」とドアを開き、私たちのことばに耳を傾け、ページを開かれる方々もいらっしゃる。こういう方々に接する時、「神は宣教という愚かな手段によって、信じる者を救うほうがよいとお考えになったのです」（1コリ1・21）ということばを、しみじみと味わいます。

私たちは〝どるにたりない弟子〟であったとしても、キリストから、教会から遣わされた宣教者です。たとえこのような任命の意味を今へ知らなかったとしても、私たちに心とドアを開き、受け入れることのできる方々の心の素直さ、やさしさに、私たちは深くうたれるのです。こういう方々の中にすでに働いておられる神のみわざに出会って、私たちもまた富まされて帰ります。

私たちは次から次へとへめぐり、再び同じお宅にうかがうというのは非常にまれで、ほとんどが一回かぎりの出会いで終わりますが、こうした出会いの中には、忘れがたいものが刻みこまれます。このような喜びは、おそらく神さまのみ心のなかにも、永遠にしるされているにちがいないと思われるのです。

〝移動信徒の集い〟に参加して

シスター　川口

福岡教区が国内移動信徒の仕事を始めて、三年目に入りました。福岡地区は、工場も少ないし、そう転入して来る人もいないだろうと思われ勝だったのですが、調べて見るとなかなかそうでもありません。

長崎センターを通って来た数だけでも、昭和53年に70名、54年に101名、55年に84名、合計255名となっています。

長崎教区では、必死になって育てた自分達の兄弟、ひいてはキリストの兄弟が迷子にならないようにと、全国の教会に向って援助を求めておられます。私達も、この殉教地に育った苗木を大切に移植し育てる役目を、よく果してみようと小さな奉仕をつづけて参りました。全国のスタッフ達は、毎年春先には、長崎五島地区を回って、進学、就職のため県外に出る若者達とのつどいの場を持ち、転入先の教会とのコンタクト作りを始めます、又長崎センターでは、全国の各転入先の教区に転入者の名簿を送ります。これを受け取った側では、これを台帳に記入し転入者の住所に近い小教区に届けます、それが済んだら実地調査をします。住所を確認し教会に行っているかなど、電話連絡、訪問等によって仲間入りをすすめています。

新しい場所に来て、勉強や仕事に馴れるまでの各人の苦しみ困難も生易しいものではないようですが、皆一所懸命やっています。

我々の方でも、この若者達が一日も早く場所や教会に馴染むようにと祈り考えているのですが、なかなか思うようにはかどりません

東京・大阪・名古屋の先輩達から励まされたり、よい見本を提供させてくださったりして頂きましたので、去る六月十五日に、始めての会合を開いてみました。

今回、170通余のお知らせを発送し、出席の禁会を紙してみました。さすが長崎・五島の人達は、教会の呼びかけに実に忠実でした。

住所不明で25通程舞い戻りました、又欠席届も本当に心温まるものがありました。当日の出席者は30名近くで、迎える側には、大名、西新、老司、光ケ丘の青年が加わり、60人余りの参会者が兄弟的喜びの雰囲気の中で半日を過ごす事が出来ました。

当日のプログラムは、午後一時から、担当責任者竹森神父様のミサで、「一つに結ばれる教会の子等」のテーマによる素晴しい説教、フランシスコ会の太田神父様の参列などで、ミサの雰囲気も非常に敬虔な姿の中で行われました。ミサ後、旧聖堂ホールで会食と自己紹介、フォークソング、ゲーム等、又ホールの後方には、長崎五島での集いのスナップ写真「日本のローマ」「先祖の血で飾る殉教の地」緑の山々の間から天高くそびえる十字架の尖塔の美しい聖堂や殉教者の像の佇つ教会の庭など誇り高きふるさとを偲ばせた。

始めての集りとしては成功だったと思います。こうした一つの形になった心のつながりを見る事が出来ましたのは、事前に多くの協力者があったからです。先づ第一に大名町教会の青年会の協力です。次に主任神父様からの呼びかけ、日曜日のミサ後のお知らせに二回にわたって、発表してくださったのは、とても力強い後だてになりました。又市内の西新・老司等の青年が応援に駆けつけてくださったのも非常に頼もしい限りでした。ありがとうございました。又今後共教区民の皆さま、よろしく御協力下さいますように御願い申し上げます。

（訪問会大濠修道院）

短信

▽八月三日(日)午後一時から、福岡市中央区小笹四丁目の聖パウロ修道院（男子）で、典礼聖歌研究会の例会がある。参加自由。

▽六月十日午前十一時から、福岡小神学校の増築校舎の定礎式が平田司教によって行われたが、約三十人の司祭が参列した。

新校舎の一階には、司祭室・応接室・娯楽室があり、二・三階にはそれぞれ寝室とトイレが設置されることになっている。建坪は一三坪である。

微光

ある月曜日の昼下がり、けたたましい電話のベルに驚かされた。匿名の電話である。「わたしは今、神社のお守り（守護符）を丸呑みしました。これで、キリスト教の洗礼が消えたのではないでしょうか。わたしはすでに、キリスト教徒ではないと思いますが…」。どうやら、声の主は若い女性のようで、不安ながらも真剣な訴えであった。洗礼の秘跡は、キリスト者の心に消えない印を与えたはずなのに…。カテケージス（信仰教育）の必要性を痛感した、ショックキングな一件であった。▼キリスト中心の成熟した信仰を取り戻そう。「キリスト教共同体は、神のことばに敬虔に耳を傾けつつ、成熟した信仰に生きる。またこの共同体は、回心と刷新にたえず情熱を寄せ、聖霊が教会に語ることを注意深く聞くのである」。（カテケージス一般指針二十二番）教会が秘跡を通してキリストを現存させる時、キリスト自身が洗礼を授け、聖体祭儀を捧げている。▼キリストとわたし、の関係は、愛である神に自分を全くゆだねた信仰の従順であるから、キリストになりきるべく、みことばと生活の証しに励むのである。キリストのように話し、キリストのように考え、キリストのように行い、キリストのように愛そう、力の限り。人間に対する神の聖旨は愛の完成である。「ホンモノ」を心に宿すとき、人間も信仰も「ホンモノ」になる。祈りと秘跡と愛によって永遠のキリスト者を目指したいものである。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1―22―28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) キリスト教的家庭生活
(布教) キリスト教家庭の布教的精神

ヤコブ平田勇師永遠の安息に

七月二十日肝硬変のため

大司祭キリストとともに43年
しめやかに、また盛大な葬儀

二年前から入院して、療養生活を続けていたヤコブ平田勇師（前西新教会主任）は、小康状態を保っていたが、七月十九日突然の出血により容体急変し、翌日午前八時、加療の効もなく、肝硬変のために帰天した。行年六十九才で、司祭叙階から43年目であった。

直ちに、遺体は大名町カトリック教会聖堂に安置された。午後七時から、同所で通夜が営まれ、実弟に当たる平田福岡司教が主司式者となって、深堀高松司教や福岡市内の司祭たちと共同ミサを捧げ、また、それに与かった多数の弔問客は故人の永遠の安息を祈った。

葬儀ならびに告別式は、翌二十一日大名町カトリック教会で、しめやかに、かつ盛大に行われた。午後二時、平田福岡司教、深堀高松司教、深堀仙石衛門司教をはじめ六十人近くの教区内の司祭による葬儀ミサが、レークィエムの大祭歌ではじまった。聖堂内では、三十度を越す猛暑に満堂の参列者の熱気が加わって、扇風機の騒音も単なる気休めにすぎない程に、汗がふき出る有様であった。

故人の教え子の一人である深堀高松司教が追悼の説教を行った。「ひとりの人の死は悲しいものであり、死はその人にとって一つの挫折であり、希望の仕打ちである。本日私たちがお別れしようとしている平田勇神父さまのその死も、ほかのすべての人の死と同じく私たちに悲しみを覚えさせ、そして又ご本人にとって、この死は一つの大きな挫折であったということを否むことは出来ません。その死は悲しみであり、挫折である。主イエズスさまの死が多くの人々にとって悲しみであったことそれ以上に挫折であるかのように、神父さまも正にその典型である。

多くの人々の期待に副うべくこの世にお現われになったはずの本人さえ、人生の半ばの年に、十字架に向けてみじめな死をおとりになったそのお姿を、今私たちは福音の中に黙想しております。

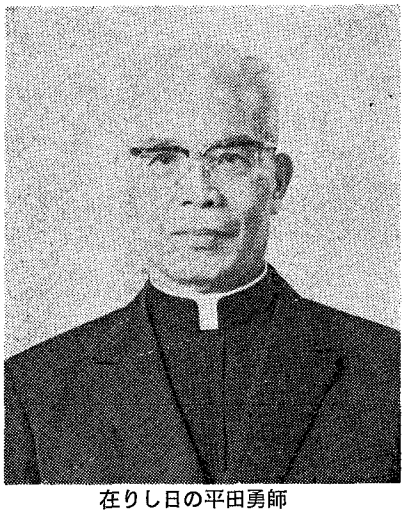
人の死はすべて主イエズスさまの死と密接な関りがあるものである。また、とくに、一人の司祭は主イエズスさまの死を常にその身に持って生きて来た以上、その死の聖なる瞬間は主イエズスさまのご死去の再現であるはずである。

最近、ある人について、私たちは栄光の極みにあって思いがけない死を味わった人を知っている。それは人々にとって、死は予期しないものであり、多くの人に悲しみと希望の挫折を意味します。主イエズスさまの死を考える時、その死の余りのすさまじい姿に驚嘆する。私たちのひとりの人間が主のみもとに行くときに、主とともに主のみ跡にしたがって同じ道をとらなければならないのである。

今日お別れする平田勇神父さまの長いご生涯を辿ってみる時、皆さんは故人のお姿をまざまざとみがえらせることがおできになると思う。しかし彼の一生は十字架の道であったとしか私には思えないのである。それは司祭の生きていく道は十字架の道以外にないからである。その起ったことは私たちによみがえってくるが、いま胸に手をあてて考えるとき、『げに彼は一人の司祭であった』と断言出来る。十字架の下でキリストの一部始終を見ていた百夫長が、十字架上のキリストを見て『げに彼は神の子なりき』と信仰宣言をせざるを得なかったと同じように、私は平田勇神父さまが喜びと感謝をもって犠への一生を捧げられたと神に申し上げたいと思う。また申し上げることができると思います。

私個人の想い出の中で、昭和十二年九月八日、そのころの泰星中学、この頃の泰星高校の付属聖堂で司祭の位をうけられた姿を思い出します。私にとって、この目で見た全く聖なる荘厳な儀式であったからである。この時以来、犠への生活をすべての奉献としてきたことを知っている。以来43年間、かれが一人の教区司祭として戦前戦中戦後にかけて、どれだけの功績があったかを長々と申し上げる必要はないと思います。一人の司祭が何をしてきたかを事細かく申

（第二面につづく）


在りし日の平田勇師

故平田勇師の葬儀ミサ

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092 (521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

(第一面から)

し上げ、あらためて思い出すよりも、かれが司祭として生きることにもっとも力を注がれたことを知っていることだけで十分であると思う。

たしかに困難な時代で、むつかしい状況の中に司祭として生きてこられた。しかしながら、どんな状況の中にあっても司祭として生活する使命がすべてに優先するはずであり、そのためにこそ彼は選ばれ、苦しみの一生を奉献されたのであった。この意味で死はかれにとって決して挫折ではなくて、長い間捧げつくしてこられた犠牲の完成の時である。ご自分の捧げが天国においてうけいれられたことを証しする場面であると思う。

この意味で私たちは感謝のミサをここで捧げなければならない。決して悲しみの挫折におおわれた死の想いではなく、主がご自分の懐にお招きになった平田勇神父さまが私たちの前で司祭として立派に生きてこられたことに対し主の恵みを感謝しなければならない。

十字架の下に立っておられた主イエズスさまのお母が、そのおん子のうけいれをそばから手を差しのべて協力なさったように、今主のみ前に立ちあらわれた平田勇神父さまを、母としての優しさをもって主イエズスさまのみ前にお導きくださいますように。」

ミサ後、引き続き告別式になったが、教区司祭団の代表伊東師(司教総代理)、西新カトリック幼稚園の信徒代表、西新教会の信徒の父兄代表や園児代表の弔辞が捧げられた。また、数多くの弔電が寄せられ、故人の交際の広さを偲ばせた。最後に、献花をもって一応式を閉じた。一時間四十分に及ぶ、しめやかな裡にも盛大な葬儀、告別式のシーンであった。

故平田勇師は一九一一年四月二十一日、福岡県三井郡北野町大字中一八六〇に生まれた。一九三〇年三月、長崎私立海星中学校卒業、同年九月、東京市板橋区石神井関町公教神学校哲学科入学、一九三三年三月、同校卒業。四月、同校神学科入学、一九三七年三月、同校神学科卒業。一九三七年九月八日司祭叙階後、大牟田サン・スルピス神学校教師兼カトリック教会助任。一九三八年二月、日本天主公教福岡教区教師社団理事、同年四月、福岡市私立泰星中学教師。一九四一年八月、佐賀県馬渡島カトリック教会主任、同所カトリック育児院院長兼同県呼子町カトリック教会主任ならびに同所殿ノ浦愛児園園長。一九四五年一月、福岡県三井郡大刀洗村カトリック教会主任兼清心保育園園長。一九四七年九月、福岡カトリック神学校校長。一九五一年三月、学校法人カトリック学園監事、一九五一年九月、二日市カトリック教会主任。一九五二年四月、福岡市カトリック司教館勤務、一九六二年五月、福岡市西新カトリック教会主任兼西新カトリック幼稚園園長。一九七九年四月、長期病気入院のため西新カトリック教会主任を辞し、療養に専念していたが、一九八〇年七月二十日、ついに不帰の人となった。

故平田勇師の柩

故平田勇師の告別式

八月年忌の司祭

▼エミール・ベノア神父(パリー外国宣教会)一九六二年八月六日元門司港教会主任

▼アルベルト・ブルトン司教(パリー外国宣教会)一九五四年八月十二日元福岡教区長

▼ミカエル木村義己神父(ブラジル・マリンガ教区)一九六七年八月十四日元馬渡島教会主任

教区修女連第10回総会
新役員と大神学院見学

さる六月二十九日(日)福岡教区修道女連盟第10回総会が、九十二人の修道女を集めて、サン・スルピス大神学院で開かれた。

午前十時二十分総会がはじまるとつぎの新役員が紹介された。委員長シスターコロンバ(カノッサ修道会)副委員長シスター堀(福音の光修道会)委員シスターギリス(ノートルダム修道会)委員シスター鈴木(フランシスコ修道会・熊本)会計シスター小田(聖母の騎士修道会)書記シスター小柳(師イエズス修道会)監査シスター永瀬(幼きイエズス会・熊本)。続いて、平田司教のミサ、司教霊名日の祝詞、花束お祝いを贈呈。平田司教のローマ聖座訪問、教皇謁見やパリー訪問についての一連の話しが深い感動をこめて進められ、予定時間を30分もオーバーするほどの熱の入れかたであった。十二時三十分の中食は、親睦促進のため10のグループに各修道会が入りまじって、木陰の芝生の上で音楽を聞きながらいただいた。中食後、イエール師の案内で大神学院の見学、特に、クムランの死海写本や聖堂のステンドグラスの説明は印象深く残った。午後一時四十分から、親睦会。教会学校用の歌・遊戯・手品などを学習し、楽しんだ。晴天に恵まれ、澄んだ空気と静けさにつつまれた大神学院での各修道会の交わりは、よい一日であった。

会葬お礼

福岡教区司祭故ヤコブ平田勇儀の葬儀ならびに告別式に際し、ご多忙にもかかわらず遠路ご参加・お祈りを賜わり、また、ご香典やご供花をいただきまして有難うございました。

天国の故人になりかわりまして、紙面を借りて心からお礼申し上げます。

昭和五十五年七月二十一日

宗教法人
カトリック福岡司教区
近親者　一同

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (713-7912)
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

暑中お見舞申し上げます

昭和五十五年盛夏

福岡司教 平田 三郎

福岡教区聖職者一同

信仰と愛の証しをより強く
北九州信徒協代表者会議

七月六日八王寺教会で、北九州地区信徒使徒職協議会（指導司祭浦師）の代表者会議が開かれたが、九教会の代表者が集まって、信仰と愛の証しをより強力に、より積極的に展開するために話し合った。

一、「家庭の年」に関する各小教区の動き――❶十月十二日開催の教区集会に関する動き―小教区として団体参加を決定しているところは新田原教会のみで、他の小教区は個人参加か、又は検討中である。これに対し浦師から「教区の準備委員会の意向としては、当日の各小教区でのミサを変更してでも団体的な参加を希望している」旨の発言があった。❷小学生対象の作文「私の家庭」に関する件―各小教区とも教会学校や要理の指導者により作業が進められている。その取扱いについても一任しているところが多い。門司教会では小教区独自でも表彰を考えており、戸畑教会では文集の作成配付を考えている。（注、七月二十一日現在で、北九州関係では水巻、戸畑、小倉、黒崎、湯川、新田原、行橋、田川、門司の各教会から作文が寄せられている。）❸各小教区独自の行事計画―小倉・黙想会。門司港…親子キャンプ、映写会、教会学校への父親参加。戸畑…講演会ならびに分かち合い。湯川…分かち合い、青年会の育成。黒崎…分かち合い。

二、二十六聖人映写会の件――信徒協として十一月十六日開催予定で会場など交渉中、その後交渉の結果、十一月九日（日）明治学園で開催することに決定、時間は午後一時から二時間の予定。また、門司港教会では八月九日（土）午後七時三十分から上映する。

三、代表者会議に前会長出席の件（顧問の設置）―「会長は前会長を顧問として代表者会議に出席を要請出来る」ということの承認を得た。

四、街頭募金に関する小委員会設置の件―街頭募金の時に協力者に配布する「チラシ」を作成することを目的に小委員会を設置する。委員は村松（戸畑）、吉竹（門司）、追立（行橋）、沢口（八王寺）、長谷川（小倉）の五名とする。

五、会費徴収の件―地区会費一人当五円、教区会費一人当十円計十五円を次回代表者会議の時持参のこと。

六、「平和と正義を守る会」の活動状況報告について―徳山師（天神町）から報告する場を作ってほしいとの要請があり、次回代表者会議の時行う。

七、一日里親の件―協力をお願いした。

次回代表者会議は、十月五日午後一時三十分から、八王寺教会で開催する。

会合と催し

☆平田 司教
8月1～3日 ACO大会、東京大神学院において
12日 司祭評議会常任委員会
23日 田島教会の祝い
24日 長崎の全国青年大会
26～28日 教区幼稚園連盟の研修会

☆福岡黙想の家
8月1～10日 聖母訪問修道会の黙想会
17～23日 サレジオ修道会の黙想会
24～30日 修道女のための黙想会
30～31日 プロテスタント周船寺教会の祈りの会

（飛）（脚）

一、福岡司教館のジュリアン・ガイヤール師（パリー外国宣教会）は七月十四日、心臓疾患のため福岡市西区七隈の福岡大学付属病院に入院した。

一、鳥栖カトリック教会は、八月二十三日に長崎で行われるカトリック青年全国大会の成功を祈念して、鳥栖から長崎までの徒歩巡礼を計画し、一般信徒に広く呼びかけている。

計画では、八月二十日夜、鳥栖カトリック教会に集合し、二十一日早朝、長崎への巡礼を開始する。二十一日の宿泊先は武雄カトリック教会、二十二日は大村カトリック教会で、長崎到着予定は二十三日の午後五時である。参加希望者は八月十五日までに申し込むこと。連絡先は鳥栖市本通町一一八〇六鳥栖カトリック教会（電話〇九四二八―二一二八二）引率責任者はヨゼフ・ピアッチニ神父。

一、少年少女を対象にした練成会（サマーキャンプ）が夏休みを利用して盛んに計画されているが、既に終ったものも含めて紹介してみよう。福岡地区―七月二十四日から二十六日まで、小学四年～六年までの少年少女合同練成会、小笹の聖パウロ会小神学校において。また、八月六日～十日、十九日～二十三日、二十五日～二十九日の三班に分かれて、みさかえの園（佐賀）で高校生のボランチア活動が行われる。北九州地区―小学生の女子だけを対象にしたサマーキャンプが七月二十八日～三十一日まで、古賀教会ではじまる。熊本地区―小学五年から中学三年までの合同少年少女練成会が、八月二十二日～二十四日まで、金峰山の少年自然の家で開かれる。佐賀地区―七月二十三日～二十七日まで基山教会で、鳥栖教会の男女小学生のキャンプ。七月二十四日～二十七日まで、佐賀・多久教会の男女小学生の合同練成会、佐賀教会で。また、唐津・呼子・松島・武雄教会の男女小学生の合同練成会が、北山ダムの上無津呂公民館で行われる。久留米・鳥栖教会は男女合同の高校生キャンプを松島教会ではじめる。八月十一日から十三日まで。佐賀地区の男女中学生の練成会は、七月二十八日から三十日まで呼子教会で行う。このほか、各地区では小教区単位の練成会（黙想会）がある。正に鍛える夏の幕明けとなる。

目抜き通りにマリア像の山車
鳥栖カトリック教会

鳥栖カトリック教会は、八月十五日午前十一時から、一時間にわたって市内の繁華街に、マリアを賛美するパレードを繰りひろげることにしている。

マリア像は高さ一四〇センチ、重さ三〇〇キロの台湾製の木彫で、足許に幼子イエスが立っているという母子像である。当教会の説明によると、母の顔の表情と幼児の顔と手の置き方に深い信頼心が表現されている傑作である、といわれている。このマリア像を大きな車にのせて行進する。

鳥栖カトリック教会（主任・ピアッチニ師）は市民とのふれ合いを積極的に実行していて、昨年七月には、新築した教会の鐘楼の三つの鐘を、市民の手にしたロープで運んでいる。

聖ペトロ聖座の献金

（6月29日）

大名町	99,086	伊万里	5,000	人本	14,000
浄水	14,010	鳥栖	6,800	吉渡	13,000
光ケ丘	34,158	武雄	3,500	本健軍	12,000
箱崎	7,000	多久	4,000	帯山	25,000
東田	22,000	門司港	25,000	水俣	8,800
西新	22,868	門司	14,445	大江	18,998
大牟田	9,140	小倉	52,420	崎津	10,000
茶屋	13,365	湯川	25,909	島崎	33,500
吉塚	23,600	戸畑	45,487	玉名	9,000
今宮	25,118	若松	11,300	菊池	41,410
本町	37,000	天神	10,000	八代	21,000
小倉	5,319	黒崎	20,000	志免	5,600
日田	10,800	八王寺	6,600	礼拝	5,000
久留米	8,875	直方	18,000	高宮	69,700
郷	26,000	水巻	5,000		
郡	5,319	飯塚	17,000		
小倉	10,800	田川	4,585		
馬場	8,000	新田原	50,445		
渡辺	15,000	行橋	16,471		
呼子	11,500	手取	13,015		
佐賀		荒尾	8,000		
唐津				合計	1,177,116

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。"

自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々

福岡市博多区中洲5―4―12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所 大石 真澄
〒810 TEL 272―0671

祭壇・洗礼盤他

石石他
理影の
大御そ
素材

石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

姪への手紙—21世紀のキリスト者の肖像画（4）

ジュリアン・ガイヤール

〝カテケージ・トラデンデ〟を読んで

〝対話するキリスト者〟について述べた前の手紙で、続きを約束していました。その約束を果たします。あの中に、カトリック以外の信徒と共に生活し得る子供、若者の育成を説いた〝カテケージ・トラデンデ〟の一節を引用していました。その手紙を読みながら、見方を広げる必要性をますます感じています。たぶんあなたも同じことを考えたのではないかな。一九八〇年代に子供を育てる親達は、教会よりずっと前にその問題で悩んだのだ、と……。

二〇〇〇年代の社会は一体どんなふうになるでしょう？占いは当たるも八卦当たらぬも八卦と言いますが、現在地理上の国境をはさんで隣りあう文化と宗教の国境が、これからはだんだん無意味になって行くだろう、と言うことなら、何も専門家や予言者でなくとも予想できます。少し説明しましょう。すでに今日でも、思想は世界を駆け、映像は世界を駆け、人間は世界を駆けています。去年の夏、一緒に旅行したヴェニスを思い出してください。サン・マルコ広場を濡歩していた、大陸・国籍を問わない若者達がいい例です。アジア・アメリカ・ヨーロッパ、各大陸の人々が接触する機会はますます頻繁に、そしてますます大規模になっていきます。これと同じリズムで、世界中の様々な文化もまた、その宗教的要素を含めて、触れあうようになるでしょう。

それではどのようなふれあいになるのか…？いろいろなシナリオが考えられます。殺戮的な衝突から、人々が互いに高めあい、一致へと前進するための源となる友情に満ちた出会いまで、対応の仕方は多様多彩で、過去においてもまたごく最近でも、その例にはことかきません。丁重な無視、故意によそおったあるいは本当の無関心、むっつりとした軽蔑、盲目的な熱狂、口には出さないけれど根強い人種的偏見、……等々。人間って利口だから、自分のエゴイズムを発揮するにもいろんな姿態を考えだすんですね。

ドイツ人キリスト教徒と出会った時のパキスタンの回教徒、日本人仏教徒に出会った時のコートディヴォワールのアニミスト、アウレス山脈から降りてきたアルジェリア娘とパリっ子の出会い…等。ひとつコントロールを失えば恐ろしい闘争へとつっ走るこれらの情況を思うと、前に引用した教皇の言葉をここにもう一度書きたくなります。即ち、我々はカトリック以外の信徒だけでなく、特に、我々とは異なった文化・宗教に属する人達と交わりながら生活し得る子供達を育てなければならない。これをしなければ、二〇〇〇年代の空気は息苦しいものになるおそれがある。

では具体的にはどんな教育をしたらよいのでしょうか？勧告書には、そのままでこの答えになるような箇所は見つかりませんが、その精神は示されています。まずこの精神を自分のものにし、そこから子供の教育のためのヒントを得るようにするのが望ましいと思われます。

一番大切なのは、ひとつの人間社会の文化遺産、及び宗教的なものを含めたその基本的要素の存在を認め、それぞれの文化固有の価値や富を尊敬できる人間を養成することだと私は思います。（これはヨハネ・パウロ二世のカテケージ・トラデンデ53節にもとづく言葉です。）〝その態度なら常識だ。キリスト者や仏教徒でなくとも、一つの人間社会固有の文化や宗教と共に、その社会が存在する権利を認めることはできる！〟とあなたは言うにちがいありません。私の心配を許してください。たとえば現在、イスラム社会との関係において人間が直面しているような危機の時代にあっては、単なる常識だけでは、今お話ししている尊敬のかけらさえ保証しきれないのではないか、私はそれを心配しているのです。キリスト者は他の文化、他の宗教の価値を知り、尊敬する特殊な理由がある、と私は思っています。その理由を二つあげましょう。

まず最初の理由。教会に関する第二バチカンの有名な言葉を思い出してください。〝教会はキリストにおけるいわば秘跡。即ち全人類の一致のしるしであり道具である。〟（教会憲章一—一）たとえば一人のキリスト者がキリスト教以外の文化・宗教の価値・富を尊敬し、推進するために闘ったとします。そうした闘いのひとつひとつが、全人類一致のために働きながら、キリスト者と教会の使命を一本の線でつなぐのです。一言で言えば、世界におけるキリスト者の使命がこうして果たされます。

次の理由はとても伝統的なある教えに基づいています。その方面の研究家なら、教会の宣教活動にはこれがしばしば忘れられていたと言うはずです。その通り！いずれにせよ、この教えは二・三世紀のキリスト教作家にまで遡ることができ、第二バチカンによってその価値が再確認されました。私がお話ししたいのは、〝御言葉の種子〟の理論です。この理論はカテケージスについてのシノドスの期間中度々討議され、提言の16節にも姿を見せます。〝カテケージス及び文化への浸透〟。勧告書の53節はこの理論を扱っているものの、残念ながら今のテーマに直に触れてはいません。しかし、回勅〝人類の救い主〟にはちゃんとこれが記されています。読んでみましょう。〝教父達は様々な宗教の中に、唯一の真理の多様な反映のようなもの、御言葉の種子のようなものを読みとっている。〟（人類の救い主11節）続けます。〝偉大な霊的真理……霊の優越性、これは宗教の中に、そして文化の反映としての道徳の中に表現されている〟のですから、これらすべてを〝御言葉の種子〟とみなさなければなりません。公会議が一神教であるユダヤ教とイスラム教を説明した文章は明らかに短かすぎましたが、実に積極的なものでもありました。これはあなたも知っている通りです。しかし重要なのは、一神教についてだけでなく、ヒンズー教や仏教についても語られたことです。これらの中にも全く同じことです。これらの中にも全く同じ思想を見出せます。即ち、神の御言葉は、目に見える教会の外の世界にも働いており、その光線は諸文化・諸宗教を照らしているのです。

キリスト者が払うべき尊敬の起源はここにあります。他の文化の価値や豊かさを尊敬することが、それを撤いた御言葉そのものを尊敬することになります。この基盤にたってこそ、〝キリスト教以外の諸宗教の代表者達との接近を目指す運動が、対話・接触・共同の祈り・人間精神の財産の探求という形をとりながら〟（人類の救い主6節）広がっていくのです。ヨハネ・パウロ二世は、この運動の方法は勿論それぞれ違ったものになるにしても、エキュメニカル運動における対話と同じ開放された精神のもとで進められるよう望んでおられます。

そういう運動は専門家にまかせるべきだ、なんて反論のしかたはしないでください。そうでないと、前回と同じことを繰返すことになります。専門家は〝一節一節〟を書くだけです。この一節一節がいつの日か織り込まれることになる〝一章〟を綴るのは私達の仕事なのです。

納得してもらえましたか？他の文化に対する時のキリスト者の態度はたしかに人道的なものだけではありません。むしろ、地球上のすべての民族をひとつの民にするという神の計画を実現することです。更に、子供達の世代の戦争か平和かが、ここにかかっていると私は確信しています。

この手紙を読むと、きっとあなたは疲れるでしょう。私が書くことに疲れたように！肖像画を完成するために、もう一度お会いしましょう。

（福岡司教館）

「わたしの家庭」応募作文三三八通

かねてから、教区は〝広報の日の関連行事として、小学生対象の「わたしの家庭」の作文を募集していたが、七月十三日締切った。

その結果、二十三の小教区から三三八通が寄せられ、事務局はうれしい悲鳴をあげている。これらの応募作文は、平田司教から委嘱された選考委員会で厳選し、司教賞一、佳作二を推せんすることになっている。また、その表彰式は、十月十二日（日）の「家庭の日」教区大会で行う。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1—22—28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) 医師・看護人の愛の使徒職
(布教) 全信徒の布教意識

神聖な家庭像は汚されている

原点に帰れ—キリストに従え

第6回シノドスに寄せておくられた教皇の書簡（要旨）

「現代世界におけるキリスト者家庭の役割」をテーマに、今秋九月二十六日からローマで開催される世界代表司教会議（シノドス）を間近に控えて、教皇は全世界の司教・司祭・信徒にシノドスのための特別の祈りと犠牲を呼びかけている。

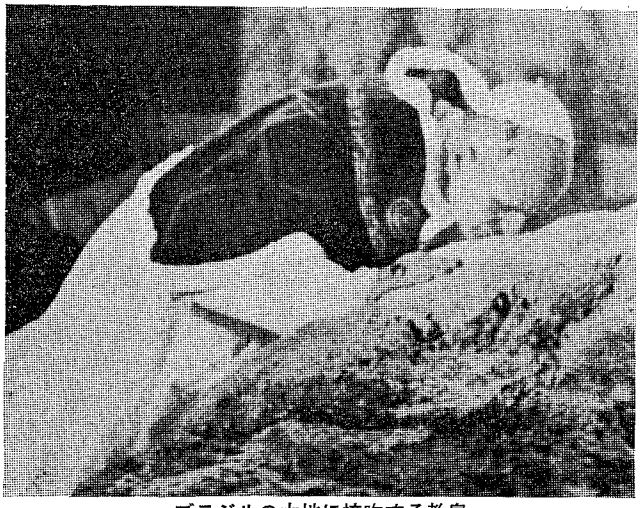
この呼びかけをするに当たって、教皇は家庭の意義をあらためて強調している。家庭は人類社会の新しい市民が生まれる「社会の基盤」である。また、水と霊によって神の民となった神の子等の発育の場（聖所）でもある。家庭はまた、神の民への奉仕に生涯を献げ尽す聖なる召命がはぐくまれる苗床でもある。

ところが今日、この神聖な家庭像は往々にして空洞化され、あいまいになり、汚されてさえいる。このような傾向に対処するため、私たちは「始めはそうではなかった」と仰せられたキリストの言葉に照らして、今日の家庭問題を取り上げる必要があると痛感する。結婚生活と家庭生活を通してキリストに従うとは何か。この問題を明確にするのが今回のシノドスの課題である。要は、今日の家庭がその原点に帰ることである。家庭の原点とは、キリストに従うことである。

教会の使命と家庭の使命はその根底において一致する。教会は御独子によって啓示された神の愛を宣教する。この神の愛は、家庭の中で、また家庭を通して代々生きつがれてゆく。

このようなわけで、今回のシノドスは教会にとって、また人類社会にとっても、極めて重要な会議である。従って、教会のすべての子等は、祈りと犠牲をもって、このシノドスを心から支援し、会議に集まった教父たちのために、神の照らしと力を乞い求めなければならない。

この祈りと犠牲の呼びかけを教皇は特に、病者と観想修道会に対しておこなっている。病者は、み摂理によって、キリストの受難により緊密に参加するよう召され、観想修道会はキリストの教会の諸問題について熱心に配慮すべく特に召されているからである。



ブラジルの大地に接吻する教皇

また、教皇は全キリスト者家庭が今回のシノドスを己の「家庭問題」として最大の関心を示すよう呼びかけている。

最後に教皇は、全世界のキリスト者家庭が心を一つにして祈ることができるよう、十月十二日、日曜日を特別祈祷デーに当てることを決定した。この日には、全世界のすべての教区、小教区、教会で牧者の指示に従って、シノドスのための共同の祈りが献げられるよう促している。

また、当日、即ち十月十二日には、出来れば、世界各地から家庭の代表者がローマに集合して、教皇及びシノドス教父と対面するよう呼びかけている。

すべての人の父である神よ、天にあっても、地にあっても、すべての家族はあなたを父と仰いでいます。あなたはまことに愛といのちの源。一人の女性、マリアからお生まれになった御子イエス・キリストによって、また、愛の泉である聖霊によってお願いいたします。全世界の家庭が、代々にわたってまことの愛といのちの神殿となりますように。あなたの恵みのうちに夫婦の思い、行いを導きすべての家庭のしあわせの礎としてください。また、若い世代が家族の絆に支えられて、人間の品位を高め、真理と愛のうちに生長することができますように。結婚の秘跡の恵みに強められる愛が、人生の旅路で直面する困難や試練よりも、力強いものであることを示してください。ナザレの聖家族の取り次ぎによって、教会が家庭の中で、また家庭を通して、社会における使命を果たし、豊かな実りを結ぶことができますように。聖なる父よ、御子と聖霊とともに、真理であり、愛であるあなたにこの祈りをささげます。アーメン。

(人事異動) 8月31日

▽西新教会主任 牧山藤房師（田川教会主任）▽田川教会主任 グロジャン師（門司港教会主任）▽福岡司教館 川口康頼師（西新教会主任）▽小倉教会助任 深堀勝人師（福岡司教館）

ステファノ三村昇一氏

（久留米教会主任 三村邦明師実父）

七月二十五日、心不全のため死去した。八十四歳。

葬儀ミサ告別式は、二十六日広島市幟町カトリック教会でしめやかに行われ、長東の教会墓地に埋葬された。三村昇一氏は一男一女の中から、長男を司祭として捧げた。

八月年忌の司祭

▼ピエル・コトレル神父（パリ外国宣教会）一九二八年九月三日熊本地区で宣教活動

▼アナトル・ヒュゼ神父（パリ外国宣教会）一九四四年九月十五日福岡司教館

▼ユスチン・ヴィオン神父（パリ外国宣教会）一九六九年九月二十九日福岡司教館

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092 (521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

姪への手紙—21世紀のキリスト者の肖像画（5）

ジュリアン・ガイヤール

〝カテケージ・トラデンデ〟を読んで

私の手紙もこれが最後です。でも、だからと言って内容的に貧弱だということではありません。この点の判断はおまかせします。

まず勧告書の一節を引用します。〝世界では多くが神について無知であり、……あるいは、〝疑い〟とまでいかなくても、我々のすべてによい刺戟を与えてくれる辛辣だが友愛に満ちた対話とはかけはなれて、十把一からげ的な無関心へと埋没しがちである。今日のキリスト者はこのような社会の中で生活するための教育を受けなければならない。（CT57節）

分かれた兄弟達や熱心な回教徒仏教徒と対話することは、〝たしかに〝我々すべてによい刺戟を与え〟生きがいを与えてくれます。しかし現在私達の前に生まれようとしている多様で放逸な社会の中には、対話そのものが無関心にしか出会わないような空間がますます広がりつつあります。この情況を前にして、教皇の勧告書には何が語られているのでしょう？教皇のお考えはとてもはっきりしています。今日の、あるいは明日のキリスト者は口をつぐんではならない。〝左右されては〟ならない、つまり、自分自身まで周囲の無関心や唯物主義に呑みこまれてはならない。それのみならず、すべての人に〝救いの対話〟を提供しなければならない。〝キリスト者としての自己を心静かに表明する〟だけでなく、〝神を否定する唯物的文明の中で、神の絶対性を証す〟べきである…と。CT57節

信仰教育者にとって本当に大変な仕事です。勧告書の一箇所がヒントとなった点にます注目してみましょう。私達の現代社会にあっては、信じるということがだんだん〝あたりまえ〟ではなくなっていくようです。宗教生活こそ普通だった時代もたぶんあったでしょうが、将来においては、信仰生活は個人の選択による結果になってしまっているのではないか。少なくともだんだんそうなっていくのではないか、例外とまではいかないにしても……という疑問が湧いてきます。青年のためのカテケージスをとりあげる時、〝最初の重大な決定をする時が来た……青年は自分の運命に責任を持つべきである〟と教皇はおっしゃっています。ここに〝根本的な選択、自分自身の責任を自覚し、英知をもって受け止めるべき、あるいは放棄すべき選択がある〟。信仰は明らかにこのような根本的選択のひとつです。決定に際し、最終的な裁決は若者青年が一人でくだすにしても、〝家族や友人の支え〟は期待してよいはずです。この時にこそ、〝カテケージスはその重要性を増してくる。若者の人生にひとつの意味を与える可能性として、福音が示され、受け入れられ得る瞬間だからである……〟。（CT39節）実際に、家庭や小教区でなされた信仰教育が、〝自覚し、英知をもって〟決定できる若者を育てているかどうかは反省してみなくてはなりません。〝信仰を成熟させるために〟、信仰生活は個人による選択の道をとるべきだということを、教育は忘れているのではないでしょうか？

ここで、この手紙の冒頭に引用した文にもどろうと思います。ヨハネ・パウロ二世が〝疑い〟について語っておられるところです。あの文が、マルクス、ニーチェ、フロイトそしてこの三人程お年を召してはいらっしゃらない数人の哲学者をほのめかしていることにおそらくあなたも気付いたことでしょう。大雑把に言って、彼らの哲学はもう古くなりました。が、現代の文化の中に、宗教生活に対する〝疑い〟を残していきました。論点を要約してみましょう。信者はある迷いの犠牲である、という嫌疑をかけられています。そして、この迷いの起源は、信者生活の場である社会的・経済的・政治的情況の中に求めるべきだ、と言うわけです。教皇のおっしゃる通り、この疑いの態度は宗教に対する侮辱です。でも宗教はこの疑いを侮辱してはなりません。まじめに受けられることを望むなら、宗教自体、同時代人の感性を尊重し、理解することから始めなくてはならないのではないでしょうか？自分が生活している文化的環境について何も知らない状態で、どうして現代人との対話などできましょう。信仰は今知性の危機の時代に晒されている、と言ったのは誰だったか思い出せませんが、おそらく、終わりを告げようとしているこの二十世紀は新しいトマス・アクイナスを待ち続けている、と言いたいのではないでしょうか？

哲学や社会学の授業にカテケージスを切り替えよ、などと言ってるのではありません。子供達を最新の神学論や聖書学説にくわしい専門家にしよう、というのでもありません。教皇もこうした誤解の両方に警告を発しておられます。（CT47、52、61節等）私達はただ、子供達が大人になった時、私達のカテケージスや教育によって、子供達が現代人との対話に心、精神を開くようになるかどうかを考えていましょう。

〝シノドスはカテケージスを司牧的観点のもとで〟とらえようとしましたが、これについて教皇は、カテケージスが〝信仰を表現した文句を単に教え込むだけの教育〟にとどまってはならない、とおっしゃっています。この何年かあまりにないがしろにされすぎてきた暗誦というわずらわしい問題に触れ、〝消化は不完全、時にはほとんど皆無、どんな知識も深く掘りさげることなく繰返すだけのきまり文句にとどまっている〟（CT55節）として、古い方法の不都合さを告発なさいました。このような時代錯誤のカテケージス、つまり、若者達がそれぞれの社会、それぞれの時代において提出する疑問に全く答えないカテケージスは、若者を対話へもキリスト教の証しへも導き得ません。これでは容易に理解されます。これでは信仰が、いわば、全くプライベートなものになってしまいます。このようなカテケージスでは〝キリスト者がその喜びのために、また、すべての人に尽くすために「世の光」「地の塩」となろうとするのを助けることはできません〟。

暗誦に関して教皇は続けられます。〝大切なのは、暗誦した文句（聖書の文句、典礼書、教義をまとめた文句）が、暗誦されると共に内面化され、その深奥の意味が少しづつ理解されて人生の源泉となることである〟。もうおわかりですね。教えの消化、深耕、理解探求、これが現代のカテケージスの中で大切な意味をもつ言葉です。もうひとつ〝理性〟という言葉を加えましょう。これも言い落としたり、過少評価してはならないと思います。引用します。〝カテケージスのおかげで、福音の最初の宣言は少しづつ深められ、……理性にも基づく話によって説明されるようになる〟。（CT25節）現代の思想と対話すべきキリスト者を育てるには、この〝理性に基づく話〟が不可欠です。この話しを通してこそ、不安や疑問や現代人に住みついた疑いにまで福音をとどけることができるのです。また、信者でない人々との出会いの舞台を提供することにもなります。聖書の句であろうと典礼書であろうと教義書であろうと、またその理解がいかに正確であろうと、きまり文句を繰返して満足するだけの教育を受けたキリスト者が、現代の無信仰者に出会うことは決してないでしょう。このキリスト者はまず、現代の思想が次々と問いかけてくる疑問を受け止めなければなりません。のちのち、世俗の文化の限界を批評できる人間になりたいと望むなら、自分の信仰が今、世俗の文化によって疑問視されるということも、必要な試練でしょう。何度も耳にした神の御言葉と根っからの質問者である現代文化の対決は、キリスト者にとって、信仰を深めると同時に、教皇が望んでおられる対話を開くチャンスです。この対決を避けて通ったのでは、誰の興味もひかない、そして何も生みださない不毛の独自の中に自分を押し込めてしまうことになります。

最初の手紙の〝二十一世紀のキリスト者、神の探求者〟というテーマが、ここでもう一度現れてきます。よく考えてほしいことがひとつあります。教皇が私達を励まし、要点をしっかり把握した、信仰によって謙虚な幸福を得るキリスト者を育てるようにとおっしゃるのは、方向を見失い、不安に満

（第三面につづく）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役　社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 531—1231

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

(第二面から)

ちたこの時代に教会からの最も貴重な賜物として彼らを贈るためなのです。(CT61節) 〝明快でしかも堅固な確信〟を与えることがカテケージスに要求されるのは、〝主をさがし求めより親しく主を知る〟ための手助けがカテケージスの役目だからです。また、〝キリスト者としての自己を心静かに表明しながら、彼らがすべての人に救いの対話を向ける〟ための手助けという意味もあります。(これはCT57節に基づく言葉です)キリスト者即ち、教会の心から世界に贈られる者……。充分考えるべき問題だと思いませんか?

現在のところ、宗教的な話と世俗的な話が、まるで、つながりのない二つの器のようになっています。熱心な信者も含めて、あまりに多くの信者の場合がそうです。これは単なる怠惰によるものでしょうか?それとも、背がたたなくなるのを恐れるあまりでしょうか?裁くつもりはありませんが、やはり事実は事実です。つまり、彼らの信仰はこれまで一度も〝批評されたことがなく、同様に、彼らの世俗的知識も福音によって照らされることはなかったのです。従って〝彼らの抱いている希望について、説明を要求する人々にたいして弁明〟するだけの用意がまだ整っていないのです。(CT25節)

私が期待しているのは、こういうタイプのキリスト者が早くいなくなり、現代的ヒューマニズムとキリスト教の信仰をまず自分の中で和解させ、次に行動の中で和解させることのできる新しいタイプの人間、キリスト者にその席を譲ることです。これが、ヨハネ・パウロ二世のおっしゃる〝信仰によって謙虚な幸福を得るキリスト者〟ではないでしょうか?

約束していた二十一世紀のキリスト者の肖像画も結局完成には到りませんでしたが、一応、この手紙と他の四通全部をしめくくる意味で、勧誘書のとても美しい部分を読んでもらおうと思います。〝カテケージスは、旧約聖書と福音書の言葉そのものとの触れあいにより、その思想、精神、姿勢を浸透させ、吸収すべきである……教会の知恵と心をもって文書を読めば読む程、二〇〇〇年にわたる教会の瞑想と生活からインスピレーションを受ければ受ける程、カテケージスは豊かに、効果的になるだろう〟。(CT27節)ですから、この言葉をもう二度読み返すよう提案します。そして、読み返す時は、一回目は〝カテケージス〟という言葉を〝教育者〟、二回目は〝キリスト者〟という言葉に置きかえてみてください。あなたの目の前に、私達の母なる教会が二十一世紀の人々にさし出そうとしているキリスト者の肖像画が、少しづつ見えてくるのではないでしょうか?

(おわり)

会合と催し

☆平田 司教
9月2日 司祭月例集会および司祭評議会
7日 箱崎教会堅信式
15日~21日 ファチマ聖母大会参加のため不在。

☆福岡黙想の家
9月1日~5日 ミラノ宣教会司祭の黙想会
13日~15日 聖書による黙想会
16日~18日 研修会
20日~21日 雙葉学園高校生の黙想会
22日~23日 聖母カテキスタの黙想会

パチフィコ師両脚切断で逝く
静脈血栓炎で肺炎と心不全

パチフィコ・マルケシーニ神父(フランシスコ修道会、熊本・待労病院付)は八月八日午後五時三十分、熊本市島崎の聖母慈恵病院で静脈血栓炎による両脚切断の再度の手術も空しく、併発した肺炎と心不全のため永眠した。八十一歳であった。

葬儀・告別式は八月十日午後一時から、熊本市島崎カトリック教会でしめやかに行われ、平田司教やフランシスコ修道会代表、熊本地区内外の司祭二十五人による共同司式ミサで故人の永遠の安息を祈った。

遺体は故人の遺言によって、十五年間霊的師父として過ごした待労病院の患者墓地に埋葬された。

パチフィコ・マルケシーニ神父は一八九八年十二月十三日イタリアのヴェロナに生まれ、一九二二年九月二十四日、フランシスコ修道会司祭に叙階。一九二四年二月十四日、中国に渡り、濠口各地で宣教に従事したが、共産政権によって国外追放にあった。一九五三年七月二十五日来日、中標津教会をはじめ月形町新田、八王寺教会の宣教司牧。一九六五年三月十二日、熊本市琵琶崎の待労病院付司祭として赴任、現在に及んでいた。波乱に富んだ生涯であったが、五十八年間の司祭としての十字架の道を、単純さと従順をもって黙々と歩き通した清貧の使徒、聖書のような一生であった。

〝家庭の日〟教区大会

共同ミサ
入賞作文表彰式
講演会

(〝キリスト教家庭と教育〟
栄光学園前校長
グスタフ・フオス神父)

日時:10月12日(日)11:00
場所:福岡市中央区輝国1―10―10
泰星学園高校体育館
主催:宗教法人
カトリック福岡司教区

十月完成をめざす増築工事
内装に入った福岡小神学校

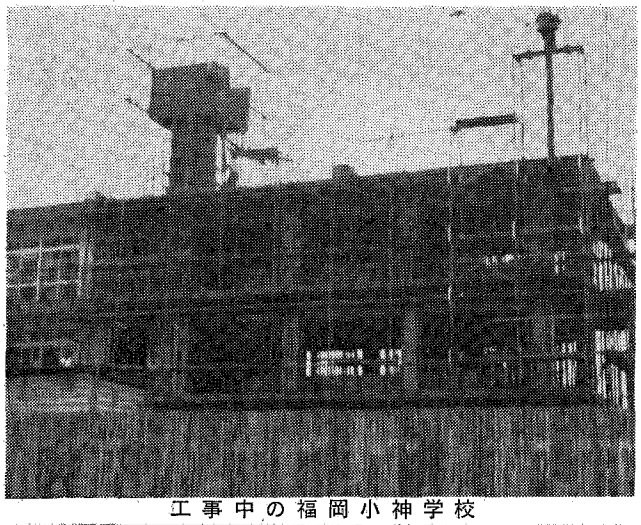
六月中旬から増築工事(二三坪)にかかった福岡小神学校が、かなり形を整えてきた。

雨また雨の異常気象の中、太陽を見失なった今夏の工事進捗が心配されたが、予定どおり運んでいるようである。目下、サッシ窓枠の取付工事中で、連日電動機具などのうなる音が響いている。日一日と姿容していく建物の有様は、学業を終えて、社会人に巣立つ乙女の姿にも似て美しく、希望にみちたものである。

既存の建物は昭和四十二年十一月三日、当時の駐日バチカン大使ウルステンベルグ大司教を迎えて落成したもので、一階五四坪、二階四八坪、三階四三坪四階四三坪計一八八坪となっている。増築工事が完成すると、三〇一坪のすばらしい小神学校の誕生となる。

計画では、事情が許すならば、十一月十三日、駐日バチカン大使ガスパリ大司教に教区公式訪問をお願いして、落成式を行うようである。

現在、二十人収容の小神学校は拡充された院には生徒倍増をめざして努力する、と張り切っている。清新の気に燃ゆる二人の神学校担当者に、一層の熱意と知性と霊性の発展を祈るものである。



工事中の福岡小神学校

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5―4―12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所 大石真澄
〒810 TEL 272―0671

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

各地のサマーキャンプだより
心身ともにたくましく

福岡地区

去る七月二十四日から二十六日まで、小倉の聖パウロ小神学校でサマーキャンプが行われた。対象は、福岡市内の小四から小六までの少年少女である。三回目を迎えたこの練成会、今年は連絡が遅れたこともあって、参加者は市内六教会から四十名であったが、少ないなりに内容の濃いキャンプが出来たのではないかと思う。スタッフは一名の神父と三名の神学生、二名の教会学校教師と六名のシスターで、例年になく充実していた。

テーマは「私たちは光の子」である。男女各三班ずつに分かれて、神父の話や映画を基に「光」についていろいろと考え、それを絵にまとめる作業をした。キャンプには、「キャンドルのつどい」や「キャンプファイヤー」がつきものだが、今回は特にこの二つのプログラムを中心に練成会がなされた。また、「あなたたちはこの世の光である」（マタイ5・14）、「あなたたちは光の中にある者として生活しなさい」（エフェソ5・8）という聖書の言葉から、子どもなりに日々の生活の中でどのように「光の子」となれるかを共に考えていった。

数々のプログラムの中で、とりわけ「キャンドルのつどい」と「キャンプファイヤー」は、子供たちだけではなく、スタッフにとっても印象的なものであった。自分を溶かしながらまわりを照らしていくローソクの生き方、がっちりとスクラムを組んだ薪が、点火された小さな火を次第に大きくしていく様子は、子供たちに光の意味と自分たちの生き方を具体的に、かつ、体験として教えたことと思う。一本一本のローソクが集められたキャンドルスタンドは、み言葉と共に、子供たちに協力の大切さを静かに語りかけた。二日目の晩のキャンプファイヤーでは、子供たちはその教えを見事に実行に移した。グループのメンバーが自分たちで協力して作り上げた小劇（出しもの）は、どれも甲乙つけがたいほど素晴らしいものだった。

練成会のおわりに、子供たちは様々な印象を抱いて小教区に散っていったことと思う。「ローソクがたくさん集まるとすごい熱になるんですね。近くにいたら汗が出て来て暑くてたまらなかった」とか、「まだ火のついてないローソク（キリストを知らない人）にも私たちが火をつけてやらなくっちゃね」といった感想を述べてくれた子供もいた。雷を伴った雨も、私たちに光と暗について、そのコントラストを体験させてくれた。

夏休みが終わりに近づいた今、あの子供たちはきっとまた何本かのローソクに火をつけてきたことと思う。大人や小教区共同体は、ただ子供の小さな光を消さないようにするだけではなく、その火をもっと大きく燃やすように手伝わなければならないと思った。

最後に、この練成会のために協力を惜しまれなかった方々に心からお礼申し上げます。司教様はじめ、場所を提供して下さったパウロ小神学校の神父様とブラザー、食事のお世話をして下さった方々、経済的に援助して下さった方々、ありがとうございました。また、スタッフの皆さん御苦労様でした。

（山元）

福岡地区の少年少女練成会

佐賀地区

今年も例年の通り七月二十八日から三日間、佐賀地区の中学生のキャンプが行われた。昨年は山であったので、今年は是非海で、という強い要望があったので呼子教会で催された。婦人会二人の協力を得、三十八人の中学生達は掃除、食事の仕度などを、四グループ交替で行った。

今年のテーマは「受けるよりも与える方が幸いである」ということをあげ、第一日目の夜は「赦しの典礼」。二日目は「飢餓」というスライドを見、グループ毎に討論会を催し、まとめた意見を互いに交換し合った。

このキャンプを終えての中学生の感想として、「集団生活の中で自分に課せられた責任の重さを感じた」、「他の教会の人と親しくなれてよかった」などの意見が出、また、初めは動こうとしなかった人たちも、キャンプ生活に慣れてくるにつれ積極性がでてきたりして、中学生のキャンプは成功したと言える。

中学生のキャンプが始まってまだ三年目であるが、各教会からの参加者が増え、佐賀地区の年間行事の一つとして次第に定着してきたと思われる。

この若い時代の子供達に共同生活の大切さ、むずかしさを理解させるのは仲々うまくいかないが、一つの出会いの場としてのキャンプを通して、楽しさの中で、このような事を理解してゆくのは、非常に有意義であると思う。

（ピアッツィーニ）

飛脚

☆九月七日（日）午後一時から、小郡市小郡若山のカトリック教会で、典礼聖歌研究会の例会が開かれる。

☆九月七日～十月二十六日まで、毎日曜日の午後三時から、福岡市博多区光ケ丘のカトリック教会で七週間にわたる聖霊セミナーが催される。参加希望者は会費一、〇〇〇円を添えて申し込むこと。

☆七月六日午後六時から、泰星学園で五十五年度同窓会総会が行われたが、一二〇人の参加者があった。席上、アメリカ国ボーグワーナ株式会社（代表橋本勲氏四回高卒）から一〇〇万円の奨学金が寄付された。泰星学園奨学金制度は、昭和四十九年度同窓会総会で設立されたが、以後、奨学金は毎年三人に支給している。

☆ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世は十一月十五日から十九日までの五日間、聖大アルベルト憲天七〇〇年祭に当たって西ドイツを訪問する、と発表された。因みに、精力的に親善訪問を続けているローマ教皇は、街のうわさでは、来年秋の訪日問題を真剣に考えている、ということである。

練成会で楽しかったこと

老司教会　六年許斐香代

私はこの練成会に来て本当によかったと思います。たくさんの歌もおぼえられたし、神学生やシスター、神父さま、友達と仲よくなれて、また、キャンプファイヤーの時は聖火係としての役目も果たせたし、だしものではシンデレラをして最優秀賞をいただいて、いつもおいしい食事を作っていただき本当にありがとうございました本当にうれしかった。

らい年はもうこの楽しい練成会に参加できないことが、とてもざんねんだと思います。

でも今年の練成会でおぼえたことを、今から先もいかして、しっかりがんばろうと思います。

お詫びと訂正

八月号に記載した聖ペトロ献金の中で水巻教会と直方教会の献金が入れ違いになっていましたので、お詫びして訂正いたします。

追伸!!

七月十四日、心臓病のため福岡大学付属病院に入院していたガイヤール師は一時退院していたが、八月二十九日頃再入院し、九月五日手術をうける予定になっているので、祈りをお願いする。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1—22—28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) 科学研究と道徳
(布教) 全信徒の布教意識

全国カトリック青年長崎大会

殉教(あかし)に生きる青年の未来像

全国青年・教区の連帯の強化
全国青少年担当司祭会議

去る八月二十三日より二十五日まで長崎において、80年全国カトリック青年大会が開催された。

「殉教」(あかし)をテーマに、全国から一、三〇〇人の青年が集まった。この二泊三日の大会では、出会いのミサから二日目の分科会、そして最終日の旅立ちのミサに至るプログラムの中で、それぞれ、殉教の地で様々の信仰の体験をしながら、二十一世紀の教会の核となるべく、カトリック青年としての自覚と意識を新たにしながら再び全国へと散って行った。

福岡教区からは一〇〇人余の青年が参加したが、やはり全員、それぞれに得るところが多かったようである。

青年たちは、今後とも教区の担当司祭とのつながりを基に、80年大会で得た体験を実生活の中に具体化しながら、教区の発展のために大いに若い力を発揮しようと燃え立っている。

ところで、80年大会が終わった現在、80年大会の反省会も含めて、80年大会後の青年のあり方—〝ポスト80・日本カトリック青年〟—ということについて討議するため九月十六日から十七日まで、福岡黙想の家で全国青少年担当司祭会議が開かれた。青少年司牧委員会委員長の浜尾司教を中心に全国から担当者が集まり、80年大会の意義づけと、今後の青年たちのあり方、生き方、大会の主旨の生かし方などについて、司祭の側からの意見が交わされた。青年たちが大会のテーマ〝殉教(あかし)〟に燃え立ち、各々が得た長崎での体験を今後の生活の中に生かしてゆくために、高々とうたい上げた『大会宣言文』を、これからの社会に、職場に、教会に具体化してゆくために、教会と司祭側はどのようにしたらよいのか…など、様々の点からの見解が出された。その中で特に、青少年司牧委員会を中心として、全国レベルでの青年同士・教区間の連絡を密にして行くことが重要視され、そのために、青年担当司祭はもとより、全司祭の役割と位置づけということが大きな焦点となった。80年大会の実りを今後、各教区・各教会で生かすためには、まず司祭が証しの精神に生き、青年たちの意気込みと前向きの姿勢を全面的にバックアップしながら、青年たちに積極的に関わって行くことの重要性が確認された。

問題は、ポスト80—むしろ青年たちの今後のあり方が大切であって、80年大会でカトリック青年として一堂に集い、ともに信仰の喜びと使命を確認し合い、『大会宣言文』によって二十一世紀の教会へ大きく羽ばたこうと決意し合った彼らの実生活での〝キリストの証し〟が、今後の大きな課題となろう。

なお、今後とも、80年大会に引き続いて、九州青年連絡会を存続させることになっており、この連絡会によって、九州各ブロックの青年と司祭のつながりを大切にしながら、全国の各教区とも、その連絡を密にして行くよう、そのために、特に司祭同士と、司祭と青年との一致と協力が必要、また、大切であることが確認された。

(竹森)

ヨハネ・パウロ2世教皇と青年たち

家庭の日教区大会や司祭大会などのスケジュール具体化す

第十四回司祭評議会

平田司教は、九月二日開かれた第十四回司祭評議会の審議の結果を踏まえて、つぎの通り決定した。

一、家庭の日教区大会(十月十二日)の具体化について

A、実行委員会を設置する——
実行委員長—伊東師。
設備・進行・案内委員—青木師、山田師、堤(宏)師。
典礼委員—ラブラント師、ベルトラン師、山元師。

B、大会のスケジュールについて——講演会(所要時間一時間)—中食(四十五分)—表彰式(三十分)—共同ミサ(一時間三十分)の順序で開催する。大会は午前十一時開始、泰星学園高校体育館で行う。

イ、入賞作文表彰式について
入賞作文は特選二人、入選二人、佳作六人と決定したが、特選・入選計四人を入選者とする。表彰式の順序は、聖歌—入選者による作文発表—表彰(入賞者十人に対し賞状ならびに副賞)とする。進行係は適当な信者に依頼する。入賞作文は教区報に掲載する。

ロ、講演会について
演題は〝キリスト教家庭と教育〟。講師は鎌倉市の栄光学園前校長グスタフ・フォス神父(イエズス会・ドイツ人)。〝日本の父へ〟の著者で、三十年間前記学園の校長を務めた。

ニ、司祭大会(十一月十七日〜

(第二面につづく)

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)
TEL 代表 092(521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

（第一面から）

十九日）のスケジュールについて

A、期日の変更について――予告していた大会の期日（十一月二十五日～二十七日）は十一月十七日～十九日に変更する。

B、大会のスケジュールについて――皆川氏の基調講演と司祭の司会による各種分科会が計画されているが、具体的スケジュールについては準備委員会に一任する。

C、要望意見――司祭大会の目的は司教と司祭の一致の強化にあるが、あくまでハードスケジュールを避けること。司祭たちの交わり、親睦の増進、特に邦人・外人・修道司祭の垣根を越えてフリーな又積極的な交わりを期待する。

三、駐日バチカン大使の公式招待について

福岡小神学校の増築落成式を機会にバチカン大使を公式に招待し、司祭との交わりを通して、召命の促進と教区の現状を視察していただく。

八月二十六日～二十八日の二泊三日、カトリック福岡司教区幼児教育連盟主催の第十二回教師研修会が、関係者三五一人を集めて、熊本県阿蘇郡小国町のホテルひぜん屋で行われた。

第12回教師研修会
キリストのように愛そう

第一日目は、平田司教の「キリストのように愛そう」とサン・スルピス大神学院教授イエル師による「主イエスの示された真の成長」の二つの講話があった。とくに、多数参加している非信者の幼児教育者を前にして、豊富な聖書の素材をわかり易く、面白く説明したイエル師の成長論は、興味と深い印象を与えた。

第二日目は、午前中久留米聖母幼稚園の三村師の「子供の一人立ちを見る」講話があり、午後から各分科会に入った。子供とともに喜び、子供とともに成長し、子供とともに生きるよき教師になるために、二十一のグループに分かれて研修・ディスカッションに過ごした。

第三日目は、全体会を開いて各グループの意見集約と発表があって後、ミサをもって研修会を閉じた。今回は、幼児教育の源泉にキリストの愛を置いて見直した。

特選二・入選二・佳作六
入賞作文選考委員会決定

十月十二日開く「家庭の日」教区大会を盛り上げるために企画した〝私の家庭〟懸賞作文には、教区内の信者小学生の協力を得て、予想外の三三八人の応募者があって、事務局を喜ばせた。

早速、平田司教は、山内清海師（福岡サン・スルピス大神学院院長）、山田成章師（教区広報担当者）、今村茂氏（福岡大学哲学教授）、土田トミ子氏（福岡雙葉小学校教諭）の諸氏に選考委員を委嘱し、入賞作文選考委員会を発足させた。

選考委員会は公正を期して、各自採点した入賞候補作を持ち寄り協議した。そして厳選の結果、先ず十人の入賞者を推せんし、更にその中から特選二人・入選二人・佳作六人を決定した。

委員会では、優秀作文が多くて優劣つけがたく苦慮したが、つぎのように落ち着いた。

特選（二人）
小学四年　谷口　智（田川）
小学四年　牧山　美好（小郡）

入選（二人）
小学四年　中本　恭子（小倉）
小学一年　おのゆうき（行橋）

佳作（六人）
小学五年　小正路眞由美（行橋）
小学六年　中本　保子（小倉）
小学六年　平田こずえ（小郡）
小学二年　たけいようこ（八代）
小学五年　村松　泰隆（戸畑）
小学三年　草刈　美保（行橋）

「私の家庭」入賞作文（一）

四年　谷口　智（田川）

ぼくは、お母さんと二人でくらしています。お父さんは、去年の十二月になくなりました。お父さんは、長い間入院していましたが教会のミサには、ほとんどあずかり、人の悪口など言わない、ぼくにやさしい、いいお父さんでした。

そんなお父さんをなくして本当にくやしいです。今だにそのことを思うと、ぼくもお母さんも悲しくなります。お父さんは、長崎の田平出身です。いつも魚つりに連れて行ってくれました。そこで弁当を食べたりしました。平戸大橋にも連れて行ってくれました。

長崎のおばあちゃんは、みかんを作っています。いつも、みかんが実ると送ってくれます。おばあちゃんは、ぼくやお母さんのことを心配してくれる気持ちのやさしいおばあちゃんです。おばあちゃんは、目の回るほど毎日毎日、朝・晩熱心にお祈りをしています。

ぼくも二三歳のころ、おばあちゃんにロザリオの祈りを何回も何回も教えてもらいました。それで、今は、おばあちゃんのおかげで、いろいろな祈りをすらすら言えるようになりました。ぼくは毎週土曜日、公教要理を神父様に教えていただいています。ぼくは、ミサごたえも手伝っています。ぼくは、大きくなったらなべく罪をおかさないようにしたいと思います。

ぼくのお母さんは、結婚するとき洗礼を受けました。最初のころ教会へ自分から進んで行こうとしなかったそうです。でも、今では早くから教会へ行くようになり、家でも毎日ぼくとお祈りをしています。

お母さんがいつも言うことですが、結婚して十年のうち半分は、お父さんが入院していたので、お父さんがなくなったとき、お金とかざい産だとか何もないけれど一つだけすばらしい心のざい産を残してくれた、それは、信仰だと言っています。言葉として残したのではなく日常生活の中に神様の教えを自分が身をもって、お母さんに教えてくれたと言っています。

四年　中本　恭子（小倉）

私の家庭というと私にとっては、お父さんがすべてです。

お父さんは、私達と朝のいのりをしません。そのわけは、お父さんはとても早く起きてお仕事をしなければならないからです。

聖歌を歌いながらうどん作りをしています。大きな声でいっしょうけん命歌います。これではきっと神様にきこえると思います。これは、私の生まれる前からずっとつづいているそうです。私の知らない聖歌もたくさんあります。

土曜日にお父さん一人で教会に行きます。日曜日もお仕事があるからです。教会のご用事があるときは、ものすごく早く起きてお仕事をして、のこりをお母さん一人にまかせて教会に出かけます。

私が一番楽しみにしていることは、大祝日です。この日は、夜一家そろって教会に行けるからです。そろって本の学校に行っている三人のお兄ちゃん達も帰って来ます。

それからクリスマスの時は、プレゼントがほとんどありません。お母さんがもっとまずしい人達のためと思うからです。でも不まんに思ったことはあまりありません。それは、私には、両親も兄弟もあるからです。なかでも、お兄ちゃんがとてもかわいがってくれるからです。

お兄ちゃん達はかえってくると全員お父さんを助けてお仕事をします。そしてまじめに信こうのことを話し合います。このときは、私はお話に入れません。

私は、私のお友だちのお家とは、すこしちがうと思います。

みんなのお家のように一家そろって遊びに行くこともほとんどありません。

お父さんがお酒をのんで遊ぶこともありません。お父さんやお母さんがいつもお仕事や、お兄ちゃんの学校の事でいそがしくて、私達と遊んでくれることがありません。でもお母さんは、「お父さんは、つかれていらっしゃるから思いやってさし上げなさい」、といいます。わたしは、おふろのしたくをして上げます。

わたし達がお父さんと遊べる日はほとんどありませんが、お父さんは、やっぱり一家の大こく柱だと思います。

そう式の時、神父様がお父さんの話をしてくれました。ある人が、神父様にお父さんのことを「この人は、死をおそれなかった」、と言ったそうです。だから、神父様が、お父さんは神様を信じていたから、と話してくれました。だから、ぼくもお父さんのように神様の教えを信じて人のために役立つ人間になりたいと思います。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役　社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3－2－9　TEL 531－1231

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL 771－3657

各地のサマーキャンプだより
心身ともにたくましく

熊本地区

熊本地区では、十数年来小中学生を対象とした練成会が行われている。男女合同のかたちになったのは、五年前からである。

今年は八月二十二日から二十四日に熊本市立少年自然の家（金峰山）で行われ、九十八人の小中学生が、遠く天草や人吉など十三小教区から集まってきた。主催は熊本地区信徒使徒職協議会で、この練成会も熊本地区の年中行事のひとつとしてすっかり定着した感がある。指導は、一名の神父と熊本県内の三つの女子修道会がもちまわりで担当し、アシストとして大神学生が手伝うかたちをとっている。今年はフランシスケンが担当した。

冷夏と呼ばれ、全く夏らしくない夏であったが、神さまは子供好きなのか、二日目、三日目は入道雲がみられるほどのよい天気であった。何よりもこの目にみえる体験を通して、子どもたちは、神さまの恵み、愛を感じたことと思う。テーマは「私たちは光の子」で、内容としては、福岡でのキャンプとあまりかわらない。プログラムについてはあまり触れないことにし、指導を担当した一人として、ひとつの感想をのべてみたい。それはスタッフの問題である。

今までは、シスターと大神学生が担当していたのであるが、今年は人員不足もあって、四名の高校生に手伝ってもらうことにした。この苦肉の策が予想以上の効果をもたらしたと思う。今までは神父・シスター・神学生だけが担当し、それはそれで好結果を生んでいたわけだが、さらにスタッフの門戸を広げることによって、その輪は大きく広がったと思われる。なぜなら、参加した子どもたちはもとより、担当したスタッフのメンバー自体が、たくさんのことを教えられるからです。

高校生たちは、信者であることの喜びを共に感じ、神父・シスター・神学生と触れることによって召命について、人の生き方について考え、なによりも「私たちの中に神がおられる」という体験が出来た、という。四人の高校生に手伝ってもらって考えたことは、今後のスタッフの養成、子どもの宗教教育に携わる人々の養成をもっと積極的にやらなければならないということである。高校生たちに小中学生の指導をまかせることは確かに無理のように思える。しかし、それは困難のようにみえるということであって、出来ないということではないと思う。彼らは彼らなりによいものをもっており、私たち大人にはない鋭い感受性をもっている。「私たちは神の民」であり、すべての人が民の中の一員としてそれぞれつながりを持って生きている。しかし、子どもから大人へのつながりの中で、高校生の時期がどうも完全につながってない気がする。これは、彼らに責任があるわけではなく、むしろ教会（小教区）の側に責任があるように思える。彼らに自分たちの教会、神の民の中での役割を意識させ、実際に動く場を提供することが必要ではないだろうか。高校生スタッフのひたむきな協力の姿勢をみて以上のようなことを感じた次第です。皆様の御協力を感謝します。（山元）

北九州地区キャンプ

北九州地区

北九州CYG（女子小学生会）恒例の夏のキャンプが七月二十八日～三十一日の三泊四日、福岡県古賀町の暁の星幼稚園であった。

〝家から離れ、自然の中で新しい世界を発見される喜びにあふれる場として〟という案内に対し、北九州の各教会から九十四人が参加し、リーダー十八人のもとで楽しいキャンプを行った。

キャンプを行う以前からキャンプは始まっていたと言われるように、子どものリーダーは数回集まり、どのようなキャンプにしたいのか、と話し合いを深め、プログラム作りや準備に大童だった。

例年晴天に恵れていたキャンプも、今年は連日の雨で関係者をヒヤヒヤさせたが、その思いとは反対に、子どもたちは生々した表情で帰途についた。

自分たちの考えで進行したプログラムは、異常天候も関係なく有意義なものであったようである。〝同じ屋根の下の、同じ心を〟のスローガンを深く味わいながら、日々を過ごしていると思う。

六年　吉田章子（八王寺）

私は去年の十月頃CYGに入ってきたので、キャンプは今年初めてです。でも六年生なので、今年で終わりです。私はこのキャンプに来て本当によかったと思います。先生方が教会ごとには分けませんと言ったので、（お友達ができるかなあ）と、とても心配になりました。キャンプに来ると、沢山の人たちとお友達になりました。自分の班どころか、他の班の人たちまでお友達になりました。全部合わせて二十人です。こんなに友達が出きるなんてゆめにも思っていませんでした。キャンプファイヤの点火の時、私と三人の人がつけることになりました。私は本番の時どきどきしました。でも思いきって「これは家族の火」と言ってろうそくを上にあげました。

〔会合と催し〕

☆平田　司教
10月10日　熊本市健軍教会司祭館の祝別十一時
12日　家庭の日教区大会十一時開始
13日～18日　教区司祭黙想会
19日　光ケ丘教会堅信
26日　信徒使徒職九州大会
　　地区青年会対抗ソフトボール大会

☆福岡黙想の家
10月4日～5日　久留米青年会
9日～10日　大名町青年会
11日～12日　レジオ・マリエ
13日～18日　教区司祭黙想会
19日　平和の出会い
19日～25日　シスター黙想会
26日　湯川教会黙想会、大神学院静修
27日～30日　国内移住信徒委員会

十月年忌の司祭

▼エミール・ラゲ神父（パリ外国宣教会）一九二九年十月三日福岡司教館。
▼ジャン・バプチスト・ドラビ神父（パリ外国宣教会）一九六七年十月二十三日北九州市黒崎教会の元主任司祭。

第19回結婚講座

昭和四十六年五月に第一回結婚講座がはじまって、早や十年になる。ライル神父が蒔いた種子は確実に根を張っている。

さて、今回は八月二十八日から九月六日までの期間中、六回にわたって講座が開かれた。中でも、〝結婚における女性の立場〟を新しいスタッフが、主婦の立場から嫁として、母として、妻として話した。受講者へのアンケートにもこの生の体験談が最も印象に残っているようである。参加人数は、六組と単独十人の二十二人であった。最終日には、竹森神父の〝人生の岐路に立つ時必らず、誰かを何かを意識する〟という講話があった。

尚、第二十回結婚講座は来年一月二十九日から二月七日までの期間に開催する。（角田）

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5―4―12
ＡＩＵ福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　ＴＥＬ 272―0671

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

全国カトリック青年長崎大会に参加して

佐賀教会　山浦　圭

9月23日、全国各地より約千三百人のカトリック青年がキリストの名の許に集い、「80年全国カトリック青年大会」が開催されました。

長崎殉教の地「西坂」に立った時、四百年前この丘の上で、ただ神のみを信じ、祈り、希望を懸けた二十六人が、殉教という型で帰天したことを、大会のテーマ「殉教（あかし）」と共に考えてみたいと思いました。

私は「殉教は人間からの力に依るものではなく、神からの賜物である。」と教えられました。「神の恵みが、弱い人間の中で輝かしい勝利を収め、神の御手に支えられて弱い人間もすばらしい愛の証しを建てるのである。」という。それらの言葉を思い出す時、神の教え、福音は社会の力にも、況して死に対しても屈しなかった信仰の証しであり、現代に送られる神の特別の恵みのような気がします。

「隣人を愛せよ」キリストは常にこう言われました。

二十六聖人も、神の愛と偉大さを伝え、キリストのみが救い主であること、キリストに依ってのみ「神の国」が実現することを私たちに教える為に、神の道具として選ばれ、また御心に適うように生き働いたのではないかと感じます。

大会中、浜尾司教様が講演をされましたが、その時、私は二年前に開かれた九州大会の時のことを思い出していました。九州大会でも浜尾司教様が話しをされ、「21世紀の教会を担う青年は、隣人のことを考えなければならない。キリストと一致して、キリストの後を歩む者にならなくてはならない。自分たちのことよりも、他人のことを考えよう。私たちも困ってはいるが、他にもっと困っている処があれば、私たちのことは後回しにしても、その人たちを助けよう。もっと貧しい人たちの為に働こうと考えてほしい。自分自身は棄てて、周りの人に目を向け、自分の出来る限りの助力をしてほしい。そして、皆と共に向上していこう」と、言われました。

今大会で話された内容も、これに似たものだと感じました。「自分を棄てて、隣人の為に」この言葉は今でも忘れることはありません。私は大会中、いろいろなことを見、聞き話しましたが、一番心に残るのは「自分を棄てて隣人の為に」というこの言葉と、十字架上で亡くなったキリストの、私たちに注がれ続ける愛とその実践でした。

十人十色、ひとりひとりが違うように、神が私たち青年に与えられた使命も、それぞれに違うでしょう。それが何であるか、私たち青年は考え、実行していかなければならないと思います。キリストと共に、キリストの道を歩み、多くの喜びを多くの人々に伝えるために。それは取りも直さず「神の国」実現の為の第一歩ではないでしょうか。

新田原教会　大水真由美

全国カトリック青年大会が去る八月二十三日～二十五日の二泊三日、〝あかし〟「彼等にできた事がなぜ私達にできないのでしょうか。」のテーマのもとに殉教地長崎で開催されました。今まで降り続いていた雨もこの大会を祝福するかのように止み、三日間夏らしく暑いくらいの天気でした。

最初に、西坂二十六聖人殉教地で多くの青年達と出会い、多くの司教・司祭によって野外ミサが行われました。その後主会場である南山高校へと移動し、開会式が行われ、各分科会ごとに分かれ、これから三日間共に行動する兄弟姉妹と出会い、自己紹介などを行いました。私の参加した分科会は、平和学習で、国際文化会館の原爆資料や被爆体験者である築城先生の講演の中から事実を知り、分ち合いにはいりました。（スライドが見られなかったのがチョッピリ残念でした。）

悲惨な戦争体験を見聞することで、改めて平和と言う事を考えさせられました。原爆が落ちたのは「神の摂理である」と言う。カトリック信徒は原爆を「洗礼」と言い、神が与えられた試練「又は「受難」と言って宗教的に受けとめていますが、これは神の私達への警告ではないでしょうか。その為にも、もっともっと社会の平和・人間の平和・神との平和を考えなおす必要があるのではないでしょうか。

大会宣言にもあったように、私達カトリック青年は一人一人が殉教者の精神にならい、これからの教会と社会における使命をあらためて自覚し、世界におけるキリストの平和の実現に貢献しなければいけないと感じました。

二泊三日の大会もアッと言う間に過ぎてしまい、「旅立ちのミサ」でしめくくりとなりました。「旅立ちのミサ」では、司教、多くの司祭又青年達の演奏で進められ、いかにも青年大会らしく若者らしい雰囲気のミサでした。

最後に、この「殉教」と言うテーマのもとに集まった全国の青年達がこの感動をなくさないようにそしてこの大会の感動を通してカトリック青年としてふさわしい行動がとれるようになりたいものです。

最後の最後になりましたが、80年大会を準備して下さった諸々の人に感謝したいと思います。

大名町教会　深堀　智生

八十年青年大会に参加出来て、まず嬉しく思ったことは、青年大会のTシャツを着ていると、見ず知らずの青年たちから「こんにちわ、青年大会に行かれるんですか？」と声をかけられたことです。ただカトリックの青年であるというだけで会ってすぐに打ちとけることが出来るなんて、すばらしい事だと思います。

大会では、分科会に分かれて行動しました。私が参加した「巡礼、十字架山」の講演で、あるすばらしい精神に出会いました。それは「浦上四番崩れ」についての講演の中の、十五歳の少年の言った言葉なのです。その少年は、長崎の浦上で捕えられ、津和野に流されてきびしい拷問の末に息をひきとろうとしていました。その床の中で少年はこう言ったのです。

「私は天国に召されます。が、天国に行ったら、あなた方のために一生懸命にお祈りしますから、信仰をしっかり持ってがんばって下さい」と…。死に際してここまで他人の事を思いやることができるでしょうか。私はあ然としました。

最終日、浜尾司教様のお話しがありました。その中で司教様は「余っているものを隣人に与えてもそれは隣人を愛したことにはならない。自分も欲しい、惜しいけれどもあえてそれを他に譲る。自分も忙しくて時間がないけれども隣人のために時間をさく。これこそ愛なのです」とおっしゃったのです。私は目を開かれる思いがしました。先の浦上の少年が言った言葉の裏にもこの精神が息づいていることに気付いたからです。死という大きな障壁（殉教者たちはそうでもなかったのかも知れませんが）を目の前にして、肉体は拷問によってズタズタのはずなのに、あのような言葉が出るなんて、真の愛、そう仲間をほんとうに愛していなければ、言うことができなかっただろう、ということがわかったのです。

私のように弱い人間は、なかなかこのような事は出来ないかも知れません。努力することすら、困難であるかも…。しかし、大会のサブタイトルにも唱ってあるように「彼らに出来た事が何で我々に出来ないのでしょうか」なのです。彼らの域に達することができないまでも、一歩でも、半歩でもいいから彼らに近づきたい。そして、あの少年のように、死に際しても他人を思いやれるような心を持ちたいと思います。

最後に、大変有意義な大会を催すに当たって準備の仕事をなさった皆さん、特に長崎の青年及び信者の皆さん、どうもありがとうございました。

〝家庭の日〟教区大会

共同ミサ
入賞作文表彰式
講演会

（〝キリスト教家庭と教育〟
栄光学園前校長
グスタフ・フォス神父）

日時：10月12日（日）11：00
場所：福岡市中央区輝国1―10―10
泰星学園高校体育館
主催：宗教法人
カトリック福岡司教区

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1―22―28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) 報道関係者の真理と愛の証し
(布教) 修道者による清貧の証し

祈り合う「家庭の日」教区大会

ゆがんだ家庭革命を是正しよう

見よこの親にしてこの子あり 家庭の危機はそこまで近づく

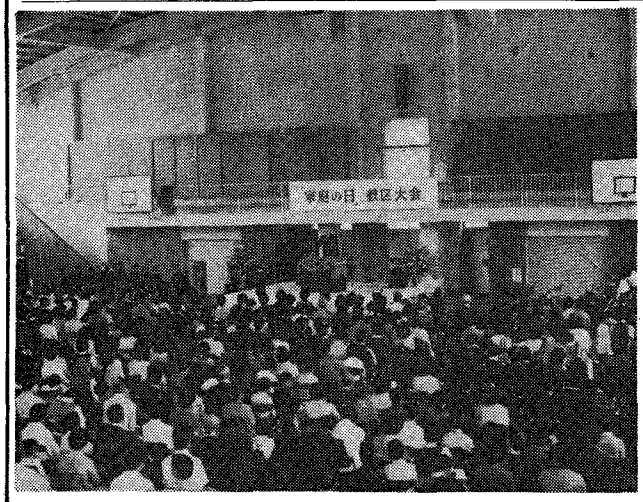
雨もよいの十月十二日(日)午前十一時から、教区主催の「家庭の日」大会が福岡市中央区輝国一丁目の泰星学園高校の体育館で開かれた。丁度、ローマのシノドスが「キリスト教的家庭」について討議を続けている時期に、行った大会の意義は決して小さくないであろう。市内の信徒はもとより、遠来の貸切バスによる参加者を含めて、六百人が家庭のために祈り、考えた。

先ず、栄光学園前校長グスタフ・フォス神父の講演からはじまった。——私は昨年、二週間に及ぶアメリカのユネスコ会議に参加したが、「国際人の教育・養成」がテーマであった。しかし、二日目の晩多くの参加者は世界各地で問題になっている「家庭の再建」に強い関心を示し、それについて十日間位討議した。その時、私が感じたことは、危機にある日本の家庭、他国に比して固い壁につき当たっている日本の家庭のことであった。日本の家庭は、戦後の日本の出発に際して、今まで経験しなかった革命を味わった。敗戦と同時に、家庭として棄てるべきものが沢山あった反面、棄ててはならない部分、大事に守るべきことやよい古い伝統をも棄ててしまった。ゆがんだ家庭革命によって、今の世代、若者に与えるべきものさへ棄ててしまったのである。

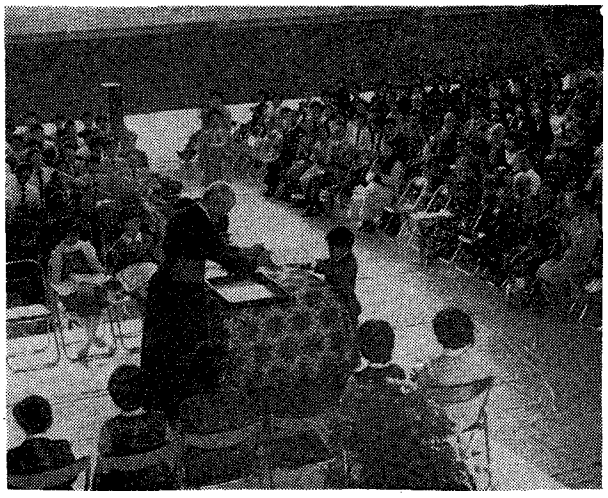
私は昨夜、テレビで学校や家庭内の暴力問題を見たが、(事実関東方面のこれに関する資料を多く持っているが)新聞テレビの報道するものの十倍以上の事件が起きている。今の若者はどうして、昔の人に較べて邪道に走ったか?私は、その責任は何はさておき家庭にあると思う。又、学校も人間教育をしていない。

先日、広島県の中学・高校のPTA会長の集会に招かれたとき、その討議や質疑応答を通して、私なりに家庭教育の七つの不思議を感じた。❶学校まかせの風潮。❷知育偏重、知識販売、学習中心であること—勿論、多様な社会であるために知育は必要であるが、それだけでは問題である。❸しつけ教育の軽視—人間教育、人格教育道徳教育が大切にされていない。文部省が提唱している体力作りや根性作りは、心を強くする一助にはなるが十分ではない。学校教育において、高校の倫理社会の科目があっても、精神教育はない。しかし、学校だけの責任ではないことは明白である。❹教育ママの出現—近年、ますます強くなっている。これも知育偏重と関連している。勉強さへすれば、家の仕事もわがままもつまらないことも見逃してやる。子どもを甘く見ている傾向がある。❺おやじ不在の教育—おやじが種々の理由から多忙であることは、教育ママの出現に影響している。仕事することだけをおやじの公職と考えている。教育的に理解されていない。❻教育に関する親子の立場が逆転している—親と子は横の関係ではなく上下の関係である。教える親と教えていただく子の関係は有史以来変わりはない。それなのに、子どもにも権利、自由、人権があるから望まない限り介入できない、という愚かな親たちが存在する。❼神なき子育て—完全に神を無視する。テレビ・ラジオの影響で同じ考えを持っている福岡の人も多いと思う。ある町の電車の中の出来事である。高2の女学生たちが電車の中でおしゃべりしていたが、その中の一人が「お父さんは非常識だ」と批難していた。その話しの続きでは「門限を午後十時と決めているから」という。たしかに娘の門限を十時までする親は非常識に違いない。賢明な父親ならば七時頃までにするはずである。し

(第二面につづく)



講演会


入賞作文表彰式

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)
TEL 代表 092(521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

（第一面から）

かし、それ以上に非常識なのは娘の方である。

今の若者は、昔の人よりも口がうまい。親もそれにつられて譲歩するし、先生も進歩的でないと云われると妥協する。これは極端な自由主義の影響である。戦後来日したアメリカ教育視察団の報告の中に「教師の最善の能力は自由の空気の中で発揮される。子どもの持つはかりしれない能力は、自由という大陽の下で成長してゆく。この光を注ぐことが教師の最大の仕事である」と、述べている。戦後の日本は自由というご馳走をいただいたがよく消化することができなかった。いうまでもなく、自由はすばらしいものである。そのために、人間は万物の霊長と呼ばれているが、理性を正しく育てなければ不幸である。自由についても同じである。人間は自由であっても悪いことをする自由はない。正しい行いをする義務がある。いわゆる選択の自由をよく理解する必要があるのではなかろうか。

社会的に成功した教え子について、学校の先生が賞讃されることがあるが、それは何よりもその子の親が立派な人であったからであると思う。購入した書物の裏表紙に「この本を私の青少年時代に私の糧になってくれた親に捧げます」という著者の献辞を見て、大変感動したことがある。

先生！これはすばらしい言葉である。肉体的生命だけでなく精神的生命をうけた先輩である。先きに生命をうけた親は正しく先生である。子どもにその生命を与えるのが使命、仕事である。傍にいて子どもを助け、叱ることも親の仕事である。……――一時間二十五分の講演は共感と感動のうちに終わった。

午後の部は、一時十五分からの入賞作文の表彰式で開幕した。教区内の小学生を対象に、「私の家庭」の課題に応募した三三八編の中から入賞した十編を表彰したが、特に、上位四人の入選者は、表彰の前に自分の作文を発表して感動の拍手をうけていた。

表彰式後、平田司教と二十人位の司祭の共同ミサがこの大会をしめくくった。

平田司教はミサの説教で「シノドスのさ中に開かれたこの大会の意義を強調したあと、日本中の家庭が今日の思想の波に洗われて危機に頻している。社会の小さな核である家庭、神に召された小さな教会である家庭の危機は、人類社会の危機でもある。全世界の教会は、キリスト教的家庭の再建、あるべき家庭の姿を取り戻すべく真剣に祈り、討議している。消費社会に毒された考えにおちいらないように気を付けねばならない」と信者同親に対する温かい励ましと警告を与えた。

三時十五分、大会は全プログラムを消化して無事終了した。参加者は大きな恵みを感謝しつつ、しのつく小雨の中を家路についた。

共同ミサ

移住の日献金（9月14日）

大名町	82,140	馬渡島	12,000	八王寺	6,500
浄水通	52,300	呼子	8,000	水巻	20,000
光ケ丘	37,325	佐賀	15,000	飯塚	9,500
東田島	27,000	唐津	9,100	田川	5,000
西新	14,400	伊万里	5,000	新田原	48,935
大楠	9,021	鳥栖	6,010	行橋	13,375
老司	10,000	鹿島	2,500	荒尾	10,000
吉塚	21,609	多久	3,000	人吉	8,450
古賀	26,600	門司	24,973	本渡	9,800
二日市	15,000	門司港	9,962	帯山	11,000
久留米	49,793	小倉	72,414	大江	14,996
大牟田	6,500	湯川	27,888	崎津	10,000
吉野	1,840	戸畑	45,536	島崎	35,100
今村	84,815	若松	6,330	玉名	9,500
本郷	23,000	天神町	30,000	菊池	56,612
小郡	3,797	黒崎	15,000	合計	1,026,081

司祭異動

▽佐賀県鹿島教会助任チェレスチノ・カウァニヤ師（東京・日本語学校）▽福岡市美野島教会主任テハン・トーマス師（神奈川・藤沢教会助任）

全国カトリック青年長崎大会に参加して

大名町教会　本地純子

ほとんど毎日降り続いた雨も上がり、すっきりとした気持ちで小教区に集まり出発しました。残念ながら、大名町教会からは四名の参加でしたので、この分では五百名も参加していないと予想しておりましたが、北は北海道から南は鹿児島まで、それに外国からも、千二百余人の青年達が集まっていたので驚きました。里脇大司教様、浜尾司教様をはじめ、たくさんの神父様が出席され、まず夕暮れ迫る二十六聖人の西坂で、約二時間の出会いのミサがあり、これからやるぞという心構えと、この大会を通して、多くの人と語り合い友となり、何かを吸収して帰りたいものだと思いました。

私の分科会は、長崎キリシタン史で、本原教会センターで行われそこの教会の方々が冷たいお茶までも用意して下さり、あたたかくお迎え下さいました。初めに溝部神父様より、キリシタン史の説明を聞き、遠藤周作の沈黙の映画を見ましたがとても悲惨過ぎ、それでいて、隠れキリシタンの信仰の深さ、力強さを痛感させられ、胸のつまる思いでした。分科会の後みんなで輪を作り目を閉じ手を取り合い、共同祈願をその場で作り、二十人ぐらいの方が唱えました。祈りが心に泌み渡るほど素晴しいもので、映画よりも感激し、心がとても落着き、心の泉が湧いて来そうな気持ちでした。共同祈願をしたことは本当に良かったと思います。

三日目は、浜尾司教様の講演が一時間ほどあり、これからの青年はどうあるべきかを考えさせられ、良きアドバインをいただきました。その後、出発のミサがあり大会の歌〝貴方へのメッセージ〟やアーメンハレルヤを合唱し最高に盛り上がり、帰る前、お互いが握手をしあい頑張りましょうと誓い合いました。

私たちは、お互いどんなに遠く離れていても、カトリックの信仰で常に一つに結ばれているのだということを忘れず、皆と力を合わせ、利益のためにするのではなく奉仕の精神で良き信仰のパイプ役になることができるように努力しなければならないと思います。

分科会でいっしょだった方々から三通の手紙をいただき、以前の自分より明るくなり生きいきとしてきたような気がします。これから何か新しいことを、みんなで力を合わせてやって行けそうとのこと、本当にうれしくなりました。この大会を二年がかりで準備してくださった皆様方に心より感謝致しますとともに、全国大会でたくさんの人々と出会え、心のふれ合いが出来たことを感謝致します。最後に、どうもありがとうございました。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役　社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810　福岡市中央区薬院3－2－9　TEL 531－1231

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL 771－3657

宣教者は外面的成功よりも心
教区邦人司祭の黙想会

福岡教区は、十月十三日から十八日まで、邦人司祭の黙想会を福岡黙想の家で行った。

説教者林省吾師（長崎黙想の家・イエズス会）は、豊富な体験と強い信念をもって、宣教・司牧に生きる司祭の心を、あらゆる観点から語りかけた。――

宣教者司祭に大切なものは、外面的成功ではない、心である。キリストを知らせる、キリストに生きる心である。一般的に、宣教は絶えざる失敗のくりかえしであるといわれる。かりに、宣教が外面的に失敗であったとしても無駄ではない。実りを与えるのは、神ごとを銘記すべきである。

一人である。

善き牧者である司祭は、祈りによって体験した聖書のキリストを確信をもって証す。信徒の一人ひとりを大切にし、もっと自由を与えて協力させる。司祭はまた、神を恋し、人を恋する者である。恋が温かい知性であるとすれば、神と人との長所を常に探し、うけ入れる心を持つ。司祭が孤独の人であることは真実である。人間の限界への挑戦者でもある。カトリックの宗教のすばらしさを証明するのは、キリストの復活の光に照らされ、感謝に生きる司祭の姿であること

邦人教区司祭の黙想会

会合と催し

☆平田司教

11月1日 聖星学園ミサ
2日 福岡納骨堂ミサ
9日 行橋教会創設25周年祭
13日 福岡小神増築落成式
16日 湯川教会堅信
17～18日 教区司祭大会
19日 スルピス大神学院祭共同訳実行委員会
24日 新田原教会創設50周年
25～27日 全国司教会議
30日 吉塚教会堅信

☆福岡黙想の家

11月2～3日 北九州レジオ
6日 東田島教会婦人会
8～9日 クルシリスタ黙想
9日 湯川教会黙想
16日 周船寺プロテスタント
22～24日 聖書による祈りの体験
29～30日 修道女連盟

飛脚

☆心臓疾患のため福大付属病院に入院中であったガイヤール師は、手術の経過も良好で、十月二十一日無事退院、司教館で静養している。

☆十四年八カ月の長期間、福岡市光ケ丘教会の司牧をしていたハー師は、大阪・伊丹教会へ転任のため十月三十日福岡を離れた。

☆十月一日熊本県宇土市宇土市民会館ホールで、福岡教区主催による小西行長公三八〇年追悼ミサがあった。平田司教をはじめ司祭信徒約八十人が参加した。

☆司祭館落成二件

十月十日午前十一時から、熊本市健軍教会（主任・ノーリス師）の司祭館の落成祝別式が行われた。鉄筋二階建五四・九坪、一階三三・九坪、二階二十一坪である。又、十月二十一日午後四時三十分から福岡市茶山教会（主任・伊東師）の司祭館の落成祝別式があった。木造二階建四四坪、一階四十坪、二階四坪となっている。

☆典礼聖歌の例会が、十一月九日（日）午後一時から、聖母訪問会大濠修道院で開かれる。

☆ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世の訪日問題は、正式に発表されていないが、水面下のざわめきは高まるばかりである。諸般の情報から来年二月初旬の線が濃厚とささやかれているが、キリストの教会の最高牧者をいつでもお迎えできる心の準備をしておきたいものである。

☆去る九月二十六日から、世界代表司教会議（シノドス）が「キリスト教的家庭」をテーマにローマで開かれている。キリスト教的家庭の建設・刷新・前進のために、シノドスの教父たちと心を一つにして聖霊のお恵みを祈ろう。

十一月年忌の司祭

▼フレデリック・ボア神父（パリ外国宣教会）一九七七年十一月三日援助修道会黒崎修道院付司祭

▼スパノーニ・セヴェリーノ神父（ミラノ外国宣教会）一九六二年十一月二十七日元唐津教会主任

北九州信徒協代表者会議

十月五日（日）北九州地区信徒使徒職協議会は、十四の小教区代表を天神町教会に集めて協議したが、その報告の中からいくつかのものを紹介してみる。

一、「家庭の年」に関する各小教区の動き

(1)教区大会への参加
集団参加する小教区…新田原・行橋・湯川・田川（その他の小教区は個人参加）

(2)各小教区独自の催し
戸畑…講演会〝21世紀を背負う子供達〟と分かち合い。若松…難民の実態報告会と救援金の送付。門司…黙想会。黒崎…中学生父兄の集い。門司港…父親学級発足。水巻…父母の集い。飯塚…ベトナム難民の慰問と交流。

二、「日本二十六聖人殉教者」映写会の件

(1)日時―十一月九日（日）午後一時開演（開場は正午）

(2)場所―明治学園講堂

(3)プログラム―横垣内氏の話。〝日本二十六聖人〟同時上映〝小さき花の園〟

(4)整理券販売について―一枚二〇〇円で各小教区へ販売を依頼した。券の裏面に各教会名のゴム印を捺して販売すること。

(5)対象者は中学生以上とする。

三、街頭募金に関する件
協力者に配付する「チラシ」の文案、紙質、大きさを検討し、二万枚印刷することに決定。費用三万円は信徒協会計から支出することを了承した。「チラシ」の各小教区への配分は、次回代表者会議（十一月二十三日）にて行う。

四、アクショングループの現況報告について
(1)正義と平和協議会の現況…徳山師と深堀氏の報告。
(2)カトリック社会問題研究会の現況…北九州社研について深堀氏から、小倉社研について長谷川氏から報告された。

なお、十月十三日（日）森田宗一氏が、正義と平和協議会の件で天神町教会において、信徒協有志と懇談した。また、八王寺教会で次回の北九州地区信徒協代表者会議を十一月二十三日に行う。

聖書を知ることはキリストを知ることである。
聖書に祈り、生きつづけて家庭に福音を準備しよう。
聖書週間（11月16日～23日）

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5－4－12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所 大石真澄
〒810 TEL 272－0671

祭壇・洗礼盤他
石材素材
石の理想
石の他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

「私の家庭」入賞作文(2)

四年　牧山　美好（小郡）

「こら、起きんか、学校におくれるぞ」。父の声がひびく。ぼくたちはいっせいにとびおきる。「さあ、今日も一日がんばるぞ」。大きく背のびをして父がマラソンに出かけて行く。父は養護しせつに働いているので、朝が早い。ぼくはそんな父を見て、（お父さんは早起きだなあ）と思う。

二人の姉も学校が遠いので、ぼくより早く出かける。こうしていそがしい一日が始まるのだ。それにもかかわらず、祖母はロザリオを手に朝のいのりをとなえている。そんな姿を見ながらぼくは学校へ、と家を出る。

母は、ぼくたちが学校に行っている間、家の仕事をしているので毎日たいへんだろうなあと思う。それは、ぼくが学校から帰ってきてみると、せんたくものがきちんとたたんであるし、庭のていれがしてある。母は花がすきで、庭にはいつもきせつの花がさいている。

祖母はひまをみては、こう台の前にすわって何やらいっしょうけんめいいのっている。ぼくはいつも思う、（いったい何をいのっているのだろうか）。祖母にきくと「たくさんの人のため、それから美好のためにもいのりよるとよ」と答える。ぼくも祖母に言われて横でいのりをする時がある。でもすぐ足がいたくなってやめてしまう。姉たちも、「今日はしゅくだいがあるけんまたね」、と言ってにげてしまう。祖母だけは、いつも変わらない姿でいのっている。

夜は、しゅくだいがすんだ後、学校であったことや、テレビの話をする。姉たちも負けずに先をあらそうようにして話す。

父はぼくたちが良い事をした時は、ほめてくれるが、ちょっとでも悪いことをした時は、大声でおこる。その時の父が、いちばんぼくはこわい。でも父がいない夜きんの日は、とてもさびしい。そんな日はしかられる時とちがって、（お父さんがいたらなあ）と思う。また仕事で夜おそく帰ってきた時などは、大変だろうなあと思う。そんな父を見、家の仕事をいそがしそうにしている母を見て、いつまでも元気でいてほしいと思う。

夕のいのりの時、ぼくは家そく全員のおめぐみを、神さまにかんしゃしてから休むことにしている。

一ねん　おの　ゆうき（行橋）

ぼくはひとりっこです。ぼくのおとうさんとおかあさんは、こくらにいます。ぼくのがっこうは、ゆくはしょうがっこうです。ぼくがなぜゆくはしにきたかというと、あかちゃんのときから、ゆくはしにあそびにくると、かよみねえちゃんがきょうかいにつれていってくれました。それからだんだん大きくなって、しんぷさまのおはなしがすきになりました。そしてカトリックようちえんにいきたくなったので、おとうさんとおかあさんにおねがいしてぼくだけゆくはしのおばあちゃんのうちにすむようになりました。ようちえんでおともだちがたくさんできたので、しょうがっこうもゆくはしにしました。ぼくはあさおきてからイエズスさまにおいのりします。「きょうもたのしくすごせますように」と、おいのりします。がっこうからかえってきたらすぐ「イエズスさまただいま」といいます。がっこうでいやなこと、かなしいことがあったときイエズスさまにおはなしします。そうしたらなんだかうれしくなります。うれしいことがあったときもおはなしします。そうしたら、もっともっとうれしくなります。よるのおいのりは、かよみねえちゃんといっしょにします。ときどきロザリオのいのりもします。ぼくがおいのりをきちんとしないとき、かよみねえちゃんに「ゆうき、きちんとおいのりしなさい。こころからおいのりしなさい。」としかられます。おとうさんといっしょにごはんをたべるとき、じゅうじのしかたがおかしいといってしかられるときがあります。そんなときぼくはおとうさんもおかあさんもしんじゃでないのになまいきな、とおもうときがあります。でもほんとうは、おとうさんもおかあさんもはやくイエズスさまのことをしって、しんじゃになってほしいとおもいます。おばあちゃんばちいさいころ、日ようがっこうにいったときのおはなしをしてくれます。イエズスさまのことをよくしっています。でもいえでいちばんイエズスさまのことをしっているのは、かよみねえちゃんです。そのつぎがぼくです。ぼくは、おとうさんとおかあさんとまさきにいちゃんとみゆきねえちゃんといとこのあみちゃんに、イエズスさまのおはなしをときどきしてあげます。ぼくはもっともっとイエズスさまのことをしりたいです。そしておとうさんとおかあさんがゆくはしにひっこしてきたら、きょうかいにつれていってあげたいです。

五年　村松　泰隆（戸畑）

ぼくの家族は、八人家族です。家族の特ちょうといえば、家族のみんなが信者ということです。ぼくの霊名は、ペトロです。ぼくは、ペトがいつでもどこでも、イエズス様のことを話をしながら、イエズス様にしたがってついて行くので、とてもすばらしいイエズス様の弟子だなあ、と感心しました。だから、ペトロの名前を授かったので、とてもうれしいです。

ぼくのお父さんはお医者さんで、毎日、患者さんのぐあいを見てあげています。だから、お父さんはとてもつかれきっていて、一分もいっしょに遊ばないときがほとんどです。

教会のいろいろの仕事や聖歌隊などに入っていて、ほかの人達といっしょに活躍しています。

ぼくのお母さんも、毎日、いそがしそうに家のお仕事をしています。

教会の仕事では、土曜学校の先生をしていて、みんなによくわかるように教えています。そのほか、いろいろな仕事をしています。

ぼくは、夜、ねる前になると、いつも、ベッドの中で旧約聖書を読んで、最後に、一日の反省と感しゃのいのりを必ずやってねています。

聖書を読むのは、かんたんだけど、その読んだことを実行するのは、とてもむずかしいです。

家族でおいのりをするときは、だいたいお父さんがおいのりをすすめています。

ときたま、お父さんがいないときは、お母さんやぼくが、すすめたりする時があります。

これから先も、家族の心、世界の心がいっちして、もっと心から神様を愛して、熱心な信者になる家族になれるように努力していきたいです。

********映画********

すばらしい友達　アントニーノ

人間は社交的動物であるから、人生の旅路をひとり歩きするのは困難である。誰でもすばらしい友達を見つけたい、すばらしい友達になりたい望みをもっている。

この映画の主人公は、アントニーノ（愛称ニーノ）という、元気でませた、いたずら坊やである。やさしい母親の傍で生活するニーノにとって、一つの不満があった。それは友達をもたないことであった。また、かれの小さな贅沢の夢は、海を見ることであった。この二つの夢は、仲々現実のものになってくれない。ニーノの最初の友達は、ほら穴にかくされていた幼子キリストの彫像や、不思議な十字架の形をした木の丘に住む羊飼いであったが、その喜びも束の間のものになる。母とともに、新天地をもとめてマドリードに行くことになったからである。

多くの友達を期待した旅立ちであったが、見事に打ち破られてしまう。その上、最愛の母の事故死にあって、ひとりぼっちになったニーノには、生きる希望がかげりはじめる。その矢先、ニーノの失望的な手紙を読んだ学校の友達は、前とは別人のように、すばらしい友達になってかれの二つの夢をみたしてくれる。すばらしい友達は、人生の良薬であることを教えてくれる一時間二十分の映画である。すばらしい友達になりたい、と努力したニーノに光が見えてきた。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1―22―28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

祈禱の使徒会
(一般) 交通規則の尊守
(布教) 病者による布教協力

研修と親睦の教区司祭大会

今日の最高を明日の最低にする

私が変われば世界も変わる
指導者の再教育人作りを問う

年間行事として定着した教区司祭大会が、〝共に現在社会の動きを語り合おう〟をテーマに、十一月十七日の午後三時から十八日の正午まで、熊本県限蘇都小国町の杖立温泉〝ひぜんや〟であった。

この日、十一月の気温にしては珍らしく温暖でうっすら汗ばむほどであったが、四十人以上の参加者は、緑なす杉林と対照的に紅葉化したカラフルな雑木林の景観を賞でながらマイカーで集合した。

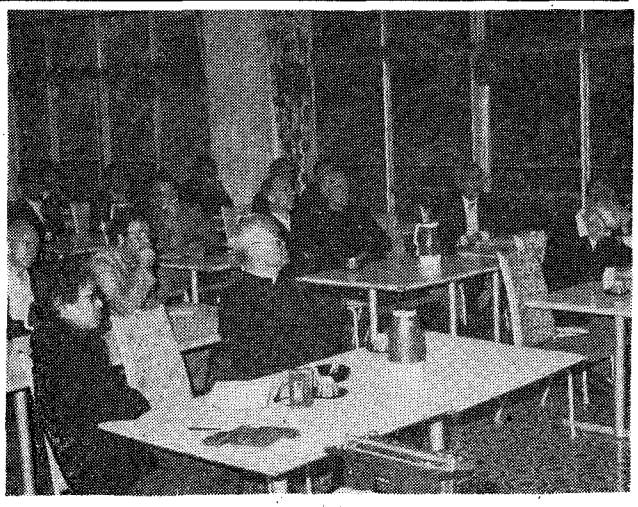
一日目は午後四時六分、司教の挨拶からはじまった。種々の事情から研修会の日時に変動があったことを詫び、講師の紹介に移った。「講師は経営コンサルタントで、中小企業のリーダーたちの再教育とくに、会社の発展に協力する部下を上手に動かす幹部の人作りを指導している。このことは、教会のリーダーである私たちにも基本的に共通するのではないだろうか。そういう意味で皆川先生を講師としてお願いした」と述べた。

午後四時十分から、講話「私たちは何をしているか」を聞く。一時間三十五分の講話の中心は、〝私が変われば世界も変わる〟、リーダーである私の革新の必要性についてである。立派な社長であれば企業は発展する。企業の成功のためには、社長以下全社員の調和のとれた全人格の発展が先決となる。第二次大戦を境にして物(科学)は上昇線を辿り、心(精神)は下降線を画いている。中でも、二十代の人において物と心のアンバランスは甚だしい。そこから二十代と五十代の人間関係の断絶の危険を読み取ることができる。ダイナミック・マネジメント・プログラムによる企業の調和・革新の必要性が考えられるのである。

企業組織の革新力を構築するには基本理念、実践理念をしっかり把握した上で、指揮力の革新—判断力の革新—統率力の革新—全人格力の革新—輔佐力の革新—社風の革新—人材育成力活用の革新などがある。リーダーの人格と環境が革新されると行動力は倍増することになろう。算数的な表現を借りれば、例えば10+2+3=15であったものが10×2×3=60に発展できる。現代人の原型は日本人、現代人、人格人、国際人の調和の中にあると思う。そして全人格の領域は、理性、知性、感性、霊性を含んでいなければならない。講話後三十分の質疑応答があった。夕食は親睦会を兼ねて賑やかに行われ、のど自慢うで自慢が披露された。

研修会(立っている人、皆川先生)

二日目は八時、共同ミサ、九時三十五分から十一時二十分まで、訓練システムの紹介があった。思想的には、自主独立、自由奔放に学ぶ—メクラ航海をつづける・スケジュールを予告しない—頭、心、気力、体力を使う—すべてに徹底する—友情を貫く—今日の最高を明日の最低にする—静かに自己を内省する。人を輔佐するとは、すばらしい人を助ける(助けることに生命をかける)ことである。補佐(欠点ある人を補う)の意に解すべきでない。水を飲まない馬に飲むようにしむけるのが良いリーダーのしるしであるとすれば、社員が自から水を飲み、心の窓を開いて、積極的に行動する人物になるよう仕込む社長が必要である。今日の成功だけで満足せず、明日はそれ以上を目指す意気ごみが肝要である。具体的方法として、自由グループ編成—問題の作成、伝達、解答—追放、解除—ポンチ絵—安全パトロール。また、大リーダー制—討論の活用—言力鍛練—体操—自己修了式などを通して称讃と叱咤を織り交ぜる。このようにしてリーダーの人格と環境を革新していく。講話に続いて竹森師の国内移住問題の報告があり、中食後解散、帰途についた。



研修会

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)
TEL 代表 092(521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

神様、僕を司祭にして下さい
今年も盛大だった召命の集い

サン・スルピス大神学院主催恒例の「召命の集い」は、さわやかに晴れた秋空のもと、「神様、ぼくを司祭にしてください」をテーマに、十一月三日、大神学院で盛大に開催された。

今年の「集い」は、小学生男子と父兄を対象に企画されたが、参加者は福岡教区からはもちろん、長崎、大分、鹿児島、広島教区、そして今年初参加の那覇教区からまで集まり、その数はこれまで最高の六百人に及んで主催者側を喜ばせた。

十時四十分の開会式にひき続き、参加者全員と神学生によって埋めつくされた大神学院聖堂で、福岡教区長平田三郎司教を中心に多くの参加司祭による「召命祈願」の共同ミサが荘厳にささげられ、参列者一同、心を一つにして司祭召命の恵みを熱心に祈った。

昼食後、子供たちは広いグランドで神父様方や神学生たちと種々の楽しいレクリエーションに興じ、父兄たちは山内院長の「司祭召命について」の特別講演を聞き、司祭の生き方、司祭召命における両親や一般信者の役割についての認識を新たにした。

召命の集い

神学生たちは子供たちの世話をする一方、大神学院内案内や、神学校生活を中心に司祭職への途を紹介したスライドによって、司祭職への呼びかけとともに理解と協力を求めたが、とくにスライドは、子供の頃から小神学校、大神学校を経て司祭に叙階されるまでの過程が詳細かつていねいに説明されており、仲々好評で深い印象を与えた。

三時の閉会式後、参加者たちは「来年また来ます」と再会を約し別れを惜しみながら、一日の疲れも全く見せないでにこやかに手をふる神学生たちに見送られながら帰途についた。

会合と催し

☆平田　司教
12月1日　聖クララ修道院礼拝堂の祝別
2日　司祭月例集会・評議会
7日　飯塚教会堅信
10日　大濠幼稚園落成式
☆福岡黙想の家
12月6/8日　海星女子学院
6/7日　待降節黙想会
26/1月2日　個人指導の黙想会

十二月年忌の司祭

▼ヤコボ・マグラ神父（コロンバン会）一九七六年十二月十八日熊本マリスト学園付司祭
▼パウロ青木功神父一九七三年十二月十九日元行橋教会主任
▼ミカエル・ソーレ神父（パリ外国宣教会）一九一七年十二月二十日元久留米教会主任

無力の私たちを神の道具に
80年CLC九州大会（熊本）

十一月一/三日、信徒福音宣教をテーマに熊本厚生年金会館で開かれたこの大会には、九州各県のほか、福山、広島、松山、徳島、名古屋の有志六十人が、熱心に黙想と分かち合いのうちに、信徒福音宣教の使命に対する神の聖旨を求め、信徒としての日常生活の見直しと決意を新たにした。

福岡教区長平田三郎司教を囲む和気あいあいの一日の夕食会のあと、司教の講話でスタート。神のいつくしみを味わい、弱い無力の私たちを神の霊と力の道具として働かせてくれる宣教の姿を意識した第一日。黙想の訓練と、「生活のあかし」「宣教的祈り」「金銭的援助」「ことばの宣教」の各分野において、信徒福音宣教をさぐる黙想と分かち合いの第二日。第三日はイエスが受難の前夜、汗を血のように流して祈った祈りのうち、私たち信徒のための祈り―「わたしはあなたから賜った栄光を彼らに与えました。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。わたしが彼らにおり、あなたがわたしにおられるのは、彼らが完全に一つになるためであり、またあなたがわたしをお遣しになったことと、あなたがわたしを愛してくださったように、彼らをも愛したことを、この世が知るためです」。（ヨハネ17の22―23）―を黙想した。

この日の一致のミサは、一同の心を柔く解きほぐし、主において一つになった心の熱気を互いの胸に伝え合い、心を一つにした信徒の集団に聖霊の神秘的力が働くことを体験した。午後の全体会議は参加者全員が心を開いて語り合い明日から各自の小教区へ戻って、日本カトリック司教協議会信徒使徒職委員会の企画に協力して、具体的に信徒福音宣教の第一歩を踏み出す約束をして散会した。

布教の日献金（10月19日）

大名町	105,300	呼子	10,700	田川	7,040
浄水通	32,015	佐賀	15,000	新田原	36,658
箱崎	11,000	唐津	10,150	荒尾	8,000
東田島	18,800	伊万里	5,000	人吉	11,000
大楠	5,982	武雄	2,320	本渡	12,000
茶山	7,200	鹿島	1,250	健軍	12,000
高宮	48,016	多久	3,000	帯山	10,000
老吉	16,000	門司	25,000	水俣	5,500
吉塚	18,513	門司港	12,785	大江	13,197
古賀	15,374	小倉	58,719	大崎津	12,000
二日市	13,000	湯川	26,561	島崎	28,000
久留米	42,484	戸畑	35,580	玉名	12,500
大牟田	6,000	若松	6,500	菊池	35,535
吉野	2,250	天神町	40,000	大神学生	13,333
今村	196,640	黒崎	14,000		
本郷	20,000	八王寺	8,000		
小郡	6,135	水巻	13,710	合計	1,095,302
馬渡島	7,600	飯塚	18,000		

飛脚

☆十一月二日午後二時から、福岡・大橋カトリック納骨堂で、平田司教は数人の司祭と共同ミサを捧げ、信徒とともに死者の「永遠の安息」を祈った。

☆十一月九日午前十一時、熊本・立田山カトリック納骨堂で、死者のためのミサが行われた。

☆神の民の司牧的訪問の旅を続けているヨハネ・パウロ2世教皇は十一月十五/十九日まで、西独各地を訪問し、熱烈な歓迎をうけた。

☆サン・スルピス大神学院は十一月十九日午前十時三十分、平田福岡、石神那覇、深堀高松の三司教をはじめ多数の参加司祭の共同ミサをもって、盛大に大神学院祭を祝った。今回は、四人の銀祝司祭と十年目を迎えた一人の司祭をともに祝う行事となった。銀祝組は京都・村上真理雄師、横浜・伊藤淑雄師、福岡・畠山七郎師、長崎・岩永薫師（欠席）の四司祭であった。

☆十二月七日午後一時から、福岡市中央区今川の礼拝会で典礼研修の例会が行われる。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役　社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 531―1231

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657

落成の喜びに沸く小神学校

在りし日の恩師を偲びつつ

去る五月から、解体工事ならびに増築工事で騒音八害の厄介ものとされていた福岡小神学校の増築校舎がめでたく完成し、十一月十三日午前十一時から、平田司教の手によって祝別された。

落成式には工事関係者のほか、司祭や修道者、信徒も見え、司祭の苗床の前途を祝し合った。既報のとおり、当初計画では祝別式を駐日バチカン大使ガスパリ大司教に…ということであったようであるが、眼疾のため来福できなかったことは残念であった。

今回の増築部分は一一三坪といわれているが、既存の校舎一八八坪も全体的に化粧を仕直し、防災工事などでかなりの修復・模様替えをしているため、新築建造物の観を呈している。

現在、新しい学舎には、福岡教区十二、高松ドミニコ会志願者三、鹿児島教区二の計十七人の小神学生が二人の神父と起居を共にして学習に励んでいる。

昭和七年四月十一日、大名町教会の伝道館に小神学校の産声をあげてから四十八年目の、小神学校の偉容を見るにつけ偲ばれるのは、偉大な先覚者たちの姿である。厳しかった、しかし心から愛してくれた天国の恩師の顔が浮ぶ。

小神学校祝別式

小神学校新校舎

神の秩序の再建に信徒の参加

信徒使徒職委・九州地区集会

信徒使徒職委員会九州地区集会は、十月二十五～二十六日の二日間、福岡默想の家で開催された。

東京の事務局より杉田、深水の両師、鶴巻氏と広瀬さん。地元より青木師と地方委員の松尾、山田、鬼木の三氏、教区信徒協会長高木氏さらに福岡・北九州・佐賀・熊本・長崎・鹿児島より地区信徒協と活動団体の代表など三十七人が参加した。

二十五日午後七時から、自己紹介と各自がかかえている使徒職の当面の問題について、福音の面から討議が行われた。

特に、「信徒使徒職」とは信徒の使徒職であり、そこに「の」を入れることによって明確になる。それは神の救いにあづかっせ、神の秩序をたてなおすことに信徒が参加し、行いによって「あかし」となることなどが話された。

二十六日は九時から、杉田師の基調となる講話があった。その中でルカ七章三十一節の例を引いて、イエスが、その人の明日に希望をかけておられる。私たちは人に対し「人ごとではない」という気持をどれだけ持っているか。日本人は農耕民族の生活から来た「赤の他人」という気持を多く持っているが、これでは愛の実行はむつかしいのではないか、との話しがあった。

ついで十時より、ヴィンセンシオ・ア・パウロ会の湯川協議会会長中村初利氏により、会の実践報告が具体的に話され、老人を訪問して感じたことなどが報告された。そしてこのことを中心に三分科会に分かれて、各人の使徒職の実践にひきあわせて討議をした。

中食時には、平田司教が姿を見せて参加者に励ましの言葉をおくった。

午後一時からは、カトリック労働者運動（A・C・O）の桑原美鈴さんより主婦として、生活協同組合を通して隣人をつくり得たこと。これからさらに身障者の母親を知り、人のいたみを感じたことなどの報告があり、午前と同様に三分科会に分かれて熱心に討議を重ねた。午後三時から、平田司教を中心に参加の司祭の共同ミサがささげられ、参加者一同使徒職への決意を新たにして散会した。

かれらも一つであるように

祝創設二十五周年の行橋教会

行橋教会は、十一月九日午前十時から平田司教を迎えて、小教区創設二十五周年を祝った。又、記念行事の一環として巡回教会の豊津教会敷地に手がけていた行橋・豊津カトリック納骨堂が完成し、午後二時から祝別式を行った。

行橋教会が新田原教会より小教区として独立したのは一九五五年である。前年六月、行橋町（現在行橋市）神田町にあった淫裁学校を教会として購入したが、八月十五日聖母被昇天祭にデュノワイエ神父（翌年行橋教会の初代主任となる）によって初ミサが挙げられている。そのミサに十人位の信者が見えていたという。一九五五年十一月二十七日、深堀司教司式の献堂式があり、三位一体に捧げられた。豊津教会も巡回教会となっている。翌年、幼稚園を設置す。一九六一年一月、現在地教会及び幼稚園の建設にかかり、三月に幼稚園が完成している。又、七月十六日、現在地教会の献堂式が深堀司教によって行われた。一九六四年五月、行橋教会ボーイスカウト第一団、七月にはガールスカウト福岡第二団を発足させ、宣教活動の足場を着々と準備している。一九六七年六月、デュノワイエ神父の戸畑転任のため、北海道からアインシャルト神父が着任した。一九六八年八月、豊津巡回教会新聖堂の祝別式が行われた。一九七〇年六月、青木功神父が大楠教会から赴任したが、三年六カ月の短かい司牧で病気のために帰天したのは惜しまれる。（一九七三年十二月十九日永眠行年四十九歳）。一九七四年三月、小郡教会より岩永神父が就任、教会活動も内外ともに熱気にみちみちている。涙のうちに蒔いたものは大きく成長していて、信徒数五三〇人となる。

任意保険に加入してから車の運転を致しましょう、
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5－4－12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　TEL 272－0671

祭壇・洗礼盤他
石材素材
石の理想の大御所
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

「私の家庭」入賞作文（3）

六年　中本保子（小倉）

私の家族は八人家族です。いつも学校で、先生が「三人家族の人」とおっしゃってクラスの家族の人数を調べられる時に、そして「まだ手をあげてない人」とおっしゃられる時に、私は手をあげて「八人家族です」、と答えます。すると、クラスの人が「わあ、多い」とか「たくさんいて楽しいでしょう」とかいってびっくりします。でも、いつもは五人家族です。なぜかと言うと、三人の兄は熊本の学校におり、連休の時にしか帰って来れません。私はなぜ自分だけが兄弟が多いのかわかりません。

ある日、お母さんが話してくれました。むかし、お母さんはとても体が弱くて、赤ちゃんなんか生めそうになかったそうです。けれども、お母さんは一生けん命おいのりをして、お恵みをいただきたいとねがっていたそうです。二番目の兄さんが生まれるときは、どちらが助かるかとお父さんや親せきの人たちはとても心配でたまらなかったそうです。けれど、お母さんはぶじに出産し、あかちゃんもぶじだったのでみんなでよろこんだそうです。そして、ある時お母さんはお友達から、今の時代に子供をたくさんもつのは最大のぜいたくだと言われたそうです。でも、お母さんは、どんなに子供が多くてもぜいたくをせずに一つのものをみんなで分け合っていただけば、おたがいに助け合う心ができると思っているのです。だからようふくやくつ下についても、おねえさんには、「下の保子ちゃきょう子にきせるのだから大事にきなさいよ」、と言います。今私がつかっているさんこう書も高三の兄がつかっていたもので、もう私で五人目です。何事もこの有様です。だから、妹や私はときどき、「新しい洋服を買って」、と言ったり、「もうこのくつはけんよ、買って」、といってねだります。けれど、これからはお下がりでもがまんしてきたりはいたりしようと思います。そして最後に、家族はやっぱり多い方がいいです。それは、相談したいとき兄弟がいるとすぐ話せるからです。

五年　小正路真由美（行橋）

私の家庭は四人家族でわらいにあふれています。お母さんと弟と私はカトリック信者ですが、お父さんはカトリック信者ではありません。

教会には、私が家で一番に「行って来ます」、と言って出て行きます。お母さん達は、いつもおそく来ています。でも、このごろお母さんが病気になり、弟もこられなくなりました。なぜ、と言うのは、弟はまだ五歳で、カトリックのようち園にやっと行ける年になったぐらいだから、教会に一人でバスに乗って行けるわけがありません。お父さんはカトリック信者ではありませんが、たまに、私といっしょに教会に来ます。そういうお父さんはとても大好きです。私はお父さんをカトリック信者にしたい、といつも思っています。

朝早く起きて教会に行く事は、ほんと言って、とてもつらい事です。でもなぜか、いつも行きたくなるのです。神父様はいつも神様の事を教えてくれるし、日曜学校の先生の話しもよくわかります。神父様は大人の人にも神様の事を教えてくれて、カトリック信者にしてくれます。私はお父さんを信者にしてほしいです。

夏休みに子供のもく想会があります。私は夏休みの宿題も忘れて、いちもくさんにかけつけます。そのときは出校日にかさなっても、絶対に学校を休んで行きます。教会はいい事を教えてくれます。お父さんもいい人だから、きっと神様が信者にしてくれると思います。私はこれからもがんばって教会に行って、お父さんのためにぎせいをささげます。それから、早くお父さんがカトリック信者になるように、ぎせいやお祈りをたくさんしたいと思います。

六年　平田こずえ（小郡）

わたしの家族は六人です。ほんとは八人なのだけれど、父がいなくて、一人はもうおよめにでています。その六人の中でわたしは末っ子で、なにしろ、一人兄をはなして後はみんな女の姉ばかりなのです。いちばん上の姉とは、12も年れいがはなれています。とにかく、一人ひとりがいろんな性格をもっています。でも心だけは、この家族全員の中で強く生きつづいています。母を中心として、毎日を明るく、楽しく、過ごしています。

母は46歳、和さいの仕事をしています。毎日朝早くから夜おそくまで、わたしたちの生活を守ろうと必死で働いてくれています。でも、時々そんな母を、わたしたち兄弟が悲しませることもあります。わたしたちのちょっとした悪い行動が、母を二倍分悲しませることになるのです。こんな時、父がいてくれたら、母の相談相手になってくれたら、母の悲しみは一倍ですんだことでしょう。わたしたちも母を助けるつもりで悲しませてはならないのだけれど、どうしても母を泣かせてしまう。

時々、姉たちから「あんたはどうして生まれてきたとね。どっかへ行き、帰ってこんでよか」、と言われていた。その時まで、姉はおもしろ半分で、じょうだんのつもりでいったようなのだけれど、わたしがまだ小さいころそういうことといわれた後、ほんとに悲しかった。わたしはおばの家から帰ると中、牛乳の三本のびんをかた手にやっと持ち、もうかた方には姉のわすれていた教科書をぎっしりと持ち、どうにかこうにか暗い道を帰っていた。けれども、家に近くなった時、大工さんがおいていた材木に足をひっかけて、頭からセメントにつっこんでしまった。それで、牛乳びんはわれ、でもおき上れなくてじっとしていると、姉がわたしのなき声に気がつき出てきてくれた。わたしはそれから先はおぼえていなかったのだけれど、其の時姉は急いでおばの家まで母をよびに出かけ、顔色をかえて半分はなき顔で、ふるえてこう言ったそうです。

「こずえが、顔が血だらけ早く」、となにかはっきりと言えなかったそうです。今考えると、いつもわたしを追い出したいというロぶりで話している姉にあてはめるとおかしくて、わらいそうだったけれど、本当は、そんなに心配してくれた姉たち、兄母、とてもみんなの気持ちがうれしい。こんなわたしでも、やはり、家族が心配してくれる、してくれている。

わたしの家庭、それは六人の一人ひとりが力を合わせて母といっしょに助け合ってくらしている。六人だけれど、みんなが一つにかける心は同じだ。みんなの力、心がこもっているからこそ、家庭というものがつくりあげられていくんだ。

クリスマスが近づく！

悔い改めと愛の証しをしよう。

教皇ヨハネ・パウロ2世の訪日が近づく！

第二のフランシスコ・ザビエルを心から歓迎し、世直しをしよう。

将来の道を考えるつどい

主よ貴方の道を示して下さい

日時　12月26日（金）夕方から
　　12月29日（月）昼まで
指導　メディナ師（イエズス会）
対象　女性信徒
費用　五、〇〇〇円
ところ申込先　〒815 福岡市南区塩原九一　聖心のウルスラ修道会
12月20日迄にハガキ又は電話で左記へ
TEL〇九二―五二一―〇〇三三

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1―22―28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568